

# 平成 27 年度

# 事業報告

## 目 次

I 組織運営	( 1 )
II 重点事業	( 5 )
III 事業報告	( 16 )
【経営管理課】	
総務係	( 16 )
白百合福祉作業所	( 27 )
かたくり福祉作業所	( 33 )
豊玉障害者地域生活支援センターきらら	( 42 )
石神井障害者地域生活支援センターういんぐ	( 50 )
【地域福祉課】	
ボランティア・地域福祉推進センター	( 56 )
権利擁護センターほっとサポートねりま	( 66 )
練馬障害福祉人材育成・研修センター	( 74 )
生活サポートセンター	( 78 )
資料	( 82 )



## I. 組織運営

### 1. 法人運営

#### (1) 役員および評議員等（平成28年3月31日現在）

区分	理事	監事	評議員	相談役
定数	15名	2名	37名	若干名
現員数	15名	2名	37名	1名

#### (2) 会議関係

##### ア. 理事会

年月日	内容
H27.5.25	(1)平成26年度 事業報告について (2)平成26年度 収入支出決算について (3)平成27年度 収入支出補正予算について (4)規程の制定および改正について (5)評議員の選任について
H27.9.29	(1)平成27年度 収入支出補正予算について (2)経理規程の改正について (3)地域福祉活動計画について (4)どんぐりの家について
H27.12.7	(1)次期評議員の選任について (2)平成27年度収入支出補正予算について (3)規程の制定および改正について
H28.2.7	(1)会長・副会長の選任について (2)相談役の選任について (3)評議員の選任同意について (4)第4次地域福祉活動計画(案)について (5)社会福祉法改正に伴う練馬区社会福祉協議会の今後の取り組みについて (6)規程の改正について
H28.3.22	(1)平成27年度 収入支出補正予算について (2)平成28年度 事業計画について (3)平成28年度 収入支出予算について (4)定款の変更について (5)規程の制定および改正について (6)貸付金の償還免除について (7)施設長の任命について

##### イ. 評議員会

年月日	内容
H27.5.25	(1)平成26年度 事業報告について (2)平成26年度 収入支出決算について (3)平成27年度 収入支出補正予算について (4)規程の制定および改正について (5)理事の選任同意について
H27.9.29	(1)平成27年度 収入支出補正予算について (2)経理規程の改正について (3)地域福祉活動計画について (4)どんぐりの家について
H27.12.7	(1)次期理事および監事の選任同意について (2)平成27年度 収入支出補正予算について (3)規程の制定および改正について
H28.2.8	(1)理事会報告 (2)第4次地域福祉活動計画(案)について (3)社会福祉法改正に伴う練馬区社会福祉協議会の今後の取り組みについて (4)規程の改正について
H28.3.22	(1)平成27年度 収入支出補正予算について (2)平成28年度 事業計画について (3)平成28年度 収入支出予算について (4)定款の変更について (5)規程の制定および改正について (6)貸付金の償還免除について

##### ウ. 監事会

年月日	内容
H27.5.16	(1)平成26年度事業報告について (2)平成26年度収入支出決算について

## 2. 会員・会費・寄付等の状況

### (1) 会員・会費

※ ( ) 内は前年度との比較増減

区 分	対 象	件 数	金 額
正 会 員	個人 (年会費 500 円以上)	2,450 名 (189 名減)	2,282,700 円 (64,600 円減)
特別会員	個人 (年会費 3,000 円以上)	728 名 (54 名減)	2,406,000 円 (207,000 円減)
団体会員	町会自治会、施設団体等 (年会費 5,000 円以上)	273 件 (25 件増)	4,823,335 円 (141,485 円増)
計		3,451 件 (218 件減)	9,512,035 円 (130,115 円減)

### (2) 寄 付

※ ( ) 内は前年度との比較増減

区 分	件 数	金 額
一 般 寄 付	263 件 (30 件増)	78,531,172 円 (29,016,267 円増)
ボランティア・地域福祉推進センター 寄付	20 件 (2 件増)	287,588 円 (38,408 円減)
計	283 件 (32 件増)	78,818,760 円 (28,977,859 円増)

### (3) 積立金・基金

#### ア. 積立金

名 称	積立金額	目 的
財源調整積立金	316,870,210 円	予想できない大きな収入減、あるいは支出増に備え、年度間の財源を調整し、財源の安定を図る。
運用資金積立金	20,000,000 円	年度当初において、区の補助金等の収入が確保されるまでの間、法人運営に必要な資金に充てる。
退職給与引当金積立金	211,238,069 円	将来的な退職金の支出に備え、退職金の積立を行う。
計	548,108,279 円	

#### イ. 基 金

名 称	基金額	目 的
ボランティア基金 (昭和 61 年度設置)	209,389,352 円	地域福祉の向上を目指し、民間ボランティア活動の育成助成を目的とする。
福 祉 基 金 (平成元年度設置)	259,869,359 円	自主財源の確立により事業運営の安定を図るとともに、計画性ある活動の維持・推進を目的とする。
碓井ミヨシ基金 (平成 3 年度設置)	85,218,979 円	故・碓井ミヨシ氏の遺志により、高齢者福祉の向上に役立てることを目的とする。
長尾幸作基金 (平成 4 年度設置)	200,000,000 円	故・長尾幸作氏の遺志により、低所得者への修学育英資金と一時的な生活困窮者の救済のための法外援護緊急たすけあい事業を目的とする。
福祉の森の燈火基金 (平成 5 年度設置)	10,000,000 円	区民の福祉向上、特に高齢者の介護の質的・量的向上に対する助成および育成を目的とする。
計	764,477,690 円	

### 3. 第4次地域福祉活動計画の策定・推進

#### (1) 「地域福祉活動計画策定・推進評価委員会」の開催

第4次計画の策定・推進を目的に委員会を設置し、平成27年度は5回開催した。第4次地域福祉活動では、さらなる地域福祉活動の推進を目指して、地域の福祉を進める人たちを地域福祉協働推進員（ネリーズ）と位置づけ、募集を行い、地域の課題や良いところを共有するための機会として懇談会を実施した。また、区の地域福祉計画の策定が27年度内に延長されたことに伴い、第4次計画の策定も地域福祉計画に合わせて進めることにした。

開催	年月日	内容
第1回	H27.4.17	1. 練馬区地域福祉・福祉のまちづくり総合計画について 2. 第3次地域福祉活動計画26年度進捗状況報告 3. 平成26年度委員会実績報告 4. 第4次地域福祉活動計画策定について
第2回	H27.6.17	1. 練馬区地域福祉・福祉のまちづくり総合計画について 2. 第4次地域福祉活動計画素案について 3. 第4次地域福祉活動計画までのスケジュールについて 4. 地域福祉協働推進員について
第3回	H27.8.24	1. 練馬区地域福祉・福祉のまちづくり総合計画について 2. 第4次地域福祉活動計画素案について 3. 地域福祉協働推進員について
第4回	H27.10.27	1. 第4次地域福祉活動計画（案）について 2. 第4次知育福祉活動計画（案）説明会・パブリックコメント報告 3. 第4次地域福祉活動計画概要版（案）について 4. 地域福祉協働推進員（ネリーズ）について
第5回	H28.2.19	1. 第4次地域福祉活動計画（本編、概要版、資料編）について 2. 地域福祉協働推進員（ネリーズ）推進の取り組みについて 3. 第4次地域福祉活動計画の推進評価について

#### (2) 「推進部会」

地域福祉活動計画の推進と評価を行うため、社協の各部署職員で構成する部会。各部署、各委員会の地域福祉活動計画の取り組みの内容や進捗状況の把握を行った。全15回。

第4次計画では、地域福祉コーディネーターと新たに創設した「地域福祉協働推進員」が協働し小地域福祉活動の推進を図れるよう、懇談会などの検討、実施した。また、多くの住民に参画してもらえるよう地域福祉協働推進員を広く呼びかける方法の検討を行った。

#### (3) 委員会活動

第4次地域福祉活動計画の推進にあたり、委員会を設置し推進を図った。

※詳細はP.5【委員会活動】参照

相談業務課題調整委員会、広報委員会、実習委員会、安全対策委員会、財源検討委員会、どんぐりの家（土支田の家）運営委員会への支援

#### (4) 活動計画推進の評価

第3次計画の推進・評価より、重点的取り組み項目であった「小地域福祉活動の推進」と「人材育成の充実」は相互につながりがあることを確認したため、4次計画では別項目に立てることなく人材育成も含めた「気づき」「育ちあい」の視点をもって小地域福祉活動の推進に包括して取り組んだ。

#### 4. 苦情解決制度

利用者・相談者からの苦情に対する体制を整え、利用者・相談者の権利を擁護するとともに、事業の改善と信頼確保を図るため、平成 15 年度から第三者委員による苦情解決制度を設けている。

平成 27 年度は、苦情受付担当者会議を年 4 回開催し、各部署で受けた苦情内容の情報共有を行うとともに、苦情傾向の分析を行った。また、苦情解決第三者委員及び苦情受付担当者会議を年 2 回開催し、苦情解決第三者委員に事業改善のための意見を求めた。また、苦情解決第三者委員による施設巡回を行い、施設利用者や家族からの相談を受けた。

##### (1) 事業実績

苦情解決第三者委員・苦情受付担当者会議

開催	年月日	内 容
第 1 回	H27. 6. 5	平成 26 年度下半期苦情報告、第三者委員福祉施設巡回報告、情報交換 他
第 2 回	H27. 11. 30	平成 27 年度上半期苦情報告、第三者委員福祉施設巡回報告、情報交換 他

苦情解決第三者委員による福祉施設巡回

白百合福祉作業所	利用者家族との懇談 1 回 (H27. 9. 18) 利用者との個別面談 1 回 (H28. 2. 17)
かたくり福祉作業所	利用者との個別面談 1 回 (H27. 8. 10) 利用者家族との懇談 1 回 (H28. 1. 8)
豊玉障害者地域生活支援センターきらら	利用者との個別面談 2 回 (H27. 7. 25、H28. 2. 27)
石神井障害者地域生活支援センターういんぐ	利用者との個別面談 2 回 (H27. 8. 22、H28. 3. 19)

##### (2) 苦情等の内容分類

苦情	職員の接遇	6 件
	事業の進め方	21 件
	社協の事業内容	7 件
	制度	7 件
	被害・損害	0 件
	権利侵害	0 件
	その他	3 件
要望・意見	25 件	
社協事業外	13 件	
計	82 件	

##### (3) 苦情対応状況分類

助言	5 件
謝罪	14 件
説明	33 件
紹介・伝達	3 件
申し立て受付・他の解決制度案内	3 件
その他	24 件
計	82 件

##### (4) 苦情分析結果

平成 24 年度以降、事業の拡大や職員の増員が行われた中でも、苦情件数の大きな増加はなかった。加えて平成 27 年度は前年度に比べ 45%の減少となっており、日頃の取り組みの大きな成果であると考えられる。苦情減少の要因としては、平成 25 年に苦情の再定義を行ったこと。また、事業を正確に周知するための周知方法の工夫や、職員が事業内容の理解を深めるための研修の実施、相談のスキルアップを図るための研修への参加など各部署で様々な取り組みの工夫を図ったこと。さらに苦情等への迅速な対応、および苦情内容や今後の対応についての職員間の情報共有などの取り組みに注力したことが考えられる。要望・意見に関しても、40%の減少となっており、反映できるものはできる限り事業に反映してきた今までの取り組みが減少要因となっているのではないかとと思われる。

苦情内容の分類割合を見ると、平成 26 年度は、9%であった「社協の事業内容」や「制度」について 32%となっており、81%を占めていた「職員の接遇」と「事業の進め方」については 61%に減少している。このことが苦情対応の「説明」が増え、前年度の「謝罪」の割合との逆転につながっていると思われる。

## II. 重点事業

### 【練馬区社協全体の取り組み】

平成 27 年度は、新たに策定した第 4 次地域福祉活動計画を踏まえ、以下の取り組みを重点事業として位置づけ、地域福祉の向上に取り組んだ。

#### 1. 第 4 次地域福祉活動計画の策定と重点的な取り組み

第 3 次計画の重点的な取り組みである「小地域福祉活動の推進」、「人材育成の充実」について達成状況を踏まえて、区の地域福祉計画に合わせて第 27 年度に第 4 次地域福祉活動計画を策定した。重点事業として住民が地域福祉向上に取り組む「地域福祉協働推進員」（通称 ネリーズ）を創設し、社協、住民が協働して地域福祉向上への取り組みを始めた。

「小地域福祉活動の推進」においては、引き続き地域福祉コーディネーター（社協職員）を配置し、それだけでなく、改正介護保険法により新たに創設された生活支援コーディネーター業務、区の新たな施策である見守り拠点推進事業を受託し、全て『地域福祉コーディネーター』と名称を統一し取り組んだ。第 3 次計画の重点事業だった「人材育成の充実」については、住民向けにボランティア講座、専門研修、社会貢献型後見人の養成研修等を開催し、継続して住民リーダーの発掘・支援を行い、福祉の担い手や協力者を増やし、地域福祉の向上を担う住民の人材発掘と育成に取り組みを始めた。

#### 2. 継続した重点的な取り組み事業・運営

「指定管理受託施設・受託事業の安定した運営」「区民本位のサービス提供と社会福祉協議会の知名度や好感度向上」「相談業務の充実と職員のスキルアップ」に継続的に取り組んだ。特に情報セキュリティ対策と労務環境の改善を図った。また、法人業務は、会計・人事・社会保険などを適切に行うため専門家と連携し、適切に行った。

#### 3. 新規事業への取り組み

介護保険制度の改正とともに配置された「生活支援コーディネーター」を区から受託し、介護人材の発掘、また区の新たな施策である見守り拠点推進事業を受託し、今までの取組みと合わせて「地域福祉コーディネーター」と総称し、その役割を担い、小地域福祉活動推進に取り組んだ。

#### 4. 社会福祉法人改革の動向を見据えた社会貢献事業についての検討

社会福祉法の改正および社会福祉法人改革の動向を踏まえ、区内社会福祉法人によるネットワーク、連絡会づくりを呼び掛けた。また、社会福祉法改正について、東京都社会福祉協議会や全国社会福祉協議会の職員から全国的な流れなどの情報提供を行った。さらに各社会福祉法人の社会貢献の取り組みを紹介し、28 年度以降、地域の社会福祉法人が連携して社会貢献に取り組むモデルを提起した。

### 【委員会活動】

第 4 次地域福祉活動計画の推進にあたり、社協の各部署を越えて計画を推進する必要のある事業は、委員会を設置して推進を図った。

#### 1. 相談業務課題調整委員会

練馬区社協が効率的・包括的に相談を受け止め、解決していくために、組織内連携システムの構築を目指して下記の事業に取り組んだ。

また、組織内連携の達成状況を確認するため、社協職員にアンケート調査を実施し、連携における相談・調整機能が委員会に求められていることを再確認した。そして、組織内連携を進めるため、各部署で受けた相談や連携事例を共有する取り組みを始めた。

##### （1）拡大ケース検討会の定期的開催

広く地域の福祉関係者に呼びかけてケース検討会を 2 回行ない、具体的な事例を通して、関係機関との情報共有・連携の大切さ、課題の捉え方や解決に向けた支援のあり方等を学び、相談支援のスキルアップを図った。

日時	内容	対象者	場所	参加人数
H27. 8. 27 18:00~20:50	「関係性を築きにくい方への支援と課題整理のしかた」(生サポ)	社協職員、 地域の福祉関係者	区役所アトリウム 地下多目的会議室	62名
H28. 2. 4 18:00~20:50	「発達障害を持つ中学生と母親への支援」(大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー)	社協職員、 地域の福祉関係者	石神井公園 区民交流センター 展示室兼集会室	48名

※スピーカー：神奈川県立保健福祉大学教授、東京ボランティア・市民活動センター所長 山崎美貴子氏

## (2) 人材育成の取り組み(「福祉人材育成」事業への協力)

各部署で出された課題を吸い上げ、練馬障害福祉人材育成・研修センターの人材育成に協力する事が課題として残った。

## (3) 相談解決に役立つ資源マニュアルの改訂版「練馬区社協職員向け相談解決ナビ」の作成

相談解決に役立つ資源マニュアルの改訂版「練馬区社協職員向け相談解決ナビ」の内容を更新した。改訂版は平成28年3月に作成し4月配布。

## 2. 広報委員会

社協の理念、事業への理解を拡充するために、社協の拠点を活かした積極的な広報活動を展開した。

### (1) キャラクターを活用した広報活動の積極的な展開

ア. 地域住民や団体のニーズを聴き取りながら、バルーンタイプのネリー着ぐるみ1体を計画的かつ積極的に活用した広報活動を精査し行った。「社協広報担当評価シート」を有効的に活用し、来年度のイベントの参画方法の方向性について検討した。広報派遣イベント数：主催7回・地域イベント28回(地区祭6カ所、練馬ファミリーまつり、練馬まつり、練馬こども笑店街、ねりまこぼしハーフマラソン等)

イ. 社協だよりにおいて、地域福祉協働推進員(ネリーズ)の紹介・募集を行うとともに、キャラクターのイラスト缶バッジを活用した取り組みを周知した。

### (2) 職員誰もが社協をPRするための仕組みづくり

ア. 練馬区社協を知るはじめての役割として、部署紹介やキーワード検索を導入し住民が読みやすい新しいパンフレットを製作した。また、第4次地域福祉活動計画で小地域福祉活動を協働してすすめていく地域福祉協働推進員(ネリーズ)の募集を内容に盛り込んだ。

イ. 広報活動に関わるスキルアップを図るため、東京新聞と全社協主催の研修を受講し、研修内容を共有した(研修参加4名)。全職員が広報活動を展開できるように「委員会活動マニュアル」を更新した。

### (3) 既存の広報媒体の見直しと、効果的な活用

ア. 社協だよりをより見やすい読みやすい内容になるように検討し、リニューアルを行った。

イ. 第4次地域福祉活動について地域住民に広く周知するため、活動計画冊子と連動した内容のタブロイド版社協だよりを新聞折り込みで3月に配布した(24.3万部)。効果を図る目的でクイズを実施し、23通の応募があった。

## 3. 実習委員会

福祉の人材育成の一環として資格取得等を目指す学生を受入れた。また、実習を円滑に効果的に実施し受入れ体制の強化ならびに環境を整えることを目的として、部署間の調整や実習受入れ担当者向けの研修を行った。

### (1) 実習の効果を高めるための取り組み

ア. 振返りや面談の際にヒアリングを丁寧に行い、実習生の不安や疑問の解消を行うとともに、委員会で検討し対応する事でさらに学びを深められるよう取り組んだ。

イ. 養成校の実習報告会(9校)に参加し、情報交換会で得た内容を共有し、実習受入れの質の向上に努めた。

ウ. 実習受入れ校の実習プログラムに関する調査研究や講師派遣に協力し学校との連携を強めた。

### (2) 実習生受入れ体制の充実

ア. 実習指導者講習会の受講をすすめ、5名の職員が受講した。

イ. 実習受入れが決定した養成校に対し実習説明会を実施し実習内容の周知・情報交換等を行った。

ウ. 実習受入れ担当者向けに「実習記録を考える」研修を継続して行い、実習の中で活用できるよう学んだ。

### (3) 実習生の受け入れ

- ア. 社会福祉相談援助実習 18名
- イ. 精神保健福祉援助実習 6名
- ウ. 保育士実習 2名
- エ. 見学実習等 2校 4回 44名
- オ. 介護等体験 11名
- カ. 地域看護実習等 9名

### (4) 新任職員向け内部研修

練馬区社協への理解をより深めるとともに、職員同士の連携強化を目的として、新任職員（主に入職3年未満）に対し、練馬障害福祉人材育成・研修センターと連携して研修を行った。（平成27年度：11名）

## 4. 安全対策委員会

災害時の練馬区災害ボランティアセンター開設に向けた組織的な対応の検討や大規模災害対策対応マニュアルの整備及び社協内の情報共有を進めるため検討を行った。

### (1) マニュアル・ミニマニュアルの整備と対応

大規模災害対策対応マニュアル/練馬区災害ボランティアセンター立ち上げマニュアル<基礎編>については、「練馬区社会福祉協議会大規模災害対策事業継続計画（BCP）」へ、<実務編>については「練馬区社会福祉協議会大規模災害対策練馬区災害ボランティアセンター立ち上げ・運営マニュアル」に整理し、内容を見直し、改訂に着手した。

また、ミニマニュアルを改訂し、日常の心得7カ条、勤務時間内外の災害発生時の対応および各部署のBCPを掲載した。

### (2) 職員向け研修の開催

日時	内容	対象者	場所	参加人数
H27. 7. 27 18:30~20:45	「練馬区における防災計画と社協職員として考えるべきこと」～ワークショップでともに考え、共に学ぶ～ 講師：内村達也氏（練馬区危機管理室区民防災課 区民第二係 係長）	社協職員	区役所本庁舎7階 防災センター	52名
H28. 1. 28 18:30~20:50	「災害時における情報発信について」～情報発信ツールの活用を共に学び、共に考え活かしていく～ 講師：加納佑一氏（東京ボランティア・市民活動センター）	社協職員	区役所本庁舎19階 1902会議室	38名

### (3) 訓練への参加および開催

練馬区災害ボランティアセンター開設訓練については、練馬区福祉部管理課と練馬区区民危機管理室区民防災課と練馬区社協との合同で、前回の検証をふまえ、より効率的に実施し、訓練後には参加者から感想や意見を集約し、マニュアルに反映させることとした。今回は情報活用研究会の協力により、運営に必要な掲示物の拡大機器も利用した。また、近隣の町会・自治会、障害者当事者団体にも訓練の参加を呼びかけ、練馬区災害ボランティアセンターの役割と機能を周知した。（訓練参加者69名）

各部署においては、町会自治会や近隣施設等と連携しながら、避難訓練や防災訓練等を実施した。

### (4) 各部署の備品の確認と整備

各部署で備蓄してある災害用備品リスト一覧を改訂し、災害時活用できる備品一覧を作成した。

### (5) 地域とのつながりを意識した取り組みを検討する

各部署事業の中で、地域の災害対策に関わるイベントや会議に参加した。また、ボランティア・地域福祉推進センターとともに地域住民向けの災害シンポジウムを開催した。さらに区内都立高校の防災学習「災害ボランティアセンター体験」に協力した。

## 5. 財源検討委員会

計画的・安定的に財源を確保していくための方策を検討し、継続して社協全体で財源獲得に向けた取り組みを強化していくために、プロジェクトチームから委員会に組織改編をして活動の充実を図った。

### (1) 会員会費の課題に対する取り組み

- ・事業計画書・事業報告書を用いて練馬区社協の予算と支出について勉強会を開き、理解を深めた。
- ・近隣地区社協における財源の状況等の把握をし職員の意識向上を図った。
- ・募金・会費・寄付の状況を把握し、全職員に周知を図った。

## (2) 社協の財政状況の現状把握と会費加入強化月間の取り組みの推進

- ・職員の会員加入率100%を継続し、職員一人ひとりが地域福祉への理解の促進と社協賛同者を増やすための活動を通じて、安定的な自主財源確保に向けた「みなもとアクション」としてイベントでの周知活動や新たな募金箱の設置場所を5ヶ所開拓した。

## (3) 「会員感謝の集い」の開催

会員の方々への日頃の感謝を伝えるとともに社協の事業を理解してもらう機会として「つながろう 広げようココロのわ」を開催した。募集定員を上回る申し込みがあり多くの方から好評を頂いた。社協会員新規加入14名とネリーズの登録も4名あり、作業所自主製品の販売やネリーグッズ抽選会も盛況であった。

日時	内容	対象者	場所	参加人数
H28. 1. 26 14:00 ~ 16:30	社協会員の集い「つながろう広げようココロのわ ～笑う門には福来る～落語で実感！笑いのチカラ」 三遊亭楽春氏を招き開催をした。 また、社協の事業紹介と第四次地域福祉活動計画より「ネリーズ」についての説明を行った。	社協 会員	Coconeri3階区民 ホール	191名

## (4) 職員向け情報誌「みなもと通信」の発行

「みなもと通信」を年3回発行し、募金箱の写真に掲載するなど視覚的に効果的な紙面作りに取り組み、練馬区社協の財政状況や課題などへの職員の意識の向上を図った。

## 6. どんぐりの家（土支田の家）運営委員会への支援

寄付を受けた土支田地域の戸建て家屋「どんぐりの家」の建物を地域に貸出すための契約形態や鍵の管理方法について6月より検討をはじめ、10月1日に地域住民や町会等で構成された「どんぐりの家 管理委員会」と練馬区社協の間で、『建物使用貸借契約』を締結し、鍵の引き渡しを行った。契約に先駆けて、玄関アプローチの段差解消や手すりの設置を行い、家屋に隣接している駐車スペースに掲示版の設置工事を行った。

また、「どんぐりの家」が地域のつながりづくりの拠点となるための活用方法について協議・検討するために地域住民（町会、老人会、民生・児童委員、青少年育成委員など）が立ち上げた活用検討委員会と運営委員会に名称変更し引き続き参加した。運営委員会では活用方法に加えて運営体制についても協議・検討し、「どんぐりの家・会則」の作成等、側面的な支援をおこなった。

### (1) どんぐりの家祭り

地域住民への「どんぐりの家」の周知を目的に、5月9日（土）10:00～16:00「第1回 どんぐりの家 祭り」、11月7日（土）10:00～15:00「第2回 どんぐりの家 祭り」を開催した。町会や地域住民、地域の施設等の協力を得てバザーや喫茶、竹細工教室、そば・パン等の販売を行い、近隣住民を中心に50名を超える来場者があった。今後も年2回をめぐりに開催していく。

### (2) ふれあいサロン

10月から毎週水曜日 10:00～16:00にサロンを開設した。参加費100円でお茶やお菓子を提供し、年代や性別、障害の有無などに関係なく誰でも寄り合える場を提供している。1月27日には、高齢者相談センター育秀苑支所から講師を招いて介護保険に関する勉強会をサロンで開催した。

## 【各部署の事業】

### 1. 総務係

第4次地域福祉活動計画に基づいた地域福祉活動推進に取り組み、社協の役割と機能を住民に分かりやすく伝える広報・情報提供の充実に努めた。また、法人経理業務や人事・労務の管理体制について見直しを図り、危機管理・安全対策や事業規模の拡大に対応した安定的な法人運営を図った。

事業	内容	実績・効果等
(1) 社協事業への理解と賛同者を増やす取り組み	会費・寄付・募金等自主財源の安定的な確保に向けて、住民、民生児童委員、町会・自治会、団体、施設、企業、関係者への積極的な働きかけを行い、社協事業への理解と賛同を広げる取り組みを推進した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財源検討委員会とともに「会員の集い」を開催した。(参加者 191 名)</li> <li>・地域イベントへの参加を増やし、地域団体との協働やキャラクターを活用した練馬区社協の周知活動を充実させた。</li> <li>・練馬区のキャラクター「ねり丸」と社協キャラクター「ネリー」とのピンバッジを赤い羽根共同募金の寄付つき商品として製作し広報活動を充実させ、募金実績も増収を達成した。</li> </ul>
(2) 法人運営体制の強化	法人経理業務や人事・労務の管理体制について見直しを図るとともに、各部署と連携しながら、情報セキュリティ対策を徹底し、事務の効率化と危機管理体制の充実に進めた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人経理業務について顧問による往査を実施した(年 10 回)。受託事業運用の確認を行い、昨年度から導入している新会計基準のシステム活用等を改善した。また課税対象とされる事業の消費税納付について区と協議の上、法人全体の整理を行った。</li> <li>・適切な人事・労務管理のために、社会保険労務士と、現状に即した就業規程の改正を進めた(年 18 回)。</li> <li>・個人番号制度施行に伴い、研修やセミナー等で、来年度の導入のための情報収集を行った。就業規程を整えるとともに、体制図や業務フローを作成し、管理区域および取扱い区域を設置、セキュリティ対策を講じた。また、社会保険労務士による事務担当者を対象とした勉強会を開催した。</li> <li>・ストレスチェック制度的な実施に向け、医療機関および産業医を交え、実施体制の調整をすすめた。</li> <li>・職員が使用するパソコンのログインパスワードを定期的に変更し、情報セキュリティ体制の強化に努めた(年 2 回)。</li> <li>・個人情報等の取り扱い方法について、チェックシートをもとに部署全体で定期的共有した(年 4 回)。</li> </ul>
(3) 既存事業の見直し	介護保険法や区事業の動向を踏まえ、既存事業の見直しを行うとともに、社協に求められる役割について検討を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合支援事業が開始したことに伴い、今後の在宅サービスの在り方等について、他区社協の聞き取り調査や現在の利用者傾向など調査を行った。</li> </ul>

### 2. 白百合福祉作業所

就労継続支援B型事業所として利用者本位の質の高いサービス提供に努め、障害を持つ利用者が暮らしやすい地域を目指し地域交流の充実に努めた。

事業	内容	実績・効果等
(1) 利用者支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>①利用者一人ひとりが力を発揮できるよう作業環境を整えた。</li> <li>②利用者一人ひとりが、達成感や</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①作業体制の充実</li> <li>・長年受注をしている業者から新規作業を受注するとともに計画的な作業受注に努め、工賃アッ</li> </ul>

	<p>やりがいを感じて作業に意欲的に取り組めるよう図った。</p> <p>③利用者および家族が安心して生活できるよう、福祉サービス等の情報提供や関係機関との連携を進めた。</p>	<p>ブにつなげた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの協力により地域住民向けのさをり教室を試行し、次年度の実施形態を固めた。</li> </ul> <p>②「週末ミーティング」を実施し一週間の作業の振り返り、次週の予定の確認とともに各自の頑張ったところの発表などを行った。</p> <p>③施設見学会(12/1)、マイナンバーに関する勉強会(1/20)など実施し、身近なサービスや制度についての情報提供を行った。</p>
(2) 地域とのつながりを深める	<p>誰もが豊かに生活していける地域を目指して「ともに生きるまちづくり活動」に取り組んだ。</p> <p>①利用者が地域で多様な活動に参加する機会として、利用者自身によるボランティア活動をすすめた。</p> <p>②福祉に関心を持つ人を増やすための福祉教育への協力や、地域住民を対象とした学習会を行い、ともに学び合う機会とした。</p> <p>③利用者がより豊かに地域で生活できるよう、地域住民を積極的に受け入れ、相互理解を深めるよう努めた。</p>	<p>①利用者地域活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣小学生の通学見守りと地域清掃を兼ねた「白百合見守りウォーキング」を実施した(年間 49 回)</li> <li>・石神井公園駅清掃活動に町会や地域活動団体とともに参加した(年間 10 回)</li> </ul> <p>②ともに学ぶ機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が講師となり地域学習会を実施して近隣小学生や民生・児童委員と交流を深めた(年間 2 回)</li> <li>・体験ボランティアや体験学習、実習生を積極的に受け入れた。</li> </ul> <p>③施設公開を実施し地域住民に普段の作業所の様子を知ってもらい、理解を深める機会とした(年間 3 回)</p>
(3) 災害対策の充実	<p>利用者や地域住民の視点も取り入れた、発災時に実効性のある対策の検討を進めた。また、災害時に地域住民と協働できるよう関係作りを図った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しらゆり安全委員会のメンバーで防災訓練の振り返りやAED講習会への参加などを行い防災の意識を高めた。</li> <li>・BCP(事業継続計画)をもとに被災時を想定した非常食の準備や試食、移動器具(担架・車いす)の使用体験などを行った。</li> <li>・AED講習会の企画・実施、町会の防犯講習会へ参加した。</li> </ul>

### 3. かたくり福祉作業所

多機能型施設として、利用者へのより良いサービス提供を目指し作業環境の改善と利用者支援の充実を図った。また、家族への情報提供の充実に努め、関係者・地域と連携した。

事業	内容	実績・効果等
(1) 利用者支援の充実	<p>利用者の主体性・個別性を大切にしたい支援の充実を図った。</p> <p>また、一人ひとりの作業等への意欲を高め、安心して作業に取り組むことができるように作業環境や作業内容を整備した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が希望する新作業(ポスティング作業)の試行的な導入や販売会等に、積極的に参加した。(かたくりマーケット、地域のまつり、委託販売等 年 68 回)</li> <li>・B型の作業室を再編し、利用者全員が安全・安心して作業ができる環境を整えた。</li> <li>・新規企業7社からの作業受託と共同受注により、作業種類の充実と安定した作業提供に努め、工賃アップにつなげた。</li> </ul>
(2) 地域との関係づくりの拡大	<p>利用者が地域に出向く機会を増やし住民等が福祉に関心を持つきっかけづくりをすすめた。また、地域住民や町会、学校等での交流を深め、だれもが安心して暮</p>	<p>①地域団体や高齢者施設のイベント等で歌や踊りを披露する等、積極的に活動した。(3回)</p> <p>②住民が気軽に立ち寄れるかたくりマーケットを定期的に開催した。(年 11 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民と交流するきっかけとして、地域講座</li> </ul>

	<p>らせる地域づくりをともに行った。</p> <p>①利用者が地域社活動推進の担い手となる取り組みを検討した。</p> <p>②交流を深めるきっかけづくりとして住民に施設を知ってもらう取り組みを充実させた。</p> <p>③地域で育ち合う環境づくりに取り組んだ。</p> <p>④安心・安全な地域づくりのため、地域住民や団体とともに活動した。</p>	<p>「歌声広場」を開催した。(33名参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設公開2回に加え、初めて近隣の福祉園と同時施設公開を行い作業所の様子を知ってもらう機会とした。(計34名)</li> <li>・「夏休みかたくり探検ツアー」を実施し、利用者と一緒に作業を行い、作業所や障害について理解する機会とした。(計24名)</li> <li>③福祉教育・ボランティア・体験学習等の内容充実と小・中・高校の連続性のあるプログラムの体系化を検討した。近隣小学校の展覧会で、自主製品や利用者の折り紙作品の展示をし紹介や交流を行った。</li> <li>④地域の防災活動等(防災訓練・流し踊りパレード、防災教育委員会)の参加や地域の児童・生徒の緊急避難所(ひまわり110番)としての見守り活動を行った。</li> </ul>
(3)多機能型施設としての連携強化	<p>多機能型施設として、就労継続支援B型と就労移行支援事業(ジョブサポートかたくり)の相互支援体制の充実を図った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新作業や受託作業における相互連携により作業体制を整備した。</li> <li>・就労を希望するB型の8名の利用者がジョブサポートかたくりが施設外作業を行っている企業に見学に行くとともに、ジョブサポートかたくりで実施している「生活支援プログラム」に参加(2回)し働くために必要なことを学んだ。その内の2名の利用者が、ジョブサポートかたくりで5日間の就労移行体験実習を行った。</li> </ul>

#### 4. 豊玉障害者地域生活支援センター きらら

障害者本位の質の高いサービスを提供する事業所「相談支援事業所(指定特定・指定一般)」「地域活動支援センターI型」を目指し、基幹相談支援センターとしての役割を担い、機能の充実を図った。

事業	内容	実績・効果等
(1)相談支援事業の充実	<p>基幹相談支援センターの役割を意識して、地域の中核的な役割を担った。</p> <p>①障害者地域自立支援協議会専門部会高齢期支援部会を開催し、地域の課題についての具体的な検討・協議を行った。</p> <p>②家族会や地域の相談支援事業者等との連携を強化し、研修会の開催や相談支援事業についての説明会等を行った。</p> <p>③ソーシャルワーカー、医療関係者と連携を密に取り、入院・入所者の地域移行と定着支援を行った(地域移行支援・地域定着支援)。地域の障害者の福祉に関する総合的な相談を受けた。</p> <p>④練馬区と連携し、保健相談所主催関係者連絡会や障害福祉サービス提供事業所への計画相談支援の説明会等を実施した。</p>	<p>①年3回開催し、高齢期を迎える障害者と家族への支援の方策等を検討・協議した。</p> <p>②家族会主催の勉強会参加、他団体と共催でのSST勉強会(5回)、家族会向け電話相談対応勉強会(1回)、障害年金勉強会(1回/27名)等を行った。</p> <p>③個別支援(面接・同行支援・グループワーク)54回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域移行支援契約:2件</li> <li>・地域定着支援契約:3件</li> </ul> <p>④関係者機関連絡会の参加、計画相談支援の説明会の講師をつとめる等の活動を通して、情報交換、計画相談の理解を深める活動を行った。</p> <p>練馬区精神障害者共同作業所連絡会3回、北・光が丘地区関係者連絡会3回、豊玉地区関係者連絡会2回、民間相談支援事業者等説明会5回</p>

(2)福祉のまちづくりへの貢献、地域福祉人材の育成	<p>誰もが住みやすい地域づくりに向け、顔の見える地域交流と関係づくりを行い、支え合いや見守り活動を推進した。</p> <p>①地域イベントへの参加・協力 ②地域貢献活動の継続実施 ③地域の人材の発掘・育成・支援</p>	<p>①地域の6カ所のイベントに参画し交流を深めた。(商店街振興組合、施設のイベント参加・見学等：延べ229名)</p> <p>②花くらぶ(園芸プログラム/年48回)駅前・商店会、デイサービス等街の花壇を整備し美化活動を行った。 ・まちづくりや商店会の会議等参加21回、(街清掃、ねりま子ども笑店街等)ボランティア受け入れ延べ375名</p> <p>③地域向けSST、及びに「誰でも参加できるSST」を開催した。また、「SSTリーダー初級研修」を開催した。 合計9回 延べ177名参加</p>
(3)当事者主体の活動の支援	<p>①当事者(サポーター)が主体となり、プログラムや活動を企画し運営できるよう支援を行った。</p> <p>②ういんぐと協働で実施している退院促進事業において、入院者に向けた情報紙を年1回発刊した他、「作業所紹介マップ」の改訂作業を行った。</p>	<p>①音楽を語る会、囲碁教室、外出プログラム等を開催し、当事者活動の充実につながった。 延べ206名参加</p> <p>②地域生活サポーター(ピアサポーター)養成講座毎月開催延べ143名参加 ぴあまっぷ：年1回1,200部発行、延べ97名参加 作業所紹介マップの改訂： 作業所インタビュー延べ44名参加</p>

## 5. 石神井障害者地域生活支援センター ういんぐ

障害者本位の質の高いサービスを提供する事業所「相談支援事業所(指定特定・指定一般)」「地域活動支援センターI型」を目指すとともに、基幹相談支援センターとしての役割を担い、機能の充実を図った。

事業	内容	実績・効果等
(1)相談支援事業の充実	<p>基幹相談支援センターとして、地域の相談支援事業者と連携し、相談支援の中核的な役割を担った。</p> <p>①基本相談支援 ②障害者の自立した生活を支え、抱える課題の解決や適切なサービスの利用に向け、関係機関と連携し支援した。 ③地域生活への移行に向けての支援を行った。(地域移行支援・地域定着支援) ④障害者地域自立支援協議会専門部会を開催し、地域の課題についての具体的な検討を行った。 ⑤練馬区と連携し、基幹相談支援センターとしての機能の充実を図り、地域の相談支援体制の強化に取り組んだ。</p>	<p>①相談実績 ・電話相談：延べ11,664件 ・面接相談(予約・随時)：延べ3,446件</p> <p>②電話や面接等で関係機関との連携を図った：延べ4,471件</p> <p>③地域移行・定着支援 ・地域移行支援計画を4件作成し、精神科病院、地域のサービス事業者等と連携を図った：延べ239件 ・地域定着支援に向けて、関係機関の会議等へ参加した。合計8回</p> <p>④障害者地域自立支援協議会地域移行部会：精神科病院の入院者・施設入所の障害者の地域移行・定着支援の課題について協議した。3回開催</p> <p>⑤練馬区と連携し、事例検討会やサービス等利用計画作成時の注意点等の研修会を実施した。区内26カ所の相談支援事業所の職員を対象に2回実施。</p>
(2)当事者主体の活動の支援	<p>①当事者が主体的にプログラムや活動を企画し、運営できるように支援した。</p> <p>②地域移行支援等において、ピア(仲間)が自分たちの経験を活</p>	<p>①利用者懇談会の充実、当事者同士の交流会やプログラム、イベント等への参加促進。イベント実行委員会の実施(延べ124名)</p> <p>②地域生活サポーター養成講座：延べ143名参加 ・ぴあまっぷ：年1回1,200部発行、延べ97名</p>

	かし、地域で活発に活動できるように支援した。	参加 ・作業所紹介マップの改訂：作業所インタビュー 延べ：44名参加
(3) 福祉のまちづくりへの貢献、地域福祉人材の育成	誰もが住みやすい地域に向け、地域交流と、支え合い学び合いの環境づくりを推進した。 ①地域交流や地域貢献活動を通じて互いの関係構築を図り、地域での支え合いや見守り活動を推進すると共に、顔の見える関係の構築をすすめた。 ②地域で共に活動できる福祉人材の発掘・育成に取り組んだ。	①地域の清掃や花壇の整備等を毎週水曜日に実施。商店会・町会主催のイベントに運営から携った。 防災活動や夜警、他施設のイベントへの参加し、日常からのつながりを構築した。 ②障害への理解を深める「精神保健福祉講座」(41名参加)福祉人材の発掘・育成を目的とした「精神保健福祉ボランティア講座」の開催(11名参加)。 ・ボランティアの受け入れ：延べ185名・交流会の実施：26名参加

## 6. ボランティア・地域福祉推進センター

住民による主体的な課題解決に向けて、地域の人材を育成・支援するとともに地域の仕組みづくりやネットワークの構築を図った。また、災害時の「災害ボランティアセンター」運営に向け、関係機関や住民との連携を強化した。

事業	内容	実績・効果等
(1) 地域の課題を住民が主体的に解決できる地域づくり	①センター・コーナーの各拠点において、小地域福祉活動を推進し、住民が主体的に地域課題を発見・共有し、解決できるように取り組んだ。 ②ボランティア活動推進のノウハウを活かし地域福祉活動推進に取り組み、住民や団体と協力して地域の課題解決を目指し、取り組んだ。	①豊玉・光が丘地区においてはこれまでの取り組みを継続しつつ、周辺エリアへの展開も始めた。また、他の地域においても住民懇談会や関係者連絡会等の開催や行政、関係機関等との情報交換を通して、課題の整理や解決に向け取り組んだ。 ②地域に心配な子育て中の親がいるという相談から始まった子育て部会の中で勉強会を提案する等、課題の整理・解決に向けて取り組んだ。 ・ボランティア講座や高齢者支え合い育成研修を通して地域の活動者を増やし、活動団体を活性化することで地域の課題解決力の向上に努めた。
(2) 災害時に備えた取り組み	①「災害ボランティアセンター」を円滑に運営できるよう準備を行った。 ②「災害ボランティアセンター」の機能と役割の周知を図った。	①「災害ボランティアセンター」の運営に備え、訓練に参加する近隣自治会、障害者団体、行政や関係機関等と情報交換や意見交換(9回)を図ったうえで、訓練を1回実施した。マニュアルの改訂に着手し、訓練結果を反映させた。 ②災害シンポジウムの開催や地域活動団体主催の防災学習会等への参加(3回)を通して「災害ボランティアセンター」の機能と役割の周知を行った。また、災害ボランティアコーディネーター養成講座開催に向けて、区民防災課や避難拠点運営連絡会等と情報交換を行った。
(3) 地域の人材育成	地域福祉推進のために地域の中で様々な役割を担い、活動する地域住民の発掘・育成・支援に取り組んだ。	他機関等と連携しながら活動のきっかけとなるボランティア講座(7回)や地域福祉パワーアップカレッジねりま等の練馬区の事業への参画、講座等の企画・開催に携わり、参加者と継続的に関わりながら活動につなげた。

## 7. 権利擁護センターほっとサポートねりま

高齢者や障害者の自己決定や地域生活を支援していくとともに、練馬区における成年後見制度推進機関として、必要な方に適切に制度・事業の利用がにつながるよう周知普及の強化を図った。社会貢献型後見人の養成・支援、後見監督人の受任、および成年後見人等への支援のさらなる充実を図った。

事業	内容	実績・効果等
(1) 福祉サービス利用援助事業推進の充実	専門員と生活支援員の協働による個別相談ケースへの取り組みや実践を通し、地域生活支援の視点を持った取り組みを行った。また、支援を必要としている人に事業が行き渡るよう、関係機関と連携して周知普及の強化を図った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生児童委員や町会・自治会の役員などに協力を依頼し、利用者の生活を地域で支えるしくみづくりを行った。</li> <li>・利用者に避難拠点について説明し、自宅に避難拠点までの地図を設置、関係者会議で説明、共有した。</li> <li>・関係機関の会議や勉強会に講師派遣を行い、事業説明を行った（13回実施）。</li> </ul>
(2) 成年後見制度の広報周知・利用支援機能の強化	地域住民や関係者と連携し、わかりやすい情報提供を行うとともに、必要な人へ制度が行き渡るよう、周知普及の強化を図った。また、福祉・法律等の専門職や関係機関、地域住民等とのネットワークを強化し、相互に連携、協働する仕組みやシステム体制の充実を図った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関の会議や勉強会に講師派遣を行い、制度説明や相談会を行った（27回実施）。また、区民向けに講演会を開催した（2回実施）。</li> <li>・専門職と関係機関による「成年後見ねりま地域ネットワーク会議」を開催し（2回実施）、情報共有・事例や制度課題の検討を通して関係者同士の相互理解が深まり実務ベースでのネットワーク機能の強化が図られた。</li> <li>・成年後見制度推進NPO法人と連携し、関係機関の勉強会に協働で講師派遣を行った（1回実施）。</li> </ul>
(3) 社会貢献型後見人の周知および養成・支援	区独自の社会貢献型後見人養成事業の2年目にあたり、昨年度のカリキュラムを見直して充実を図るとともに、社会貢献型後見人の活動について周知を行った。また、後見受任後の活動を後見監督人として支援する機能の充実を図った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・延 78 時間の研修を提供し、報告書等を通じてフィードバックを行う環境づくりを行い、養成研修受講者（4名）にとって疑問を残さないように職員がフォローし、質の高い研修となるよう努めた。</li> <li>・養成研修の内容に応じて、広く区民や関係者にも研修を案内し研修を有効に活用した（延 171 名参加）。</li> <li>・社会後見型後見人の意義や役割について、より多くの方に理解していただくため、受任経験者により活動報告会を行った（37名参加）。</li> <li>・社会貢献型後見人の後見業務を適切に支援するため、顧問弁護士への相談・確認を行いながら後見監督業務のマニュアルの改訂・更新を行った。</li> </ul>

## 8. 練馬障害福祉人材育成・研修センター

「障害福祉サービスを担う人材育成と事業所におけるサービス提供の質の向上を図ること」を目指して事業を運営した。「学習支援事業」に関しては、受講者のニーズを考慮しスキル研修を新たに設定した。「連携支援事業」としては3地区において地域密着型連携支援における情報交換会を定期的に開催した。また、社協の内部職員対象に階層別、部署別の研修を行い、社協職員としての資質・知識及び能力の向上に努めた。

事業	内容	実績・効果等
(1) 学習支援事業の充実	①事業者向け研修において研修の組立を明示し従事者がより目的に沿った研修を受講しやすくした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①事業所向け研修を基礎研修 50 回、階層別研修 26 回実施した。研修参加人数 683 名。</li> <li>②区民向けに新たに啓発研修「マイフレンド講座」を実施。講義と体験の 2 日間研修とし開催した。</li> </ul>

	②障害福祉に、より理解を深められるように区民に対し新たな啓発研修を実施した。	参加者 22 名
(2) 連携支援事業の充実	区内の障害者福祉サービス事業所の中堅職員のネットワーク構築を図った。	豊玉・練馬地区、6回、西大泉・南大泉地区5回、石神井地区5回、情報交換会を開催した。リーダー養成研修受講者同士の連携する場を新たに作った。勉強会7回
(3) 職員向け内部研修の更なる充実	内部職員の資質向上に向けた社協内部研修の階層別体系化の充実を図った。	管理職の研修体系を確立し、職層全ての研修を体系化した。また研修体系に沿って新任研修、中堅(前期)職員研修、中堅(後期)職員研修、管理職研修を各1回ずつ実施した。 その他各部署の課題に即した部署別研修を実施した(1回)

## 9. 生活サポートセンター

開設して2年目を迎え、また生活困窮者自立支援法が施行されるにあたって様々な生活課題を抱える方が課題解決を図れるようにネットワークを構築しながら地域で支える仕組みづくりに取り組んだ。

事業	内容	実績・効果等
(1) 相談支援の充実	①多様な相談に対応できるよう職員の専門性を高めるための取り組みを行った。また、部署を超えて取り組むことで、社協全体の相談技術の底上げをした。 ②生活困難な方の早期発見のために地域の町会や民生児童委員に周知を行った。	①社会保障制度など生活困窮者に関連する研修を企画し、他部署の職員も参加し実施した(年4回)。また、実践から学ぶ機会として8日間の現場研修を専門機関に依頼し、実施した。 ②積極的に情報共有を行うために、民生児童委員協議会での説明や福祉事業者、地域団体等に出向いて、制度や事業の周知を図った。また、企業等からの問い合わせに対し、事業の説明をすることで理解を得た。
(2) 地域のネットワークづくり	相談を受ける中で顕在化した地域課題を明確化し、地域で活動している団体や関係機関とネットワークをつくり、地域で支える仕組みづくりを検討した。	練馬区社協として実施する「社会福祉法人等の社会貢献事業におけるネットワークづくりに向けた連絡会」に、担当者として加わり、連絡会を企画・開催した。また、当センターに寄せられた相談内容から社会福祉法人等に地域資源の活用必要性を伝え、一緒に地域で支える取り組みについて検討していくよう協力を依頼した。

### Ⅲ. 事業報告

#### 【経営管理課】

法人運営機能の充実及び指定管理施設の安定的な運営を目指した事業に取り組んだ。

#### 【総務係】

住民に対し社協の総合的な窓口となることを目指して、組織が円滑に運営できるように法人運営全般の業務を行った。

#### 1. 法人運営

- (1) 定款・規程の定期的な見直し
- (2) 労務環境の整備
- (3) 適切な経理事務を進めるための仕組みの構築
- (4) 個人情報保護
- (5) 情報安全対策

※上記(1)～(5)については、P.9 1. 総務係(2) 法人運営体制の強化 参照

- (6) 苦情解決

※P.4 4. 苦情解決制度 参照

#### 2. 情報提供の充実と広報活動の推進

##### (1) 広報誌『社協だより』の発行

No.	発行月	発行部数	配布先	掲載内容
151	7月	27,000部	社協会員、町会自治会、民生児童委員、福祉施設団体、学校、行政機関他	①会員募集②平成27年度事業計画・予算③平成26年度事業報告・決算④地域福祉団体紹介⑤寄付者紹介他
152	11月	27,000部	社協会員、町会自治会、民生児童委員、福祉施設団体、学校、関係行政機関他	①会員の集い開催について②ネリーズになろう③ネリーのまち歩き④地域福祉団体紹介⑤赤い羽根共同募金・歳末たすけあい運動募金協力依頼⑥助成団体紹介・助成事業案内⑦寄付者紹介他
153	3月	243,000部	社協会員、町会自治会、民生児童委員、福祉施設団体、学校、関係行政機関、新聞折込(主要5紙)	①社協紹介②「ネリーズ」ってどんな人?③プレゼント企画④赤い羽根共同募金・歳末たすけあい運動募金報告⑤会員の集い報告⑥寄付者紹介他

##### (2) リーフレットの改訂・社協ガイドブックの活用

部署紹介やキーワード検索を導入し、読みやすい新パンフレットを製作した。各種イベントの際にはパンフレット等を配布し広報に努めた。 ※P.6 2. 広報委員会 参照

##### (3) ホームページを通じての情報提供

練馬区社協ホームページを随時更新し、福祉作業所でのイベント、研修・講座、地域のお祭り等の開催、募金活動の協力依頼・報告、各部署広報誌、民間助成金情報、職員募集等について情報提供を行った。

##### (4) ねりま区報、区内新聞・情報誌、メディア等の積極的な活用

区広報誌『ねりま区報』による情報提供

掲載内容
練馬区社協事業紹介、会員募集
助成事業説明会の案内
赤い羽根共同募金 協力依頼・実績報告
在宅サービス事業 講演会・調理講習会案内
歳末たすけあい運動募金 協力依頼・実績報告・配分助成事業申請団体募集
福祉有償運送運転者講習会案内
福祉作業所でのイベント
NPO研修、ボランティア講座

##### (5) 地域のイベント等への積極的な参加

地域で行われるイベントや他団体主催のイベントに参加し練馬区社協事業の普及とPRを行った。

## (6) 社協キャラクター「ネリー」を活用した積極的な広報活動

練馬区社協への理解を深めるために、オリジナルキャラクター「ネリー」を各種広報誌等に掲載するとともに、オリジナルグッズの作成・販売・配布を行った。

## 3. 連絡調整・相談事業

### (1) 連絡調整事業

- ア. 総合的な窓口として寄せられた相談に対応するための、関係部署への連絡調整  
他機関や関係部署に対しての相談・要望や、相談先がわからない等の多くの問合せの最初の入り口としての役割を担った。
- ・相談件数実績 9,505 件（平成 28 年 3 月 31 日現在）  
相談者への適切な情報提供、関係機関との連携、職員の専門性向上に向け職員間で共有をはかった。相談者は主に各種事業の新規・継続相談を希望する区民のほか、実習生の受け入れについて大学・専門学校等からの問い合わせも多く寄せられた。また、各事業について民生児童委員や町会連合会、福祉事務所・ハローワーク等の関係機関と連絡調整を行った。

#### 相談方法

(単位：件)

相談方法	電話	来所	メール・FAX	訪問	計
相談件数	7,436	1,927	86	56	9,505

#### 相談内容

相談内容	相談の内訳	件数
地域福祉事業	チェアキャブ、募金、寄付、会費、広報誌、助成金など	1,108
在宅サービス	在宅サービス、ショートステイなど	510
貸付事業	生活福祉資金、総合支援資金、臨時特例つなぎ資金、緊急小口資金、不動産担保型生活資金、生活安定応援事業、法外援護緊急たすけあい資金など	5,648
協力依頼	名義使用、企画協力、実習生の受入れなど	101
情報提供	他部署事業や社協以外の行政・民間サービス等についての問合せなど	859
心配事、その他	他部署へのつなぐ電話、心配事相談など	1,279
合計		9,505

- イ. 関係行政機関・施設団体、住民等との各種連絡会義・懇談会等への参加および実施  
必要に応じて各種連絡会義・懇談会等への参加および実施をし、随時、情報交換・調整等を行い、連携を図った。
- ウ. 民生児童委員協議会への情報提供と調整  
民生児童委員協議会の正副会長会（毎月 1 回、8 月・1 月を除く計 10 回）及び、20 地区の民生児童委員協議会（各地区毎月 1 回、8 月・1 月を除く計 200 回）に出席し、社協からの連絡・依頼・報告・情報提供を行った。

### (2) 情報共有と社協内連携の強化

※P.5 1. 相談業務課題調整委員会 参照

### (3) 職員の専門性の向上

円滑、適正な事業推進のために、職員各自に必要な研修を効果的に受講し専門性の向上に努めた。また、必要な研修内容については、担当ごとの打ち合わせや職員会議を利用し職員間での共有を図った。

## 4. 自主財源の確保

### (1) 社協支援者・支援団体の増進・(2) 事業運営の安定、財政基盤の強化

※P.7 5. 財源検討委員会 参照

その他、各種基金等の運用・管理については、金融商品等の情報収集のもと、適切な手続きを行い効果的な運用と適正な管理に努めた。

## 5. 募金活動

### (1) 赤い羽根共同募金

東京都共同募金会の協力組織として、町会連合会・民生児童委員協議会・練馬区社会福祉協議会の三者で共同募金練馬地区協力会を構成し、募金活動（各戸募金・街頭募金）を実施した。

ア. 実施時期 平成 27 年 10 月～12 月 (3 ヶ月間)

イ. 事業内容

(ア) 募金実績

a. 募金額 9,875,047 円 (前年度 9,084,371 円)

b. 募金件数 292 件 (内訳: 町会・自治会 111 件、団体 7 件、個人 10 件、民生児童委員 29 件、募金箱 119 件、街頭募金 14 か所、その他 2 件)

(イ) 配分内容

a. 東京都共同募金会納付金 9,875,047 円

東京都共同募金会へ募金額全額を納付後、都内の民間福祉施設等に配分された。練馬区内の福祉施設への配分については、「練馬地区配分推せん委員会」における審査・推せんに基づき配分された。

b. 小地域活動費 536,154 円

町会・自治会の事業に活用し、地域の福祉活動を推進するために、募金額の 8%を限度に配分した。(申請件数 50 件)

(ウ) 街頭募金 299,203 円 (前年度 236,275 円)

a. 実施日 10 月 1 日、5 日、9 日、22 日、30 日

b. 実施場所 練馬駅、石神井公園駅、大泉学園駅、桜台駅、武蔵関駅、光が丘駅

c. 協力団体・企業 11 団体

練馬家族会、大陽ステンレスリング株式会社、光が丘地区連合協議会、シンプルライフ、友和会、お茶の間ネット、更生保護女性会、健生会、つくりっこの家クラブハウス、ちゅうりっぷの会、スポーツクラブ平和台

(エ) 募金箱の設置 264,953 円

区内公共施設など 119 か所に募金箱を設置し、区民に募金活動の周知と参加を呼びかけた。

## (2) 歳末たすけあい運動募金

町会連合会・民生児童委員協議会・社会福祉協議会の三者が共催し、その他関係諸団体および区民の協力に基づき、共同募金運動の一環として、地域福祉活動の充実と福祉のまちづくり推進を目的に実施した。

ア. 実施時期 平成 27 年 12 月 (1 ヶ月間)

イ. 事業内容

(ア) 募金実績

a. 募金額 14,064,410 円 (前年度 14,482,269 円)

b. 募金件数 245 件 (内訳: 町会・自治会 128 件、団体 14 件、個人 51 件、募金箱 36 件、街頭募金 14 か所、その他 2 件)

(イ) 配分内容

a. 平成 28 年度地域福祉活動費 11,884,410 円

平成 27 年度に集められた寄付金を平成 28 年度の地域福祉活動費として配分する。

(内訳) 福祉団体助成事業 4,500,000 円、NPO・ボランティア活動推進事業 3,000,000 円、広報啓発に関する事業等 2,484,410 円、成年後見制度支援事業 950,000 円、法外援護緊急たすけあい事業 150,000 円、チェアキャブ運行事業 200,000 円、小地域福祉活動事業 300,000 円、在宅サービス交流・研修事業 150,000 円、相談業務課題検討事業 150,000 円

b. 事務費 855,000 円

募金封筒やポスター作成費用など、募金活動に関わる事務費として活用した。

(ウ) 街頭募金 319,562 円 (前年度 236,987 円)

a. 実施日 12 月 1 日、4 日、11 日、17 日、22 日

b. 実施場所 練馬駅、石神井公園駅、大泉学園駅、江古田駅、光が丘駅

c. 協力団体・企業 17 団体

練馬家族会、大陽ステンレスリング株式会社、光が丘地区連合協議会、光が丘興産株式会社、練馬区水泳連盟、友和会、シンプルライフ、健生会、練馬区身体障害者福祉協会、練馬区視覚障害者福祉協会、練馬断酒会、三菱東京 UFJ 銀行光が丘支店、ヒルフェ練馬地区、大東建託株式会社 練馬支店、練馬区更生保護女性会、都立大泉桜高校、都立大泉高校

(エ) 募金箱の設置 69,181 円

区内公共施設など 36 か所に募金箱を設置し、区民に募金活動の周知と参加を呼びかけた。

**(3) 小学校入学祝い品贈呈事業**

歳末たすけあい運動募金を財源とし、福祉ニーズを持つ小学校新入学児童を対象に入学祝い品として64名の対象者にランドセルの贈呈を行った。

- ・小学校新入学児童祝品贈呈事業 1,325,000円

**6. 地域福祉事業**

**(1) 助成・団体支援事業**

地域の民間福祉団施設・団体が行う様々な活動を積極的に支援するため、以下の事業を行った。

ア. 助成事業

(ア) 喫茶コーナー『我夢舎楽』運営委員会へ運営費助成〔練馬区補助事業〕

- a. 助成金額 2,233,440円

(イ) 赤い羽根配分助成事業

- a. 助成総額 6,110,000円
- b. 申請事業数 42事業 (助成決定42事業)

<助成団体内訳>

施設・団体名	助成金額	施設・団体名	助成金額
練馬和光保育園	300,000	練馬リハビリ友の会	130,000
リブ女性ハウス	240,000	幼児教室 とことこ	220,000
トントウハウス	190,000	練馬パーキンソン病友の会	60,000
松の実事業所	300,000	南大泉にじのいろ保育園	210,000
練馬つばさ荘	80,000	滞在型保養ハウスさかさい	90,000
あさひ寮	60,000	大泉にじのいろ保育園	300,000
誠寮	80,000	ふるーれ	220,000
練馬第一寮	40,000	たんぼぼ	50,000
日本ダウン症協会東京練馬支部 ちゅうりっぷの会	150,000	楽膳倶楽部	260,000
子どものための音楽療法サークル 「音の輪」	70,000	むすび	90,000
ほっとすぺーす練馬	240,000	我夢舎楽	90,000
グループホーム石神井台	120,000	ねりま第二事業所	240,000
アイメイト協会視覚障害者歩行訓練 センター	220,000	練馬区視覚障害者福祉協会	160,000
ねりま事業所	230,000	あっぷるぼてと	30,000
友和会	150,000	ゆうゆうぼてと	150,000
東京都助産師会練馬地区分会	170,000	ありんこぼてと	30,000
ねりじょはうす Luna	240,000	えごのみ	140,000
つくりっこの家クラブハウス	200,000	すのうべる	160,000
笑和の家	30,000	べるはうす	40,000
みずき寮	30,000	あっとほーむ	80,000
第三みずき寮	130,000	総合型地域スポーツクラブ平和台	90,000

(ウ) 歳末たすけあい配分助成事業〔歳末たすけあい運動募金地域福祉活動費活用事業〕

- a. 助成総額 4,410,000円
- b. 申請事業数 44事業 (助成決定42事業)

<助成団体内訳>

(単位：円)

施設・団体名	助成金額	施設・団体名	助成金額
東京都助産師会練馬地区分会	140,000	練馬断酒会	120,000
手をつなご	150,000	練馬区要約筆記サークル さくら会	40,000
ヒルフェ 練馬地区	50,000	南田中のまちを考える会	50,000
地域福祉おたすけ隊	90,000	すのうべる	80,000
総合型地域スポーツクラブ平和台	80,000	練馬水泳連盟	80,000
練馬松の実会松の実事業所	140,000	ねりえいサークル	110,000

練馬精神障害者家族会	60,000	成年後見推進ネットこれから	40,000
日本ダウン症協会東京練馬支部 ちゅうりっぷの会	30,000	保育サービスぽてと	160,000
点訳・音声訳集団 一歩の会	100,000	むすび	50,000
お茶の間ネット	90,000	練馬区視覚障害者福祉協会	80,000
ランチとお話を楽しむ会	70,000	白い箱の会	120,000
子どものための音楽療法サークル 「音の輪」	160,000	べるはうす	40,000
びすけっと	20,000	つくりっこの家	140,000
健全会	160,000	表現クラブがやがや	50,000
ねりま子育てネットワーク	130,000	えごのみ	100,000
東京コミュニティミッドワイフ活動 推進協議会	160,000	ごたごた荘	120,000
福島こども保養プロジェクト・練馬	40,000	練馬区障害者通所施設合同運動会実 行委員会	270,000
スポーツクラブホワイトエ上石神井	70,000	認知症ネットワークの会	90,000
大泉凧の会	140,000	ねりま笑店街実行委員会	270,000
石神井・冒険遊びの会	160,000	練馬手をつなぐ親の会、社会福祉法人 未来ねりま、豊玉西町会	240,000
リブ女性ハウス	70,000	練馬健康連絡会	50,000

c. 歳末たすけあい運動推進委員会における平成 28 年度助成事業配分審査会の開催

平成 28 年度歳末たすけあい配分助成事業の申請を受け、審査を行った。

(a) 審査日時 平成 28 年 3 月 1 日 書類審査及びプレゼンテーション審査

(b) 審査内容

事業名	申請事業	申請金額	助成事業	助成金額
福祉団体助成事業	51 事業	6,630,000 円	43 事業	4,320,000 円

d. 東京都共同募金会練馬地区配分推せん委員会における平成 28 年度赤い羽根配分助成事業配分推せん審査会の開催

平成 28 年度赤い羽根配分助成事業の申請を受け、内容を審査し東京都共同募金会に推せんした。

(a) 審査日時 平成 28 年 1 月 15 日 書類審査及びプレゼンテーション審査

(b) 審査内容

事業名	申請事業	申請金額	助成事業	助成金額
新規団体応援部門 福祉団体応援部門	33 事業	4,860,000 円	32 事業	4,620,000 円

e. 助成事業説明会の開催

平成 28 年度助成事業について、区内地域団体や施設を対象に説明会を開催した。

(a) 開催日時 平成 27 年 9 月 8 日、平成 27 年 9 月 16 日

イ. 民間施設・団体の助成金申請に関する推薦状の交付

(ア) 赤い羽根運動募金 A 配分の推薦

民間施設・団体が、赤い羽根運動募金 A 配分を申請する際必要となる練馬区社協の推薦意見書を 4 件作成し、東京都共同募金会に提出した。

(イ) 各種財団助成の推薦

民間施設・団体が申請する各種財団助成について、練馬区社協が推薦意見書を作成した。

・公益財団法人 出光文化福祉財団 1 件

・公益財団法人 大和証券福祉財団 1 件

(ウ) 中央競馬馬主社会福祉財団助成事業

・平成 27 年度は実績なし。

ウ. 名義使用承認

施設・団体が行う講演会・イベント等の広報物等に練馬区社協の名義を使用することに対して申請を受け付け、その趣旨と内容を勘案した上で承認を行い、事業の広報活動等に協力した。

(ア) 協賛名義(職員の派遣・直接的な協力なし) 申請件数 17件 承認件数 17件

主催団体名	内容
(株)新都市ライフ	光が丘 IMA「フラワーチャリティ」
東京土建一般労働組合練馬支部	第38回住宅デー
NPO 法人成年後見推進ネットこれから	シンポジウム「安心して老いるために - ひとりで悩まない身辺整理 -」
MJC 実行委員会	MJC 第12回チャリティーコンサート
練馬手をつなぐ親の会 豊玉西町会・未来ねりま	第32回納涼福祉盆踊り
練馬手をつなぐ親の会	楽しいクリスマス会
練馬区視覚障害者福祉協会	コンサート「アンデスの風」
福島子ども保養プロジェクト・練馬	「小さき声のカノン」上映会
NPO 法人 童謡館東京	童謡ファミリーコンサート
障害者フェスティバル実行委員会	2015 障害者フェスティバル
あかねの会	第18回心の鐘コンサート
NPO 法人いきいき練馬ウェルネスアンドワークス	「北の塾・公開講座」
ねりま光が丘地域活性化プロジェクト実行委員会	ねりま光が丘 Hikari-Project-Festa-2015&16
PRISM～多様な学びをあたりまえに～	読み書き・学習の苦手・学校にどう伝える？
東京頸髄損傷者連絡会	シンポジウム「生活のなかの褥瘡・その向き合い方」
ねりま光が丘地域活性化プロジェクト実行委員会	ねりま光が丘 Cherry-Blossom Festa2016
練馬フォルクローレ実行委員会	国際ダンスデー・フェスティバル

(イ) 後援名義(職員の派遣あり) 申請件数 7件 承認件数 7件

主催団体名	内容
首都圏建設産業ユニオン練馬支部	第38回住宅デー
練馬区障害者通所施設合同運動会実行委員会	第37回練馬区障害者通所施設合同運動会
NPO 法人認知症サポートセンター・ねりま	認知症フォーラム
石神井公園商店街振興組合	チルコロ石神井
NPO 法人練馬明るい社会づくりの会	第20回ファミリーまつり
ねりま子育てネットワーク	第9回ねりま子育てメッセ
南相馬支援の会	福島県南相馬支援の集い

## (2) チェアキャブ運行事業〔練馬区補助事業〕

区内在住の車いす利用者の外出・社会参加等を促進するために、3台のリフト付車両を運行した。

ア. 自家用有償旅客運送登録(種別:福祉有償運送)の有効期間:平成25年6月22日から平成28年6月21日まで

イ. 利用登録会員数 123名(うち平成27年度新規登録会員数17名)

(ア) 利用登録会員の状況 (単位:人数)

	身障手帳		介護認定		重複	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
内 訳	1級	71	介1	6	介1身1	6
	2級	14	介2	19	介2身1	7
	3級	7	介3	21	介3身1	6
	4級	4	介4	15	介4身1	7
	5級	2	介5	16	介5身1	13
	その他の障害	1				その他重複
合 計	99		77		53	

ウ. 運行実績

(ア) 利用件数 (単位:件)

区分	予約申込	利用	キャンセル	利用不能
件数	1,231	1,109	24	98

※「キャンセル」は、利用者の都合により運行を中止したもの。

(イ) 利用内容 (単位:件)

区分	利用	利用目的		運行方法		運行範囲		
		通院	その他	往復	片道	区内	都内	都外
件数	1,109	749	360	87	1,022	320	744	45

エ. 福祉有償運送運転者講習会

(ア) 講習の種類

- a. 福祉有償運送運転者講習
- b. セダン等運転者講習

(イ) 実施回数

	第1回	第2回	第3回
実施日	6月13・14日	9月5・6日	11月14・15日
修了者人数	12名	5名	8名

(3) 在宅サービス事業〔練馬区補助事業〕

区内在住で日常生活を営むうえで手助けを必要としている低所得の方に有償で家事援助や介護援助を行った。

・協力員の登録状況（平成28年3月31日現在）

男 性	女 性	合 計
11名	132名	143名

※平成27年度中の新規登録者 9名  
(昨年度 16名)

ア. 有償家事・介護援助サービス

(ア) 家事・介護援助サービス実績

事業名	内 容	実施規模	人数
新規相談者数	職員が電話や窓口で新規に相談、訪問等を行った。	69件	
家事援助サービス	協力員が掃除、洗濯、買い物等の家事援助を行った。 (1時間700円/1,000円)	2,148.5時間	利用者56名
介護援助サービス	食事、排泄、入浴等の介護援助および認知症高齢者の介護援助を行った。(1時間1,000円/1,300円)	155.5時間	利用者6名
サービス併用利用	家事援助サービス・介護援助サービスを併用利用		利用者1名
計		2,304時間	63名

※サービス提供回数…1,369回

(イ) 協力員の研修等

事業名	内 容	参加者
日帰り研修	協力員の福祉に関する知識の拡充と交流を目的とし、公益財団法人 日本盲導犬協会「盲導犬の里富士ハートネス」で研修を行った。	協力員 18名
防災研修	協力員を対象に『体験してみよう！あなたの周りの防災対策』と題し、池袋防災館にて地震体験や、消火訓練等を行った。	協力員 13名

(ウ) 区民対象の研修等

事業名	内 容	参加者
第1回介護講習	協力員・区民を対象に、『認知症を知ろう～地域で暮らしを支援するためのより良い関係づくり～』と題して、練馬区社会福祉事業団より講師を招き、認知症を正しく理解する方法を学んだ。	協力員10名、区民15名
第2回介護講習	協力員・区民を対象に、『高齢期の栄養管理～配食サービスを通じて食事の在り方を考える』と題して、NPO法人クリオネ代表の石垣幸子氏を講師に招き、栄養管理について学ぶ。また、配食サービスを行う2事業所より、弁当の試食会を行った。	協力員9名、区民13名

(エ) 情報誌の発行

事業名	内 容	実施規模	対象・参加人員等
すまいる通信の発行	研修の内容・日程を通知し、協力員の活動や利用者とのふれあい等を周知した。	4回	各600部

イ. 民間ショートステイサービスの斡旋

事業名	内容	対象施設	対象・参加人員等
有料老人ホーム短期入所サービス	一時的な宿泊施設として、短期有料老人ホームを割引斡旋した。	18 施設	登録者 13 名 利用者 1 名 延 2 泊

ウ. 介護保険法改正に伴う事業の検討

介護保険法改正の状況を検討しつつ、現状のニーズ、課題に則したサービス提供を行った。

**(4) 企業等における地域福祉活動の推進・支援**

地域福祉活動を行っている、また、今後活動しようと検討している企業等についての支援は具体的に取り組むことができなかつたため、今後の課題として検討していく。

**7. 各種資金の貸付等**

低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯に対し、その世帯の生活の安定と経済的な自立を図ることを目的とした資金の貸付と必要な相談支援を行った。

平成 27 年度中では、生活福祉資金は例年通り教育支援資金の相談が多かつた。教育支援資金の決定件数も昨年度の 100 件から 131 件となつた。その他生活保護世帯のエアコン購入費用や障害者世帯の自動車購入費用等の貸付を行った。

昨今貧困の連鎖、子供の貧困に注目が集まる中、生活困窮者世帯の子供が経済的理由により学習意欲や向上心を失わない様、現行の教育支援資金（生活福祉資金）の貸し付け上限額の引き上げを図る目的から 28 年 2 月より制度改正があり、教育費に関して世間の注目が高い事がうかがえる。

学習塾の費用や高校・大学等の受験料の貸付を行う受験生チャレンジ支援貸付は練馬区だけでなく東京都全体でも年々貸付件数が増加しており、制度の認知度が上がってきていることがうかがえる。

**(1) 生活福祉資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕**

低所得者世帯・障害者世帯・高齢者世帯の自立支援資金として、民生児童委員の調査・協力を得て、相談・貸付・償還事務を行った。

ア. 貸付実績

(ア) 貸付決定件数 142 件（うち全額辞退者 13 名） ※昨年度 129 件

(イ) 貸付決定金額 167,047,519 円（全額辞退者含む） ※昨年度 155,356,738 円

資金種類	件数	貸付決定額
教育支援資金	131 件	165,488,000 円
福祉資金	7 件	1,199,519 円
緊急小口資金	4 件	360,000 円
合計	142 件	167,047,519 円

イ. 償還実績

(ア) 償還率 81.73%（現年度）

(イ) 償還完了件数 59 件（平成 27 年度末債権数 1,227 件）

(ウ) 償還金支払免除 0 件

(エ) 延滞利子支払免除 0 件

ウ. 生活福祉資金調査委員会の開催

年月日	内容
H27.8.5	①平成 26 年度 生活福祉資金実績報告 ②練馬区社会福祉協議会が扱う生活福祉資金以外の資金について ③生活福祉資金償還免除対象者選定の経過報告について ④生活困窮者自立支援制度に基づく生活サポートセンターについて
H28.3.14	①生活福祉資金償還免除対象者選定について ②教育支援資金及び生活福祉資金の改定について

**(2) 総合支援資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕**

失業等、日常生活全般に困難を抱えており、生活の立て直しのための継続的な相談支援（就労支援、家計指導等）を必要とし、貸付を行うことにより自立が見込まれる世帯に対しての生活資金等貸付制度として、相談・貸付・償還事務を行った。

ア. 貸付実績

(ア) 貸付決定件数 4 件

(イ) 貸付決定金額 1,377,000 円

資金種類	件数	貸付決定額
住宅入居費	0件	0円
一時生活再建費	1件	66,000円
生活支援費	3件	1,311,000円
合計	4件	1,377,000円

イ. 償還実績

- (ア) 償還率 75.12% (現年度)
- (イ) 償還完了件数 10件 (平成27年度末債権数224件)
- (ウ) 償還金支払免除 0件

**(3) 生活復興支援資金**

東日本大震災に伴い、生活福祉資金(福祉資金福祉費)の特例貸付がはじまり、震災により被災した低所得世帯に当面の生活に必要な経費等の貸付相談を行ったが、平成27年度は貸付実績は無かった。

**(4) 臨時特例つなぎ資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕**

住宅喪失の離職者で、公的給付制度又は公的貸付制度の申請が受理されており、かつ当該給付等までの生活に困窮している世帯に対しての生活資金貸付制度として、相談・貸付・償還事務を行った。平成25年3月までの時限事業であった。しかし平成27年度も実施したが貸付実績は無かった。

**(5) 不動産担保型生活資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕**

現在居住している自己所有の不動産(土地・建物)に、将来にわたって住み続けることを希望する高齢者世帯に対し、その不動産を担保に生活資金を貸付する制度として、相談・貸付・償還事務を行った。平成27年度は新規の貸付決定件数が2件あった。平成27年度も全世帯の訪問を行い、世帯状況の把握に努めた。

ア. 貸付実績

- (ア) 貸付決定件数 3件

イ. 償還実績

- (ア) 償還完了件数 0件 (平成27年度末債権数19件)

**(6) 要保護世帯向け不動産担保型生活資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕**

要保護状態の高齢者世帯に対し、現在居住している自己所有の不動産(土地・建物)を担保として生活資金を貸付する制度として、相談・貸付・償還事務を行った。平成27年度は新規の貸付決定件数が2件、また、全世帯の訪問を行い、世帯状況の把握に努めた。

ア. 償還実績

- (ア) 貸付決定件数 2件
- (イ) 償還完了件数 0件 (平成27年度末債権数15件)

**(7) 受験生チャレンジ支援貸付事業〔練馬区からの受託事業〕**

一定所得以下の世帯の子供への支援を目的として、学習塾等の費用や、高校や大学等の受験費用の貸付を無利子で行った。

- ア. 学習塾等受講料貸付金 貸付決定件数 214件 貸付金額 40,839,200円
- イ. 受験料貸付金 貸付決定件数 202件 貸付金額 10,701,300円

**(8) 私立高等学校等入学資金貸付事業〔練馬区補助事業〕**

生活保護世帯あるいはこれに準ずる生活困難な世帯が、他の同種の公的資金を借り受けてもなお資金が不足する場合の入学資金等の貸付の償還事務を行った。(平成26年3月末で貸付事業は終了)

ア. 償還実績

- (ア) 償還率 20.31%
- (イ) 償還完了件数 2件 (平成27年度末債権数11件)

**(9) 長尾修学育英資金貸付事業**

所得の少ない世帯を対象として、大学・短期大学入学に際して必要となる入学資金等の貸付に関する償還事務を行った。(平成18年3月末で貸付は終了)

ア. 償還実績

- (ア) 償還率 1.87%
- (イ) 償還完了件数 0件 (平成27年度末債権数6件)

**(10) 法外援護緊急たすけあい事業**

ア. 小口資金貸付

災害や臨時の出費等による一時的な生活困窮者に対し、5万円を限度とした貸付相談を行った。

- (ア) 貸付決定件数 3件
- (イ) 償還完了件数 3件 (平成27年度末債権数36件)
- (ウ) 償還金支払免除の適用  
練馬区社会福祉協議会定款第16条(1)に基づき平成28年3月22日議決  
死亡または所在不明等による償還金支払い免除 1件

イ. 資金の交付

住所不定者等に当座の食費、知人・友人宅及び救護所等へ赴く交通費等を支給した。

- (ア) 各総合福祉事務所へ事務を委託 交付金合計 380,224円

区 分	件 数	区 分	件 数
練馬総合福祉事務所	1,065	光が丘総合福祉事務所	127
石神井総合福祉事務所	269	大泉総合福祉事務所	307
4 総合福祉事務所合計			1,768

**(11) 社会復帰支援資金貸付事業**

保護観察の対象となっている方に対し、社会復帰をする上で必要な資金に関する貸付相談を行ったが、平成27年度は貸付実績がなかった。

**(12) 債権管理の強化**

滞納者に対しては定期的な督促状の発送や訪問を行った。また、返済方法に関する相談援助を行うなど、借受人に合わせた債権管理の強化を図った。

ア. 貸付としての事業は終了済みのため、償還事務のみの事業。

- (ア) 離職者支援資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

失業により生計の維持が困難となった世帯に対して、再就職までの生活資金貸付を行う制度の償還事務を行った。(平成21年9月末で離職者支援資金貸付事業は終了)

a. 償還実績

- ・ 償還率 81.44% (現年度)
- ・ 償還完了件数 4件 (平成27年度末債権数 56件)
- ・ 償還金支払免除 0件
- ・ 延滞利子支払免除 0件

- (イ) 子育て世帯への優遇貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

離職者支援資金または総合支援資金生活支援費の申請者で、世帯内に扶養している子どもがいる世帯に対しての、生活費の上乗せ、または修学に必要な費用の貸付制度に関する償還事務を行った。(平成22年3月末で貸付事業は終了)

a. 償還実績

- ・ 償還率 34.04% (現年度)

**(13) 福祉事務所との連絡調整会議**

福祉事務所との連絡調整会議 1回

相互の情報提供・連絡調整を図るため、福祉事務所主催の連絡調整会議に参加した。

**8. 活動計画の確実な実施と経営改革**

**(1) 地域福祉活動計画に向けた取り組み“つながりのある地域”の実現に向けて**

地域福祉活動計画策定・推進評価委員会の円滑な運営に向けて事務局の役割を担った。地域福祉協働推進員(ネリーズ)の登録は209名の方より参画を得られた。

**(2) 経営改革の取り組み**

今年度は具体的に進めることができなかったため、28年度の課題として進めていく。

**9. 危機管理・安全対策**

安全衛生委員会での意見を反映し事務所内の職場環境の改善に努めた。

**10. 地域の人材育成の充実に向けた取り組み**

**(1) 実習生の受入れ等、学生・学校に対する支援**

社会福祉士実習、精神保健福祉士実習、見学実習等の社協組織としての受入れ事務(学校関係者等との連絡調整や契約)を総括し、円滑な実習受け入れに努めた※P.6 3. 実習委員会 参照

## (2) 職員派遣

社協職員としての実践報告や小地域福祉活動、生活困窮者支援の実践、SST（ソーシャルスキルズトレーニング）について等、練馬区社協各部署の知識や技術等の専門性を活かした、関係機関、団体、学校等への講師派遣のとりまとめを行った。

※以下、実施日程順実績

団体名	テーマ	派遣部署※略
練馬区老人クラブ連合会	まちづくりと老人クラブ	事務局長
日本社会事業大学	「実習分野・配属先の理解」 分野別授業	地域福祉課長
練馬区立大泉ケアハウス	精神疾患を持っている方への支援の方法	ういんぐ
全国社会福祉協議会	地域における総合相談・生活支援体制づくり	地域福祉課長
栃木刑務所	工場別 SST 指導の実施 ※計 5 回	地域福祉課長
桃園地区自治会（中野区社協経由）	地域福祉コーディネーターの取組みと地域づくり	ほっと
東京都内社協職員連絡会	社協における生活困窮者支援の実践から見えてきたもの	生活サポート
日本更生保護協会	関東ブロック「保護司のための SST 研修」	地域福祉課長
学校法人 NHK 学園	相談援助演習（90 分×4 コマ）	地域福祉課長
帝京平成大学	社会福祉士を目指す学生向け職員実践報告	生活サポート
公益財団法人矯正協会	DVD「SST の実践」への出演依頼	地域福祉課長他 5 名
法務省総合研究所	第 8 回保護観察官専修科（ひとり SST）	地域福祉課長
東京都社会福祉協議会	社協における相談支援の実践	地域福祉課長
東京都社会福祉協議会	地域福祉コーディネーター養成研修	VC
全国公的扶助研究会	関東ブロックセミナー事例発表	生活サポート
東京都福祉保健局	生活困窮者自立支援法従事者向け研修事例発表	生活サポート

※その他、各部署事業の周知、広報に関する職員派遣は各部署の該当ページを参照。

## 【白百合福祉作業所】

事業種別：就労継続支援B型事業

一般企業で働くことが困難な主に知的障害のある方を対象に、自立と社会経済活動への参加を促進するために働く場を提供し、作業および生活の支援を行い、障害者福祉の増進を図ることを目的として各種事業に取り組んだ。

### 1. 利用者の状況 平成28年3月31日現在 定員40名、現員34名

#### (1) 性別・年齢

項目	男性	女性	合計
人数	19名	15名	34名
平均年齢	39歳	45歳	42歳

#### (2) 入退所状況

入所者	2名	退所者	1名
-----	----	-----	----

## 2. 作業実績

### (1) 工賃支払実績

区分	年額	平均月額
総収入額	5,316,511円	〈平均〉443,667円
消費税清算金	7,500円	
一人あたり平均支給額	158,928円	13,244円

※一人あたりの平均月額は、27年度支払工賃総額（総収入額+消費税清算額）÷支払対象者数（年間延実働人員数402名）による。

### (2) 作業種目別収入

項目	年額	平均月額
紙器組立	2,914,789円	242,899円
割箸袋入れ	382,249円	31,854円
紙器組立・封入	260,521円	21,710円
寿司用箸セット	77,567円	6,464円
受託販売（梅干）	624,327円	52,028円
公園清掃	391,042円	32,586円
古紙回収	190,140円	15,845円
アルミ缶回収	28,175円	2,348円
さをり織り（自主生産）	271,153円	22,596円
手すきハガキ（自主生産）	73,404円	6,117円
その他	248,074円	20,672円
27年度消費税預かり金額	△137,430円	△11,452円
計	5,324,011円	443,667円

## 3. 利用者支援

### (1) 作業支援（福祉的就労支援）

#### ア. 個別支援の充実

利用者一人ひとりの状況を把握し、意向や希望等聞き取り個別支援計画を作成した。個別支援計画に基づいて、作業所として柔軟なサービス提供や支援を心がけた。あわせて前期後期に各人の個別支援計画の見直しを行いながら、1年間を通して利用者が充実した作業所生活を送ることができるよう支援した。

#### イ. 週末ミーティング

毎週金曜日に、作業班ごとで週末ミーティングを行った。一週間で自分は作業のどのような部分を頑張ったのか、一人ひとりが発表した。回数を重ねることで、自分から手を挙げて、発表することが出来るようになった。また、発表することで次の作業への意欲に繋げることが出来た。

#### ウ. 工賃の支給・評定

3ヶ月ごとに開催した評定会議において、評定基準に基づき利用者個人の作業評定値を決定し、工賃を支給した。また、公平でわかりやすい新たな評定基準を作成、施行し、それを利用者にと丁寧に説明した。

エ. 作業開拓、工賃の増額

(ア) 安定した作業提供をするために、作業開拓を行い、工賃アップへと繋がるよう図った。

(イ) 一人ひとりにあった作業提供の工夫や細やかな作業支援を行い、利用者が主体的に作業に取り組めるような環境を整えた。

(ウ) 新規作業への積極的な取り組みにより、工賃の増額へと繋がった。

オ. 作業内容

(ア) 受注作業

作業種目	作業状況
寿司用箸セット	宅配寿司、宅配釜飯用セット作り等を行った。作業工程に流れ作業を導入したり、自助具を使用する等、利用者の特性に応じた作業提供が行えた。
紙器製作	既存の作業も安定した量を入荷したほか、新規作業も行った。作業工程や種類が多く、多くの利用者が関わることができた。
割箸袋入れ	一年を通して、作業が切れることなく安定して作業を継続することができた。
チラシ折り	ポスティングのチラシの2つ折りの作業。定期的に入荷があり、多くの利用者が関わることができた。

(イ) 屋外作業

古紙回収	区役所、図書館、近隣の住宅・団地（950世帯）、などからの回収を年間延べ70回行った。地域住民から多くの協力があり、利用者も意欲的に取り組むことができた。1年間で総重量41,320kgの古紙を提供いただいた。
アルミ缶回収	近隣の住宅・団地を中心に回収を行った。利用者家族からの協力も多く、1年間で395kgの空き缶を提供いただいた。
公園清掃	練馬区立泉こぶし公園の清掃作業を週2回行った。
ピアレス清掃	練馬区立石神井公園区民交流センター内のトイレ清掃を月に1回行った。

(ウ) 自主生産

昨年度に引き続き、販売会等に積極的に参加することができた。地域交流に取り組んでいることで、販売の場を紹介していただき、販売の機会を得ることができた。また以前に購入していただいた方からの発注が引き続き多く見られた。

さをり織り	8名の利用者で取り組み、ボランティアの協力のもと製品に仕上げた。色の選択、組み合わせは利用者自らがを行い、個性的で色彩豊かな作品となった。新たな製品開発にも取り組んだ。販売会にも参加し、直接お客様とやり取りすることで創作意欲にもつながった。
手すきハガキ	2名の利用者が取り組み、それぞれが得意な工程を受け持ち協力して仕上げることができた。ほぼ毎日取り組むことで大きな注文にも対応することができた。また、法人内ネットワークを活かし、販売委託先である関町ボランティアコーナーにて顧客を獲得できた。

(エ) 受託販売

「紀州南高梅」の梅干し販売を受託し、利用者作画のイラスト入りラベルを貼り、施設窓口・各販売会等で販売を行った。

a. 自主製品販売会・バザー等参加状況：参加57回、利用者延べ36名・職員延べ55名

カ. 自主生産事業の商品開発・開拓

自主生産製品の商品開発や販路拡大にも努め、情報収集・研究を行った。

**(2) 就労支援**

ねりま高松事業所就労移行支援事業担当の職員を講師に迎え、「グッドワーク講座」を開催した。はたらくことや心構えなどについてみんなで考え、はたらくことへの意欲や関心を高める機会を設けた。

**(3) 生活支援**

ア. 行事

行事名	実施日	場所・内容
福祉音楽祭 in ねりま	4/16	練馬文化センターにて、地域団体主催の音楽祭に参加し、舞台発表や自主製品販売を行った。
グループ活動	5月	スカイツリー、東京駅散策、六義園・池袋、隅田川遊覧船、おもちゃ美術館、東京ドームへ行った。

施設公開	5/29, 8/28 2/27	施設の理解と地域の方との交流を深めるために施設公開を行った。学生、生徒の夏休み期間での開催や土曜日の開催、また「わくわくマーケット」との合同開催なども企画し、さまざまな客層の来所があった。
障害者通所施設合同運動会	5/23	区内通所施設が練馬区立南町小学校に集い開催した。
宿泊旅行	9/3～4	千葉県鴨川方面へ出かけ、東京湾フェリー乗船や金谷港散策、鴨川シーワールドの見学を行った。
白百合まつり	10/24	新しくなった作業所での初めてのおまつり。施設公開をはじめ、アトラクション、模擬店など、新しい企画のどじょうつかみ、わくわくマーケットも実施し、約 400 名が来所した。
四所交流会	11/13	光が丘体育館において、ボッチャ・歌・ダンスを行い交流した。
障害者フェスティバル	12/5	光が丘区民センター及び周辺にて舞台発表と販売会を行った。
新年顔合わせ会	1/4	「今年の抱負」の発表を行った。
ボランティア感謝ウイーク (ありがとうの会)	3/14～ 3/31	利用者が中心となり感謝状や記念メダルを作成した。期間中 12 名のボランティアに手渡し、日頃の感謝を伝えた。
グループ外食	年 5 回	地域のお店を利用し食事を楽しみ交流を深めた。作業所周辺のお店のほかにもイベント参加とあわせてグループで外食を楽しんだ。
社会見学会 (しらゆり探検隊)	11/11～ 12/3	地域の公共施設や関連施設を見学し、仕事の様子を調べて、報告会を行った。(練馬区立石神井公園ふるさと文化館、石神井消防署、西武車庫上石神井営業所、T ジョイ大泉)

イ. クラブ活動 (第 1・第 3 水曜日 / 午後 2 時 30 分～午後 3 時 30 分)

利用者の希望をもとにクラブを構成し、ボランティアの参加や、前期・後期で活動内容を変えることにより、多彩な活動が体験でき、楽しんで活動を行うことが出来た。(カラオケ・手話ダンス・新聞づくり・ちぎり絵・折り紙・ボウリング・ウォーキング・地域探索など)

ウ. みんなの会 (年 4 回 : 5/27、8/26、11/25、2/24)

利用者から選出された役員が中心となりみんなの会を実施した。活動の役割分担や所内でのマナーなど利用者から提出された課題について話し合いの場を持ち、意見の交換などを行なった。

エ. 生活講座 (はなまる講座) (年 4 回 : 4/22、7/29、10/28、1/8)

利用者一人ひとりが主体的に働くこと・楽しむことを支援するため、生活に必要な様々な事柄について学び・考え・知る機会として講座を開催した。

議題 : 「歯の健康について考える」「食事のマナーについて」「食事のマナーについて 2、日々の清掃について」「ボランティアさんによる体験談を聞く会」等

オ. しらゆり安全委員会 (年 3 回 : 7/28、12/24、3/29)

利用者が主体となり、日頃から安全意識を高め考えていく場として、利用者・ボランティア・職員で構成する。定期的に委員会を持つことは難しかったが、後期には防災訓練後に話し合い、訓練の振り返りや施設内の安全点検等を行った。また、地域学習会(AED 講習会)や町会の防災訓練等にも参加した。

カ. 役割活動

利用者が日直当番や掃除当番等の所内の役割に主体的に関わる機会を設け、役割を担い果たすことの大切さを身につけることが出来た。

キ. 情報提供・話し合い

利用者に家族会の内容や行事等の説明をしたり話し合いを行った。そこで利用者の意見を聞きとることが出来た。また、地域生活に必要な情報を提供できるようにした。

ク. 利用者余暇支援・利用時間の延長

(ア) 休日余暇支援事業 (みんなのつどい)

登録した利用者 (白百合福祉作業所 16 名、かたくり福祉作業所 34 名) を対象に、原則毎月第 3 土曜日に作業所において、レクリエーション活動等を行った。季節に合わせたプログラムの企画を行うとともに、ボランティアの協力を得て演奏や演劇等の鑑賞機会を設けるなどして余暇の充実を図った。楽しみの時間を共有することで、地域住民との交流の機会ともなった。年間計 11 回開催、利用者参加延べ 288 名 (うち白百合福祉作業所利用者延べ 74 名)

(イ) 施設利用時間の延長

家族の所用、急用等の事情にあわせて便宜を図るため、施設利用時間の延長を行った。(延べ111回実施)

(4) 健康管理・健康活動・保健衛生

ア. 健康管理

項目	内容	実施日	受診・受講人数
健康診断	聴心、尿検査、血液検査、x-線、 腹囲(40歳以上)	1/14	8名
		1/22	1名
内科検診	血圧測定、心肺音聴取等	毎月1回	
歯科検診	う歯、歯石、歯肉の炎症、咬合検査	4/9	29名
眼科検診	眼底検査	6/11	29名
耳鼻科検診	耳、鼻、咽頭検査	5/7	27名
身長測定	年1回	4/20	31名
健康講座	給食提供1年を振り返って	3/18	48名
体重測定	毎月1回 年12回		

イ. 健康活動…ラジオ・ストレッチ体操、いきいき体操(月・金)、健康指導、健康講座、手洗い、うがい、消毒等を行った。

4. 地域活動(ともに生きるまちづくり)

(1) 「ともに活動する」

ア. 地域貢献活動

(ア) しらゆり見守りウォーキング

近隣小学校に通う児童の見守りと地域の清掃活動に取り組みながら、道ゆく地域の方に挨拶を行った。また、白百合まつりの際には民生児童委員にも協力していただき、見守りウォーキングのデモンストレーションを行った。児童や地域の方々とも挨拶し合えるようになった。

(イ) 駅前清掃活動：年間10回参加(利用者延べ20名、職員延べ10名)

池淵町会婦人部、練馬地域福祉ハートフルアクターズと協働し、石神井公園駅前清掃活動に参加した。利用者は地域のためにできるボランティア活動としての意識を持ち、いきいきと取り組んでいた。

(ウ) リサイクル事業

a. 新聞回収(各1回/月)

回収先：近隣の住宅・団地、区内図書館、練馬区役所(2回)、石神井庁舎、豊玉障害者地域生活支援センターきらら

b. アルミ缶回収 近隣住宅・団地(各1回/月)

近隣の住宅・団地の協力を得て古紙・アルミ缶回収を行なった。高齢等により古紙を階下までおろすことが負担になる方に対しては、玄関口での個別回収を行った。地域に作業所の様子を知ってもらうために、回収日を知らせるチラシには作業所の近況報告を載せた。また、裏面にはお祭りやイベント、リサイクルショップの告知、ボランティア募集記事、自主製品や梅干し販売の情報を載せた。

c. 白百合わくわくマーケットの開催

リサイクルショップを見直すためにボランティアと職員による検討会・バザー見学会(4/18, 6/24, 11/27)を行う。子ども用品の物々交換バザー「白百合わくわくマーケット」として、白百合まつり(10/24)、施設公開(2/27)に合わせて同時開催した。

(エ) クリーンウォークキャンペーン：年間1回参加(5/17 利用者・家族6名、職員2名)

練馬地域福祉ハートフルアクターズと協働し、地域の環境美化のため清掃活動を行った。

イ. 地域交流事業の推進

(ア) イベントの開催

a. 白百合まつり(10/24)

新しくなった作業所での初めてののおまつりで施設を知ってもらい、作業公開・体験をはじめ、アトラクション、ゲーム、地域のお店などを実施した。新しい企画のどじょうつかみや白百合わくわくマーケットも実施し、地域の方との交流をすることが出来た。

b. 施設公開の開催(5/29, 8/28, 2/27)

地域の方々に、日頃利用者が作業をしている様子を見てもらい、作業体験をする機会とし

て開催した。作業公開・体験、作業所紹介の展示、自主製品販売、カフェコーナーを設けた。また学生、生徒の夏休み期間や土曜日の開催、白百合わくわくマーケットとの合同開催なども企画し、さまざまな客層の来所があった。

(イ) 地域イベントへの参加

- a. 灯籠流しの夕べ (8/1)、チルコロ石神井まつり (11/8、3/27)
- b. その他イベント等での自主製品の販売会に参加した。(57回)

(ウ) 近隣の学校等との交流

石神井小学校 2 年生の「この町大すき！石じい大はっけん」の授業の一環として訪問 (10/2, 10/9) を受け入れた。その後行われた小学校の発表会 (10/23)、学芸会 (11/20) に招待され、利用者と職員で小学校に伺い交流を図った。

(エ) グループ外食の実施(4月、7月、9月、11月、2月)

地域の飲食店を利用し、外食を楽しみ、地域の方々とふれあい、施設理解を深めた。

ウ. 地域とつくる災害対策

(ア) 「こんにちは！しらゆりです」運動…古紙、アルミ缶回収等にご協力いただいている地域住民を対象に玄関先での挨拶を交わすことで関係作りをし、ゆるやかな見守りの役割を担った。

(イ) 協働災害訓練…日頃から地域住民との関係づくりに努め、町会の総合防災訓練、防犯講習会に参加した。「AED 講習会」を開催したが、ボランティアの参加はあったが、近隣町会との協働までには至らなかった。近隣町会のニーズ把握の必要性を感じた。

## (2) 「ともに学ぶ」

ア. 地域学習会 (年 2 回)

(ア) 第 1 回地域学習会 (学習会 6/12 参加者 100 名 見学会 6/17, 6/22, 6/29 参加者 102 名)

石神井小学校 4 年生の作業所見学・作業体験の受け入れ、学校へ出向き利用者が講師役を担った学習会を行う。小学生と交流を図るとともに、障害者・施設への理解につなげることができた。

(イ) 第 2 回地域学習会 (7/3 参加者 20 名)

「ともに生きるまちづくり活動」の一環として民生・児童委員の方々と学習会を行った。利用者が案内係りや講師役を担い、作業の見学や体験を通じて利用者との交流が深まり施設理解につなげることができた。

イ. 夏休み体験教室 (8月7日・8月10日 親子参加含む 19名)

小・中学生を対象に自主製品のさをり織りと手すきハガキの体験の機会を提供した。親子参加も積極的に受け入れ、交流の機会にもなった。

ウ. 夏休み体験ボランティアの受け入れ

福祉に関心のある大学生や専門学校生を対象に、夏休みを利用して、作業所での体験をしてもらった。障害への理解を深めてもらうとともに、福祉人材の育成に取り組んだ。

エ. 実習生の受け入れ

(ア) 福祉実習…大学、専門学校の社会福祉士等の資格取得のための実習生の受け入れを行った。(社会福祉士 18 名、精神保健福祉士 2 名)

(イ) 体験学習…福祉学習の一環として、小学生、中学生、高校生の体験学習を受け入れた。

(ウ) 入所実習

- a. 入所実習：9名 (特別支援学校高等部 3 年生 6 名、他施設からの転所希望 3 名)
- b. 体験実習：特別支援学校高等部 2 年生 2 名
- c. 見学実習：特別支援学校高等部 1 年生 18 名、特別支援学校中等部 6 名

## (3) 「ともに活かし合う」

ア. 地域住民の受け入れ

イ. ボランティアとの協働(受け入れ態勢の充実)

ボランティア・見学者の受け入れ (受け入れ総数：ボランティア 821 名)、散髪ボランティア (年間 5 回、延べ 15 名)・手話ダンスボランティア (年間 6 回、延べ 34 名)・作業ボランティア (延べ 615 名)・クラブ活動(延べ 33 名)・行事等協力ボランティア (延べ 93 名) を定期的に受け入れた。活動の一つとして、いきいき体操ボランティア (延べ 31 名) も定着し、行事や外食などにも一緒に参加してもらい、交流が深まった。また、施設見学・体験を希望する住民、学生、関係機関職員等を随時受け入れ、施設理解を深めることに努めた。

ウ. ボランティアとの交流

ボランティア感謝ウィーク (3/14～3/31)

ボランティアに、日頃の感謝の気持ちを伝える機会として「ありがとう感謝ウィーク」を利用者と企画した。利用者が主体となり、メダルや招待状、「ありがとうの手紙」を作成してボランティアに手渡した。

## 5. 施設運営

### (1) 運営協議会の開催（年2回開催）

地域関係者、利用者・家族、練馬区および施設職員を構成員とする協議会を設置し、利用者サービスの向上、施設運営の改善等のための意見交換・協議を行った。(10/30、3/14)

### (2) 家族との連携

- (ア) 家族会：年9回開催。年度の計画、方針、各行事、施設サービス、保健などについての説明、報告や意見交換を行った。（\*家族会延べ参加人数 219名）
- (イ) グループ懇談会：年3回開催（1回につき2グループ同時開催）。利用者家族を6グループに分け、少人数で発言をしやすい雰囲気のなか意見や情報の交換を行った。
- (ウ) 施設見学会(12/1)：「やすらぎガーデン石神井台」（障害者グループホーム、高齢者賃貸住宅）を見学し、身近なサービスや施設について知り活用を考える機会とした。家族と職員17名が参加した。

### (3) 危機管理・安全対策

- ア. しらゆり安全委員会…利用者がボランティアの協力を得て、施設内外の安全保持活動をおこなった。利用者の視点で主体的に安全や安心について確認や話し合いをすることが出来た。
- イ. 安全対策…定期的に所内の安全点検を行うとともに、作業室の整理整頓を行った。
- ウ. 災害訓練(月1回)…BCP(事業継続計画)をもとに避難訓練(地震または火災想定)を実施した。災害時を想定したすべり台訓練も行った。
- エ. 総合防災訓練(10/1)…震災想定避難時での非常食の試食、引き渡し訓練を行った。また家族向けに「災害時伝言ダイヤル」体験を実施した。
- オ. 情報伝達訓練…毎月の避難訓練後に、家庭および関係機関に災害時メール送信の訓練を行った。
- カ. 学習会の開催(10/6)…地域学習会として「AED講習会」を実施した。14名の参加。
- キ. 防災パンフレット…災害時に必要な情報をまとめた冊子を作成した。家族・ボランティア・関係機関・職員との連携強化を図った。

### (4) 相談・苦情対応、個人情報保護、リスクマネジメントの取組み

- ア. 利用者からの相談・苦情をいつでも受け付けられる体制を整え、要望等には誠実かつ迅速に対応するよう努めた。
- イ. 苦情解決第三者委員との懇談会・相談会：年2回実施。(家族対象9月・利用者対象2月) 家族や利用者から施設への要望や苦情等の聞き取り、意見・要望への対応を行った。
- ウ. 個人情報保護のための管理体制を整備し、研修を実施し職員の個人情報保護に関する意識啓発に努めた。
- エ. リスクマネジメント体制を整え、「ヒヤリハット情報」の収集を行い、職員間で共有し事故の防止に努めた。

### (5) 施設評価・調査

利用者・家族を対象に「利用者アンケート」を実施し、満足度調査を通して施設サービスの改善点や課題を明らかにしその改善に取り組んだ。

### (6) 広報活動

施設広報紙「しらゆり通信」の発行、チラシ・パンフレット、練馬区社協ホームページでの情報提供、練馬区社協広報誌「社協だより」への記事掲載、掲示板の活用等を通して施設PRや社協の事業紹介を行った。

### (7) 職員研修・育成

- ア. 職員研修  
支援の充実、職員の資質向上を目指し研修を受講した。(研修参加22回、参加職員延べ63名)
- イ. 練馬区社会福祉協議会人材育成方針に基づいたOJT(職場内研修)の充実を図った。
- ウ. 練馬障害福祉人材育成・研修センター等の研修を受講し、専門性を高められるようにした。
- エ. 練馬区立福祉作業所合同研修会の開催(12/11)  
区立福祉作業所5所の共催により職員研修会を実施した。

## 【かたくり福祉作業所】

事業種別：就労継続支援B型事業・就労移行支援事業

### ◇就労継続支援B型事業

心身に障害がある方を対象に働く場を提供するとともに、活動の機会の提供や生活および作業の支援を行い、自立を図ることを目的として各種事業に取り組んだ。

### ◇就労移行支援事業（ジョブサポートかたくり）

一般企業で働くことを希望する障害者に対し、一般就労につなげるために、活動の機会や作業の提供等、就労に必要な知識の習得および能力の向上のために必要な支援を行うことを目的として各種事業に取り組んだ。

\*就労継続支援B型事業と就労移行支援事業で共通のものは（共通）の表示をしている。

## 1. 利用者の状況（共通） 平成28年3月31日現在

定員73名（B型63名・移行10名）現員60名（B型55名・移行5名）

### （1）性別・年齢

種別	項目	男性	女性	合計
就労継続支援 B型事業	人数	39名	16名	55名
	平均年齢	34歳	41歳	37歳
就労移行支援事業	人数	3名	2名	5名
	平均年齢	25歳	19歳	22歳
全体	平均年齢	34歳	38歳	35歳

※小数点以下四捨五入

### （2）入退所状況

種別	項目	人数	内訳
就労継続支援 B型事業	入所	0名	
	退所	2名	転所0名 就労0名 その他2名
就労移行支援事業	入所	3名	高校卒業2名 その他1名
	退所	0名	

## 2. 作業実績

### （1）工賃支払実績

（就労継続支援B型事業）

区分	年額	平均月額
総収入額	7,270,757円	605,896円
消費税精算金	3,948円	
一人あたり平均支給額	131,076円	10,923円

（就労移行支援事業）

区分	年額	平均月額
総収入額	968,964円	80,747円
消費税精算金	352円	
一人あたり平均支給額	204,072円	17,006円

※一人あたりの平均月額は、27年度支払工賃総額（総収入額+消費税精算額）

÷支払対象者数（年間延実働人員数B型：666名 移行：57名）による

### （2）作業種目別収入

（就労継続支援B型事業）

項目	年額	平均月額
割り箸袋入れ(弁当用)	633,216円	52,768円
チラシ折り	190,953円	15,913円
付録のセット作り	180,127円	15,011円
自主生産(祝い箸等)	745,784円	62,149円
日用品のセット作業	1,707,247円	142,271円
DVD検品作業	106,596円	8,883円
ダイレクトメールの封入	1,983,731円	165,311円
お菓子袋詰め	177,951円	14,829円

委託販売（お茶リパック）	469,864 円	39,155 円
その他	1,285,136 円	107,095 円
27 年度消費税預かり金額	△205,900 円	△17,158 円
計	7,274,705 円	606,227 円

※自主製品材料費 334,842 円 委託販売品購入費 585,576 円  
(就労移行支援事業)

項 目	年 額	平 均 月 額
ハウスクリーニング他	107,500 円	8,958 円
日用品のセット作業	58,620 円	4,885 円
配架作業	207,000 円	17,250 円
公園清掃	327,523 円	27,294 円
箱詰め検品	46,481 円	3,873 円
その他	255,892 円	21,324 円
27 年度消費税預かり金額	△33,700 円	△2,808 円
計	969,316 円	80,776 円

※材料消耗品費 52,860 円

### 3. 利用者支援【就労継続支援 B 型事業】

#### (1) 作業支援（福祉的就労支援）

作業を通して働くことの喜びや充実を感じるにより、社会参加と自立を支援した。

##### ア. 個別支援の充実

- (ア) 利用者一人ひとりの状況を把握し、意向や希望を聞き取りながら、個別支援計画を作成した。  
毎月進捗状況等を確認しながら支援を検討し年 3 回見直しを行い、1 年を通じて段階的に目標を設定していきながら、利用者の自信と達成感が次の意欲につながるよう支援を行った。  
(イ) 定期的に二者面談、三者面談、個別支援会議、グループ会議などを行い、支援内容を確認、検討した。

##### イ. 工賃の支給、評定

3 か月ごとに評定会議を開催し、評定基準に基づき評定値を決定し、工賃を支給した。

##### ウ. 工賃会議

工賃支給日に、利用者自らが作業状況の確認や収入、工賃の仕組みを確認し受注作業の内容を把握するとともに意見交換を行い、働く意欲につなげた。

##### エ. 工賃額の維持、作業開拓

- (ア) 利用者個々の状況に合わせた作業環境を整え、一人ひとりが様々な作業に取り組むことができるように補助具等の使用や工夫を行い、個々の実施作業の幅が広がった。  
(イ) 安定した作業を提供するために、新規に事業者（6 社）と契約し新作業に積極的に取り組んだ。また、利用者が描いた絵のラベルを貼付した委託商品の種類を増やし新たなパッケージでのふりかけの販売を行った。

##### エ. 作業内容

(ア) 受注作業

作業種目	作 業 状 況
割り箸の鞘入れ 弁当用箸セット作業	一年を通して、安定して作業を継続できた。練習を重ねることで弁当用の箸のセット作業を行う利用者が増えた。
雑誌付録のセット作り	材料の仕分けから利用者が取り組むことができた。また作業工程の種類が多く、多くの利用者に関わることができた。
日用品のセット作り	作業工程の種類が多く、多くの利用者に関わることができ段階的に高度な作業に挑戦していくことができた。
ダイレクトメールの封入	利用者が計量器や結束機を使用して、検品や完品の作業に関わることができた。
お菓子の袋詰め	一年を通して、安定して作業を継続できた。シーラーを上手に使用し袋の封止めをする利用者が増えた。

(イ) 自主生産

アイデアを活かし和文具の新製品の開発や、多様な絵柄の製品を生産し、販売会等でのリピーター獲得につながった。作業工程を細かく分け補助具等を使うとともに、新たにちぎり絵

を用いた商品も開発することで多くの利用者が作業に関わることができ、作業ボランティアの協力により質良く仕上げることができた。販売では、地域とのつながりから委託販売の新店舗の協力を得られ、利用者とともに定期的な営業活動を展開した。

《主な製品》祝い箸、黒文字、ポケットティッシュボックス、ぼち袋、のし袋、クリップ、和文具（付箋、マグネット、ダブルクリップ）等

(ウ) 委託販売

「スティックお茶」をリパックし販売を行った。利用者が描いたラベル製作・ラベルの貼付・封入・シーラー・販売までの一連の作業を行った。また、今年度は新たに、新規商品としてふりかけに利用者が描いたラベルを貼付し販売を行った。

(エ) 販売会の参加

自主製品の販売会に利用者が積極的に参加した。販売会参加回数 73 回（内委託 14 回）、利用者延べ 59 名、職員延べ 80 名（他、家族会 12 回・かたくりマーケット 11 回）

(2) 就労支援

就労を希望する利用者 8 名を対象に、「はたらくこと」をテーマにグループワークを 2 回行い、ジョブサポートかたくりが週 1 回施設外作業を行っている企業に見学に行った。また、ジョブサポートかたくりの生活支援講座に参加し「はたらくために必要なこと」について学ぶ機会を持ち、働くことへの意欲向上につながった。さらに 2 名ジョブサポートかたくりで 5 日間の実習を行った。

(3) 生活支援

利用者が主体者として、所内生活の自主管理や行事等での主体的活動ができるように支援した。また、利用者の意見や要望が施設運営に反映できるように努めるとともに、興味のあるプログラムの提供等を通して生活技術の向上につながるよう支援を行った。

ア. 行事

※印は任意参加行事

行事名	実施日	場所・内容
福祉音楽祭 in ねりま	4/16	練馬文化センターにおいて、地域団体主催の音楽祭に参加し、舞台発表や自主製品販売を行った（利用者 37 名）。参加しない利用者は、所においてレクリエーション活動を行った。
レクリエーション活動	4/24	和光樹林公園：利用者・家族・ボランティア・職員の交流を深め、心身のリフレッシュを目的として行った。（利用者・家族・ボランティア 92 名）
練馬区障害者施設合同運動会	5/23	南町小学校で、区内通所施設が集まり開催された。（利用者 45 名・家族 44 名）
※障害者スポーツ大会	5/23～24	東京都障害者スポーツ大会の案内をし、希望者が陸上・水泳に参加した。
グループ活動	5～6月	上野動物園、ボート、都電の旅、東京ドームアトラクションズ、ジブリ美術館、JAL 工場見学、ANA 工場見学、スカイの 8 コースを 11 回に分けて小グループでの活動を行った。
宿泊旅行	9/10～11 9/17～18	福島いわきと千葉小湊の 2 か所を設定し、利用者の希望による選択制とした。
かたくり祭り	10/17	施設公開、作業体験、アトラクション、模擬店、バザー等を行った。来場者数約 400 名
四所交流会	11/13	区立四作業所が集まり、ユニバーサルスポーツボッチャや歌・踊りを行い交流した。
※障害者フェスティバル	12/5	光が丘区民センターにおいて舞台発表、周辺で販売会を行い作業所の紹介とともに地域との交流を図った。
忘年会	12/28	利用者によるレクリエーションを楽しんだ。
納め会	3/31	1 年間の業績発表・ボランティア感謝企画、「がんばった」で賞表彰、感想発表、送別会を行った。

イ. クラブ活動

クラブ活動を月 2 回行った。前期には興味や関心を引き出す機会として、通常クラブに加えて特別クラブを設定した。また、前期・後期に拡大クラブを設け、地域の体育館を利用したプログラムや近隣の福祉作業所の見学や工場見学など、地域の施設を利用して活動の充実を図った。

(ア) 通常クラブ、特別クラブ

a. 前期:第1・3木曜日 午後2時30分～午後3時30分

音楽、スポーツ、レクリエーション、特別クラブ(折り紙)、拡大クラブ(カラオケボックス・区立体育館・すまいる工房見学・砂絵体験)

b. 後期第1・3金曜日 午後2時30分～午後3時30分

音楽、スポーツ、レクリエーション、フェスティバル、拡大クラブ(カラオケボックス・区立体育館・コココーラ工場見学・年賀状作り)

ウ. 利用者会(青空会) 月1回 第4木曜日 午後3時～午後3時30分

利用者会の中から前期・後期6名の委員を選出し、事前に委員会を開催して議題を検討した。委員会での検討内容は、各作業班の話し合いの中にも取り入れ、利用者が話し合いに参加できる機会を増やすことで、利用者自身が主体的に運営するという意識が持てるように支援を行った。送別会・忘年会などの行事内容は、青空会委員が中心となって企画した。また、地域交流イベントではフリーマーケットを行った。

《主な議事内容》

- ・青空会委員の選出、行事説明、行事の係選出、行事の感想など
- ・所内生活について(行事や余暇活動についての提案、更衣室やトイレ、CDの利用について、言葉遣い・あいさつ等について、ネリーズについて、提案事項等)
- ・就労関連情報、苦情解決など
- ・企業見学報告

エ. 皆勤賞(応援プログラム)

利用者が作業や作業所のプログラムに意欲的に参加し励みになるように、納め会で利用者全員に、一人ひとりの「がんばったこと」「良かったこと」の表彰を行った。

オ. 利用者余暇支援・利用時間の延長(共通)

(ア) 休日余暇支援事業(みんなのつどい)

登録した利用者(かたくり福祉作業所34名、白百合福祉作業所16名)を対象に、原則毎月第3土曜日に作業所において、レクリエーション活動を行った。季節に合わせたプログラムの企画を行うとともに、多くのボランティアの協力を得て演奏やコーラスなどを楽しみ余暇の充実を図るとともに、地域住民との交流の機会ともなった。

※年間計11回開催、利用者参加延べ288名(内かたくり福祉作業所利用者延べ214名)

(イ) 施設利用時間の延長

家族の私用、急用等の事情にあわせて便宜を図るため、施設利用時間の延長を行った。  
延べ41回

カ. 利用者の役割

(ア) 広報紙編集委員

広報紙「しゃぼんだま」についての内容検討・カット・印刷・折り作業などをともに行った。  
3名選出。

(イ) 行事担当

各行事について、企画や運営に関する役割を担った。

(ウ) 清掃当番

所内・運動場を全員で清掃し、自分たちが利用する施設に対して美化の意識をもった。3ヶ月ごとに清掃場所の変更を行った。

キ. 家族との連携

連絡帳、家族会の開催(年12回)、個別面談等を通じて家庭と連携し、支援の充実を図った。

(ア) 家族会(B型月1回)

年12回開催。年度の計画、方針、各行事、施設サービス、保健などについての説明や報告、意見交換を行った。また防災講座の実施や家族会主催で「ケアホーム西東京」の見学会を行った。

(イ) 個別面談(年1回および必要に応じて随時)

(ウ) グループ懇談(5月・12月)

年2回(5月、12月)班の担当職員と家族で、グループ内での日常の作業内容やそれぞれの利用者の様子などを知らせ、質問、意見の交換を行った。

(エ) 精神科相談

年4回 利用者の精神面や生活の安定のための相談のきっかけ作りとして実施した。

(オ) 苦情解決第三者委員との懇談会（共通）

年1回実施（1/8）。職員は入らず、第三者委員と家族のみで行い、施設への要望や苦情等の聞き取りを行った。

#### (4) 健康・給食・安全管理（共通）

##### ア. 健康管理・健康活動・保健衛生

###### (ア) 健康管理

項目	内容	実施日	受診人数
健康診断	胸部 X-P、尿検査、血液検査、聴診	1/15	43名
内科検診	血圧測定、心肺音聴取等	毎月1回	44名～53名
歯科	う歯、歯石、歯肉の炎症、咬合検査	5/22	53名
眼科	眼底検査	4/9	48名
耳鼻科検診	耳、鼻、咽頭検査	6/16	51名
歯磨き指導	歯科衛生士による指導	6/13	11名
体重測定		毎月1回	—
災害時服薬管理	災害時に薬の保管を行う。	年2回	35名分

###### (イ) 健康活動

ラジオ体操、健康指導を行った。ジョギング、ウォーキングは、北大泉野球場の協力のもと水曜・金曜に芝生の球技場で行った。

##### イ. 給食

嗜好調査を実施し、リクエストメニューや利用者が企画した献立等、利用者の声を献立に反映させた。

##### ウ. 危機管理・安全対策

(ア) 安全対策 定期的に所内の安全対策を行った。

(イ) 災害対策 避難訓練（火災・地震・震災）を毎月実施した。

a. 地震想定：B型・移行：（4月、7月、10月、1月）

b. 火災想定：B型・移行：（6月、9月、2月、3月）

c. 震災想定：B型・移行：（5月、8月、11月、12月）

d. 滑り台訓練（B型）：年2回実施（7月、2月）

e. 災害時引き取り訓練（共通）：年1回実施（12/1）震災想定避難訓練後、避難拠点「大泉第一小学校」にて、家族への引き渡し訓練を行った。

f. 防災講座の開催：（共通）（12/1）「災害に備える・避難拠点」の講座（講師：練馬区立防災学習センター）を家族対象に開催し21名参加した。また、家族向けに災害伝言ダイヤル・webの体験を行った。

g. 災害緊急メールの登録（共通）大規模災害時に、あらかじめ登録してあるメールアドレスに情報を送信するため、利用者・家族に緊急メールの登録を促した。避難訓練後、訓練メールの送受信訓練も行った。

h. 防災備蓄の整備（共通）大規模災害に備え、飲料水等備蓄品の点検を行った。今年度は、ヘルメットの設置や装着訓練を行った。

i. BCP（事業継続計画）の見直しを行い、就業時間内と時間外での発災から翌日までのBCPを周知・共有した。

j. 職員向け防災研修

防災保守点検事業者の協力のもと、職員向けに非常ベル・防火シャッター・消火器等の体験を行った。

(ウ) 防犯対策等 警察署・消防署と連携し安全管理に努めた。

交通安全指導（B型）：年1回（10/7）

「見通しの悪い十字路の横断の仕方と安全確認」をテーマに実施した。かたくり福祉作業所の周辺をビデオ撮影したものを視聴した後、警察の協力のもとで横断、側方通過の体験を行った。また、防災訓練時に消防署職員が来所し、講和や注意事項を確認する等の実践的訓練を行った。

#### 4. 地域活動（共通）

##### (1) 施設公開、イベントの企画・実施

ア. かたくり祭り（施設公開イベント）10/17 来場者 約400名

施設のことをより広く知ってもらうため、作業公開・体験をはじめアトラクション・ゲームを

行うとともに地域の団体等によるお店等の出店協力を得て地域の方々と交流した。

a. 作業公開 b. 模擬店 c. アトラクション d. バザー e. 自主製品販売等

#### イ. 地域交流イベント 6/20 来場者 約 500 名

練馬区社協の拠点として、地域に開かれ、また気軽に立ち寄ることのできる作業所を目指し、さまざまな地域交流事業を行った。

- a. 地域住民による 12 区画のフリーマーケット
- b. 町会による写真展示、水ヨーヨー祭り
- c. 民生児童委員協議会による綿あめ・ポップコーンの配布、募金活動
- d. カフェ、抹茶、カレー、焼きそば、フランクフルト、かき氷、ラムネなどの模擬店
- e. 自主製品販売、他施設販売
- f. 地域中学校演奏会、ショウエイダーショー、マジック等

#### ウ. 施設公開

##### (ア) 施設公開

年 3 回、イベントやお祭りとは違う作業の様子の見学を通し、利用者や作業所への理解を深める機会とした。11 月 17 日は、近隣の大泉町福祉園と同時開催した。

5/26：参加者 11 名 11/17：参加者 13 名 2/4：参加者 19 名

##### (イ) 施設見学・体験 夏休み特別企画「かたくり探検ツアー」(7/21～8/21) 参加者 24 名

区内小中高校生が、夏休み期間に作業所の見学・体験を通し作業所や利用者への理解を深める機会として実施した。近隣の小学生や家族が作業所や障害を知り、特別支援学校在学生在が卒業後の進路のイメージを作る機会となった。

### (2) 実習生・研修生の受け入れ

#### ア. 入所実習

入所実習・体験実習：12 名 (B 型：7 名 移行のみ：4 名 移行アセスメント：6 名)

#### イ. 福祉実習

(ア)「教育職員免許法特例における介護等体験事業」研修生の受け入れ：5 名

(イ) 資格取得実習 (社会福祉士、精神保健福祉士 等)：23 名

#### ウ. 体験実習

都立大泉桜高校奉仕体験 前期 5・6・9・11・12・1・2 月の 19 日間 計 10 名 延べ 64 名

### (3) 施設・障害の理解促進、地域の人材発掘

障害や施設について理解を深めるため、学校等への積極的な PR や講師派遣を行った。

ア. 大泉桜高等学校 1 年生奉仕の授業「ボランティアをやるにあたって」(4/21)

イ. 練馬区立大泉北中学校 職業講話「福祉作業所の仕事について」(2/26)

### (4) 見学者・ボランティアの受け入れ・協働

#### ア. ボランティアとの協働

年間を通して作業やイベント・クラブにおいて、ボランティアの協力のもと事業を実施した (作業 164 名、イベント 125 名、かたくり祭り 80 名、特別クラブ 10 名、花クラブ 55 名、みんなのつどい 40 名、忘年会 6 名、納め会 9 名、その他 18 名 延べ 507 名)。作業等のボランティアを納め会に招待し、一緒に納め会を楽しみ、感謝の手紙をお渡しした。その他、大泉北中学校の生徒 9 名のボランティア体験等の受け入れを行い紙芝居の披露や作業において交流した。

#### イ. ボランティア懇談会

ボランティアに呼びかけ懇談会を開催し利用者と交流を図った。1/26 参加者 9 名

#### ウ. 見学者の受け入れ

常時、見学者の受け入れを行った。団体では、旭出学園特別支援学校、練馬特別支援学校、和光市の就労支援 B 型事業所、練馬区パワーアップカレッジ、区立家族会が来所し交流を図った。

### (5) 講座等の開催

小地域福祉活動の一環として、かたくり福祉作業所で地域住民を対象とした講座を開催した。

「みんなで歌おう♪歌声広場」2 月 27 日 (土) 13:00～15:00 参加者 33 名

### (6) 地域との協働 (地域貢献)

#### ア. 町内会等との協働

(ア) 大泉町連合町会 大泉町流し踊りの参加 9/6 参加者 16 名

(イ) 大泉三丁目町会こども祭りに協力 10/4

(ウ) 大泉北泉町会主催の防災訓練に参加 11/19 参加者 65 名

(エ) 北大泉商栄会主催大泉第一小学校朝市 (寒桜まつり) 12/6

## イ. 団体等の協働

- (ア) 大泉まちづくりネットワーク会議に参加 (年 12 回)
- (イ) 「ゆちゃぶの会」(高齢者の居場所づくり)に参加 5/12 参加者 12 名
- (ウ) 「音楽交流フェスタ」(あかねの会主催)に参加 8/9 参加者 27 名
- (エ) 大泉まちづくりネットワークの大泉学園通り落ち葉掃きに参加 12/3 参加者 9 名
- (オ) デイケア・かたかごの花クリスマス会に参加 12/21 参加者 15 名

## (7) 緑化事業

「練馬みどりの機構」と協働で、地域のボランティアとともに定期的に地域の公園や花壇の手入れを行った。(月 1 回) また、「練馬区みどり推進課」と協働で越後山憩いの森緑地において農作物の種まき・苗植え・収穫作業を行った。(年 5 回)

## (8) 自主製品の委託販売

地域住民に施設や自主製品を広めるため、地域の和菓子店を中心に製品を置いていただいた。新規に 1 店舗の協力が得られた。  
また、製品の補充や営業を利用者とともに定期的に行い交流を図った。  
13 店舗、3 ボランティア・地域福祉コーナー

## 5. 施設運営・利用者の権利の擁護 (共通)

### (1) 職員研修・育成

#### ア. 練馬区内作業所職員合同研修会の実施

区立 5 所で実施した。12/11 「福祉作業所・福祉工房の役割」参加者 14 名参加 (全体 44 名)

#### イ. 職場内研修の充実、外部研修・自主研修への積極的参加

支援の充実、職員の資質向上をめざし研修を受講した。研修参加 90 回 参加職員延べ 150 名

#### ウ. 人材育成計画に基づいた内部研修への参加、障害についての専門的研修への積極参加

支援会議等における内部研修の充実および練馬障害福祉人材育成・研修センター等の研修を受講し、専門性の向上に努めた。

### (2) 相談・苦情対応、個人情報保護、リスクマネジメントの取り組み

#### ア. 相談・苦情対応

(ア) かたくりのこえ (ポスト) を B 型 5 カ所、移行 2 カ所に設置し利用者の声・要望に対応し

(イ) 苦情解決第三者委員巡回相談

巡回相談 (8/10)、家族会懇談 (1/8) を実施し利用者・家族の要望や苦情の聞き取りをした。

#### イ. 個人情報保護とリスクマネジメント

(ア) 個人情報・情報セキュリティに関する内部研修等を通じ、個人情報保護に関する意識啓発を行った。

(イ) 「ヒヤリハット情報」の収集を行い、リスクマネジメント体制を整え、職員間で共有し事故等の防止に努めた。

### (3) 広報活動

施設広報紙「しゃぼんだま」を発行 (5 月・9 月・1 月・3 月)、練馬区社協ホームページでの情報提供、練馬区社協広報誌「社協だより」への記事掲載、掲示板の活用を通して施設 PR や事業紹介を行った。

### (4) 運営協議会の開催 (年 2 回開催)

地域関係者、利用者・家族、練馬区および施設職員を構成員とする協議会を設置し、利用者サービスの向上、施設運営の改善等のための意見交換、協議を行った。(7/24、3/11)

### (5) 地域福祉活動計画の推進

各種委員会に参加し、第 4 次地域福祉活動計画の推進を図った。

### (6) 調査

利用者・家族を対象に「利用者アンケート」を実施し、満足度調査を通して施設サービスの改善点や課題を明らかにしてより良い運営を目指し改善点に取り組んだ。

### (7) 関係機関との連携

必要に応じて、福祉事務所、医療機関、障害者地域生活支援センター、就労支援団体、地域団体等と連携を取りながら利用者支援を行った。

## 6. 利用者支援【就労移行支援事業「ジョブサポートかたくり」】

### (1) 作業支援

受注作業、自主製品作製・販売、公園清掃等を通し、利用者の就労に必要な挨拶・返事・報告・質問等のスキルが獲得できるよう個別の目標を立て支援を行った。今年度は、新規に事業者(1社)と契約し作業の幅を広げることができた。

#### ア. 個別支援の充実

利用者の状況を把握し、意向や希望を聞き取りながら個別支援計画を作成し、個々の課題に対し、必要な支援を行った。今年度は、個別支援計画アセスメントの見直しを行いより就労意欲につながる様式とした。また、家族とも連携し、支援の充実に努めた。

(ア) 家族との連携 個々の状況に応じ実施した。

(イ) 個別支援策定会議 (年4回および必要に応じて随時、面談を行った)

#### イ. 工賃の支給、評定

4か月ごとに評定会議を開催し、評定点数を決定し工賃を支給した。

#### ウ. 作業内容

作業種目	作業状況
日用品のセット作り	箱折り・箱の組み立て・封入・テープとめ・セットの作業を仕分けから完品、B型への納品まで総合的に行った。
ダイレクトメール	封入・封緘・ラベル貼り・区分け・結束機、丁合機の操作など、利用者が自ら検品や完品の作業を行った。
ハウスクリーニング・公園清掃	法人が所有する土支田の「どんぐりの家」と、くれはし公園の清掃を行った。道具の使用方や清掃方法を習得しながら作業を行った。
自主製品製作・販売	各販売会や出張所での自主製品の販売を通し接客などの訓練を行った。
施設外作業	「ショップ学園通り」での販売・接客、企業に赴いての配架作業を行い、就労へのイメージを深めた。
パソコン入力	パソコン入力やワード・エクセルなど基本操作の練習を行い、就労に向けて必要なパソコンスキルの習得を行った。
ワークサンプルプログラム	OA作業、事務作業、実務作業に大別された13職種の訓練プログラムを通し、仕事のイメージづくりと作業遂行力の向上を図った。

### (2) 就労支援

利用者の希望や適性に応じ関係機関と連携をしながら、企業実習、求人登録や申請など必要な手続きの支援を行った。

#### ア. 地域就労支援ネットワーク作り

練馬区障害者就労支援ネットワークに積極的に参加し、他機関との連携を図り情報の共有化に努めた。今年度は、地域の精神保健連絡会にも参加し、ネットワークづくりを行った。

#### イ. 職場開拓

ハローワークやレインボーワークと連携し、職場開拓を行った。

#### ウ. 体験実習

企業とのつながりから、体験実習を1名実施した。

#### エ. ハローワークとの連携

職場開拓や体験実習等において、ハローワークと連携し利用者就労支援を行った。

#### オ. 職場定着支援

定着者3名の職場や機関等と連携し支援した。職場訪問・面談等を実施し定着支援を推進した。

#### カ. 余暇支援

就業者へ、グループ活動・外出行事等への参加を呼びかけ、余暇の幅を広げる機会を提供し、安定した就業生活につながるよう支援した。参加回数：グループ活動2回、外出活動2回、かたくり祭り1回

#### キ. 就労支援の状況

(ア) 就労者 今年度は就労者なし

(イ) 企業見学 5回・・・都内の特例子会社等の見学会に参加した。

(ウ) 企業実習 1名(延べ)・・・特例子会社で実習を行った。

(エ) 採用実習 なし

### (3) 生活支援

社会ルールやマナーなど社会生活に必要な技術や知識を身につけられるよう、生活支援講座を計画的に全 38 回実施した。

#### ア. 生活支援講座 (主な内容)

講座名	回数	内 容 等
働く	8 回	働く上で必要なスキルと仕事の「報告・連絡・相談」等の講座や、人と接するときの態度や距離感などの対人スキルを身につけられるよう、ロールプレイなども行った。
生活	10 回	健康管理や身だしなみなどについて、働く上で必要な生活面におけるマナーやルールを学ぶための講座を行った。
社会	8 回	事前講習で学んだことを公共の場で体験し、社会生活に必要なスキルを身につけてもらう機会として行った。
グループ活動	6 回	楽しみながら視野を広げるとともに、社会経験を豊かにすることを目的に、利用者が希望する施設や体験できる場所へグループで出かけた。でかけるにあたっては、利用者間で場所や行程の話し合いを行い、計画を立て実施した。実施後、振り返り、壁新聞の作成を行った。 場所：1 回目 東京スカイツリー 2 回目 花やしき・仲見世通り
調理実習	2 回	調理の事前実習と自立生活のため調理や安全な調理道具の使い方、衛生について学んだ。
社会活動	4 回	公共の場におけるマナーを学ぶこと、外出活動で必要な情報収集の方法について講座を行った。また、療育手帳の活用方法を知り、余暇において活動の幅を広げる体験も行った。 外出：1 回目 東京臨海広域防災公園 (防災体験) 2 回目 国立科学博物館、国立西洋美術館

#### イ 行事 (就労継続支援 B 型に掲載)

## 【豊玉障害者地域生活支援センター きらら】

事業種別：「指定特定相談支援事業」「指定一般相談支援事業」「地域活動支援センターⅠ型」

障害のある人たちや、その家族が地域で孤立せず、安心して自分らしくいきいきとした生活を送ることができるように一緒に考え、支援することを目的として各種事業に取り組んだ。また、基幹相談支援センターとしての機能の充実を図り、ういんぐと連携し、区内における相談支援事業（特に精神障害者に対する）をすすめ、相談支援体制の強化に取り組んだ。

### 1. 相談支援事業

障害者総合支援法第5条の第16項及び17項に規定する相談支援事業を行った。

#### (1) 地域の障害者の福祉に関する相談(基本相談支援)

生活上の相談、病状のこと、仕事や対人関係の不安や悩みなどの相談を受けた。

《電話相談》 月・火・木・金曜日の午前9時～午後8時  
土・日曜日の正午～午後8時

《面接相談》

随時：火・金・土・日曜日の正午～午後7時

予約：月曜日の午前9時～午後7時、火曜日の午前、木曜日の午前と午後4時～午後7時

ア. 相談件数

(単位：件)

	電話相談 (1日平均)	面接 (1日平均)	電話相談と面接相談の合計数
26年度	4,673 (16.2)	1,858 (6.4)	6,531
27年度	6,104 (21.4)	2,187 (7.7)	8,291

イ. 相談内容

電話相談、面接相談の相談内容の合計では「不安解消・情緒安定」に関する相談が50%で最も多く、次に「福祉サービスの利用」に関する相談が28%と続く。その他の相談はそれぞれ1%から4%ずつの間で占めており、依然として「不安解消・情緒安定」に関する相談をしたいという利用者の傾向がうかがえる。また、関係機関との連絡調整等も含めた全ての相談総数が8294件から10132件へと増加している。

(ア) 電話相談

年間の電話相談件数は6104件で、前年度の4673件より1431件の増加がみられた。最も多い相談内容は、「不安解消・情緒安定」に関する相談で62%を占めている。次いで「福祉サービスの利用」に関する相談が19%を占めており、計画相談支援や地域生活支援センターの利用に関する相談等がある。

(イ) 面接相談(予約・随時・訪問)

年間の予約面接・訪問相談件数および随時相談は2,187件であった。特に訪問相談は前年度の281件から394件へと増加をしており、これは計画相談支援や地域定着支援により利用者宅や病院等を訪問する機会が増えたためと考えられる。

(ウ) 関係機関・他職種専門職との連携

- 相談支援事業における相談者の支援のため、関係機関との連携を図った。電話や面接等で連携を計1,660件行い、支援の充実に努めた。
- 精神保健福祉医療、障害福祉の関係者との連携・協力の強化を図るとともに、地域課題を共有し、情報交換を行う場を設けた。

#### (2) 障害福祉サービス等の利用計画作成(計画相談支援)：指定特定相談支援事業

障害者総合支援法第5条の16項に規定する計画相談支援事業を行った。障害福祉サービス利用者がよりよい地域生活が営めるように、障害福祉サービス等の申請に係る支給決定前にサービス等利用計画案を作成し、支給決定後にサービス提供事業者等との連絡調整を行い、サービス等利用計画の作成を行った。また、障害者の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントを実施した。

ア. 計画相談支援のための契約締結を行い、サービス等利用計画を作成した。

(契約者234人、サービス等利用計画作成133件、セルフケアプラン作成14件)

イ. サービス等利用計画及びサービスが適正に行われているか、本人と家族や関係機関にモニタリングを行い、ケアマネジメントを実施した。

ウ. 支給決定後のサービス等利用計画の見直し(モニタリング)を実施した。(212件)

エ. 地域のサービス事業者等、社会資源との連携、連携、情報共有を図り、障害者がすみやかに地

域生活を行えるよう環境整備と連携を図った。

### (3) 地域生活の移行に向けての支援(地域移行支援・地域定着支援)：指定一般相談支援事業

障害者総合支援法第51条の19第1項に規定する地域移行支援・地域定着支援のための相談・調整を行った。

#### ア. 地域移行支援

精神科病院等からの退院にあたって、支援を要する人に、精神科病院等における地域移行の取り組みと連携しつつ、地域移行に向けた支援を行った。

##### (ア) 入所施設との連携

必要に応じて情報提供をした。

##### (イ) 精神科病院との連携

主に社会復帰病棟を訪問し、入院者や医療関係者に地域情報を提供した。ソーシャルワーカーと連携をとり、入院者の地域移行の支援を行い、必要に応じて地域移行支援計画を作成し、それに基づいて入院者が退院後に安心して地域生活が行えるための支援をした。

(地域移行支援計画作成2件、退院者1名)

#### イ. 地域定着支援

精神科病院から退院した人、家族との同居から一人暮らしに移行した人、地域生活が不安定な人等に対し、地域生活を継続していくための支援を行った。(地域移行支援契約者3名)

内容	内容	件数
精神科病院、地域のサービス事業者などとの連携	入院者や医療関係者に地域情報を提供し、入院者の地域移行の支援を行った。また、地域の社会資源を発掘、連携、情報共有を図り、地域移行者がすみやかに地域生活を行えるよう環境整備を図った。	54件
関係機関会議への参加	地域生活移行支援会議圏域別会議・いっぽの会・練馬区退院促進検討会	合計8件

### (4) 就労支援に関わる相談支援の充実

トライアルゼミ(就労準備支援グループ)、プログラムを中心に、就労実習体験、サービス提供事業所やハローワークの見学等を実施した。

関係機関	具体的な取り組み	件数
就労移行支援事業所・就労継続支援事業所A、B・レインボーワーク・ハローワーク・民間企業	福祉サービスの利用についてや、障害・病状の理解についての相談に対応し、利用者本人が希望する就労に向け関係機関と連携を図った。就労支援機関と共催プログラム等を開催し、就労への意欲向上やきっかけ作りの支援に取り組んだ。	326件

## 2. 地域活動支援センター事業

障害者総合支援法第77条の1第1項第9号に掲げる事業のうち、社会との交流促進その他の練馬区障害者地域生活支援センター条例施行規則で定める事業を行った。

### 登録者の状況

きららでは利用登録申請制度を取っているが、今年度は新たに29名の登録者があった。

登録者総数の45%が豊玉健相談所管轄の利用者で、次いで石神井保健相談所管轄、光が丘保健相談所管轄の利用者が多い。区外からの利用は11%を占めている。年齢別では、40代が36%と最も多く、次いで50代が26%、30代が22%の利用がある。

#### 性別

	男性	女性	総計
登録者総数	313名	262名	575名
26年度登録者数	18名	10名	28名
27年度登録者数	19名	10名	29名

#### 年齢別

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明	総計
1名	32名	125名	210名	147名	60名	0名	575名

#### 地区別(保健相談所担当地区別)

豊玉	大泉	石神井	光が丘	北町	関町	区外	総計
258名	43名	90名	67名	34名	17名	66名	575名

**(1) 障害者の社会との交流の促進**

地域の商店会、町会等のイベントに参画、または協力し、地域住民と障害者の交流を図った。また、障害者の参加により、地域活性化にも貢献し、きららを地域の方に知ってもらう機会となり、地域で活動の場が広がった。

ア. 地域の商店会・町会等のイベント

- (ア) つつじフェスタ (4/29・35人)
- (イ) 七夕祭 (6月～7月・47人)
- (ウ) 納涼祭 (7/24・21人、7/25・23人)
- (エ) 石薬師市 (8/8・19人)
- (オ) 酉の市 (一の酉 11/5・27人、三の酉 11/29・33人)

イ. 「花くらぶ (園芸プログラム)」「街清掃」「練馬こども笑店街」

- (ア) 花くらぶ (園芸プログラム) (毎週火曜、634人)
- (イ) 練馬こども笑店街 (7/4・24人)
- (ウ) 街清掃 (毎月第2火曜)

**(2) 関係機関との連携**

ア. 相談支援事業における相談者の支援のため、関係機関との連携を図った。

電話や面接等で連携、計 1,666 件

イ. 関係する機関が主催する会議やイベントに参加し、情報の共有、情報提供・交換を行い、連携を図る。また、関係者が課題とする共通のテーマを設定した、会議や勉強会を開催した。

- (ア) 商店会・町会等主催イベントの実行委員会に参画した。
- (イ) 関係機関との連携強化を図り、相談者に対し質の高いサービスが確保されるように、関係機関が開催する連絡会議等にも積極的に参加した。

名称	内容
地域生活支援センター所長会・練馬区中途障害者支援事業連絡会・高次脳機能障害関係者連絡会・SSTを活用した交流会	・関係機関とのネットワーク化 ・指定障害者福祉サービス事業者等とお互いに顔が見え、情報共有できる関係を築けるよう努めた。

(ウ) 地域密着型連携支援事業の推進

練馬障害福祉人材育成・研修センターとともに豊玉地区・光が丘地区における障害福祉サービス事業所の情報交換会を行った。事業所の抱える課題等を事業所間とともに考え連携して支援できる環境をつくることを目的に、地域課題の共有や情報交換を行った。

「地域密着型連携支援事業における情報交換会」開催

各事業所の現状・抱える課題等についての情報交換等の内容で 5 回実施

※詳細は P.75【練馬障害福祉人材育成・研修センター】1 (3) 参照

(エ) 精神保健福祉関係者が主催する会議や連絡会に参加した。

「地域精神保健福祉関係者連絡会」(光が丘・北保健相談所精神障害者関係者連絡会 3 回)

**(3) 地域住民との連携及び啓発、育成**

ア. 障害に関する理解を深めるため、地域住民との交流を図り、福祉のまちづくりを目指した。

(ア) ボランティア交流会を開催し、ボランティアとメンバー、スタッフが情報共有と日頃のプログラム活動等の振り返りを行う機会を設けた。

(イ) つつじフェスタ、七夕、練馬こども笑店街、豊玉睦会納涼祭、酉の市等の地域のイベント、お祭りへ参加した。

※詳細は 2 (1) 参照

(ウ) 当事者が支援者となる関わりの場として、シンポジウムやプログラム、地域の作業所等との交流の場への参加を促した。

イ. 当事者への生活支援、就労支援、地域交流、組織化等の事業に、積極的なボランティアの受け入れや地域住民がボランティアを始める導入の機会を設けた。

活動内容	日数	延べ人数
花くらぶ園芸サポーター、練馬区健康いきいき体操サポーター (スポーツプログラム)、食事会、茶道体験、囲碁入門講座、パソコン開放、オープンスペース、男性料理教室、女性料理教室、トライアルゼミ、SST、栄養講座などのプログラムや地域の祭りにともに参加。	158 日	375 名

ウ. 精神保健福祉講座の開催

(ア) 障害当事者・家族・関係機関・地域住民向け「誰でも参加できる SST」を開催した。

4/19、6/14、10/31、1/30、述べ 121 名の参加。

(イ) 社会貢献活動として、福祉に興味のある一般市民向けに SST を活用した地域向け SST プログラムの開催をした。

6/22、7/27、9/28、延べ 27 名の参加。

(ウ) 関係機関等を対象に「SST リーダー研修」を開催した。

6/4、7/30、10/29、10/30、延べ 54 名の参加。

**(4) 障害に対する理解の促進を図るための普及啓発**

ア. 地域生活支援センターだより「たけのこ」を毎月発行した。

イ. 各種パンフレット、チラシ掲示・配布をした。

ウ. 社協ホームページにて「きらら」の紹介と「たけのこ」の掲載をした。

発行物・イベント等	内容	
豊玉障害者地域生活支援センターきららだより「たけのこ」	月間スケジュール、福祉関連情報、プログラム・イベントのお知らせ・報告	毎月 2,300 部発行(関係機関・希望者配布)
きららパンフレット	きららの利用について/きららの概要	随時発行
きらら主催イベントのチラシ	講座、パソコン教室、茶道体験、出張きらら、就労プログラム等の周知	随時発行
練馬区社協ホームページ	きららパンフレット/きららだより「たけのこ」	毎月掲載
出張きらら開催(光が丘)	光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナーと共催でプログラムを企画し開催した。	年間 7 回開催

**(5) 障害者の自立した日常生活を営むために必要な支援**

ア. 日常生活における必要な技術の習得、憩いの場や様々な情報提供、当事者、関係機関の情報交換の場の提供、生活の質を高める援助等を行うためのプログラムを開催し、豊かな生活を送れるよう支援した。

(ア) オープンスペース(安心して気楽に過ごせる場)の提供

仲間と話しをしたり、安心して過ごせる居場所。オープンスペースを利用することで、相談につながるきっかけとなった。喫茶コーナー、図書コーナー、情報コーナー、和室コーナーを配置した。☆火・金・土・日曜日正午～午後 7 時 6,255 名

(イ) 各種プログラムの開催

名称	内容・時間帯	延べ参加人数
オープンスペース	仲間と話をしながら、安心して居られるスペース。オープンスペースの利用から生活面、就労面等様々な相談にもつながっている。 火・金・土・日曜日正午～午後 7 時	6,255 人
パソコン教室	パソコンの操作を学ぶことで向上心を高める役割を果たした。専門のインストラクターが一人ひとりに合ったパソコンの技術を指導した。 第 1・2・3 火曜日午後 1 時～午後 5 時/4 クラス(初心者クラス・初級クラス A・B、復習クラス)を設定した。	520 人
パソコン開放	パソコン教室以外にもパソコンを使用する機会を設け、パソコンへの興味関心を深めた。パソコンのわからないところを指導するためにボランティアが入った。第 2・4 土曜日午後 2 時～午後 4 時	260 人
昼食会	多くの人とともに昼食をとる機会を持ち、楽しい時間を過ごした。ボランティアの方たちが季節に合わせた料理を作り、片づけをそれぞれが行った。 第 3 金曜日の正午～	185 人
昼食会(カレーの会)	多くの人とともに昼食をとる機会を持ち、楽しい時間を過ごした。ボランティアの方たちが料理を作り、片づけはそれぞれが行った。 第 2 金曜日の正午～	299 人
茶道体験	日常的に体験する機会のない和の静寂な世界を体験する機会を提供した。表千家講師伊藤宗郁先生がボランティアで指導した。 第 3 土曜日午後 2 時～	95 人
スポーツ	身体を動かしたいという要望により、利用者同志の親睦、健康増進を促した。卓球・ストレッチ・練馬いきいき体操等。定期的に運動したいという要望が多	230 人

	く月1回実施した。 第1土曜日午後1時30分～	
花くらぶ	ボランティアときららメンバーが、近所の公園や公共施設の花壇（練馬図書館・中央通り・練馬駅・平成つつじ公園・本通り商店会・練馬デイサービス等）の花を育て、手入れを行った。練馬区みどり推進課・練馬みどりの機構と協働。花壇毎週火曜日午後2時～午後4時	634人
レディースデイ	女性だけで女性特有の話をする機会を設けた。料理教室、女性の身体の変化について知るなど、女性メンバーの希望により様々な内容を行った。	24人
SST（ソーシャルスキルズトレーニング）	日常生活のコミュニケーションスキルを高める練習を行う。ウォーミングアップの技法から展開し、個別の課題に取り組んだ。今年度は個別課題の聞き取りを重点的に行い、実生活の中でより役立つ練習が出来るよう取り組んだ。 第1・2・3金曜日午後2時～午後4時	241人
出張きらら in 光が丘	光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナーと連携し、地域のボランティアに協力していただき、光が丘公園散策、フラダンス教室、野鳥観察等を行った。	82人
男性料理教室	単身でお住まいの方や、料理に慣れていない男性向けに簡単で美味しく、気軽に作れる料理と一緒に作って食事をした。講師は、練馬いきいき体操でお世話になっているボランティアの方（栄養士）。	33人
大掃除	きららオープンスペースの大掃除をメンバー有志とともに行った。年末恒例となっており、掃除の後には歓談しながら一年の無事を確認した。	18人
栄養講座	栄養士の資格を持つボランティアの方に講師を依頼し、食生活の改善や生活習慣病の予防等を目的に栄養講座を行った。	10人
年度末大掃除	年度末最後の日曜日に、オープンスペース等メンバー・スタッフで大掃除を行い、今年度を締めくくった。	21人
創作の日	「エコ楽しく倶楽部」との共催で一斗缶と自転車の部分を利用したちり取りを作った。ボランティア、メンバー、地域住民の交流の場となった。	17人

#### イ. 就労準備支援事業

就労の意欲・能力があってもその機会に恵まれない障害のある人に、就労のためのスキルや知識の習得、情報提供等を行った。

(ア) 就労準備グループ「トライアル・ゼミ」を開催した。

(イ) 就労移行支援事業・就労継続支援事業所・レインボーワーク・ハローワーク・民間企業と連携し、障害者の実態を雇用主等に伝え、普及啓発活動に努めた。

(ウ) 就労に特化した関係機関との連携や協働、ネットワークの充実を図った。

(エ) 就労を継続するための相談支援機能の充実を目指した。

就労準備グループ トライアルゼミ	就労の意欲・能力があってもその機会に恵まれないメンバーに対し、就労のためのスキルや知識、情報を共有し、就労するための気持ちづくりをするグループワークを行った。練馬区障害者就労促進協会（レインボーワーク）と共催。企業見学も行った。第4金曜日午後2時～午後4時	143人
就労実習体験	具体的な就労の場で働くことを体験する機会を提供した。 毎月第1月曜、第4日曜 体験先：光が丘 LIVIN、練馬デイサービスセンター。	49人
りりーふぼーと	就労している方が、情報交換をする会。仕事の悩みや不安、元気になるためのひと工夫など、同じように働く人が普段感じていることなどを話したりした。隔月第3土曜日 練馬区障害者就労促進協会（レインボーワーク）と共催。	31人
就労支援ネットワーク会議	練馬区障害者就労支援ネットワーク会議に参加し、就労に特化した関係機関との連携や共同のネットワーク構築を行った。 ☆練馬区障害者就労支援ネットワーク会議（分科会含む）6回参加	

#### ウ. 当事者活動の支援・組織化

当事者が主体となり、プログラムや活動を企画し運営できるよう支援する。また、地域で安心して生活できるように医療機関、福祉関係機関と連携し、入所施設や精神科病院等に入所・入院中の方に向けて地域の情報や当事者の生活の様子等を発信できるよう支援をした。

(ア) 「きらら」利用者の主体的な当事者会の支援（音楽を語る会、囲碁教室等）

名称	内容	延べ参加人数
囲碁教室	元日本福祉囲碁協会の会長を講師に迎え囲碁教室を行った。健生会の方も参加し、合同で講義を受けた。毎月1回開催。	89人
クリスマス会	ケーキやお菓子を食べながらゲームやメンバーの歌等による楽しいひと時を過ごした。実行委員形式で開催。	42人
音楽を語る会	当事者の会で実行委員を募り、自分の好きな音楽の思い出や音楽を通じた経験等を分かち合う時間を持つ。不定期で開催。	54人

外出（池袋ビュッフェとサンシャイン水族館）	外出の機会が減りがちな冬場に、話題の場所へ出掛けた。実行委員会形式でメンバーが行先案等を出し、希望した池袋への外出企画を実施した。	21人
-----------------------	---	-----

- (イ) 当事者、家族の勉強会開催（SST 勉強会、栄養講座、障害年金講座等）
- (ウ) ピア活動の支援（勉強会・講演会）
- (エ) 地域生活サポーター養成講座の開催
- (オ) ピア（仲間）通信「ぴあまっぷ」編集支援
- (カ) 「作業所紹介マップ」の改訂
- (キ) 病院入院者等へ訪問し、地域情報を発信支援、他

	名称	内容	回数・参加人数
当事者による地域生活サポーター活動	地域生活サポーター養成講座	当事者が地域生活サポーターとして、地域生活の先輩として入院患者の退院を応援する意義を学び合い、地域生活での工夫を出し合った。地域生活サポーターが自分の体験を話すことで入院患者が退院を現実に近いものとしてイメージすることができるように、活動をよりよいものにするにはどのような心構え等が必要なのかを共有、確認し、地域生活サポーターの質を高め合った。	毎月開催 延べ143名
	「ぴあまっぷ」会議 「作業所紹介マップ」改訂	当事者が地域生活サポーターとして「作業所紹介マップ」の改訂作業のため、編集箇所や取材計画を立てて取材をして、毎月の編集会議を行った。	毎月開催 延べ97名
	病棟でのグループワーク、プログラム参画	区内の3つの精神科病院（大泉・陽和・慈雲堂病院）と連携し、病棟訪問・交流・グループワークを行った。また、他区のピアサポーター及び地域生活支援センターと協働して東京武蔵野病院へ作業療法グループ及びデイケアの患者向けに、グループワークを行った。他に、各病院の祭りへ参加し、交流等をした。	計27回 延べ604名
	「作業所紹介マップ」改訂 作業所への取材活動	当事者が地域生活サポーターとして「作業所紹介マップ」の改訂作業のため、取材計画に基づいて区内の作業所を取材した。	計14回 延べ44名
	地域生活サポーターによる講演や説明会など	地域生活サポーターが区内の精神科病院等において当事者・関係者に向けた講演や説明会を行い、地域生活についての情報発信と当事者活動の紹介をしながら、情報交換と交流の場として参加した。	計2回 延べ24名

#### エ. 家族会との協働

家族会と協働した勉強会等の開催や定期的な相談会等を行う。

名称	内容・日時	延べ参加人数
障害年金勉強会	社会保険労務士を講師に招き、障害年金について気軽に相談する機会と、障害年金の周知を目的に支援者向けの勉強会を行った。2/21開催。	27名

### 3. その他

#### (1) 基盤整備

豊玉障害者地域生活支援センターの運営や利用のあり方の検討や地域における福祉分野の課題について検討するため、運営委員会等を開催した。

ア. 「運営委員会」「茶話会」の開催

名称	内容・時間帯
運営委員会	精神保健福祉に造詣が深く、経験豊かな地域住民、専門職、関係機関・団体の方に参画を依頼し、2か月に1回、意見を出し合い、きららの運営についてスタッフとともに検討した。年間6回開催した。
茶話会	利用者同士が話し合う場であるとともに、きららへの要望を聞き取る機会とした。毎月1回 土曜日の午後1時～午後2時 延べ244名参加

- イ. 障害者地域自立支援協議会専門部会を開催した。  
 ウ. 障害者自立支援協議会専門部会（高齢期支援部会）を開催した。

名称	内容	回数
障害者地域自立支援協議会	障害者の自立した日常生活または社会生活を営むことができる地域生活を構築するため、障害保健福祉関係者等が連携し、情報の共有および協働を図るための方策を協議する場に参加した。	7/13、 11/9、 3/14、 3回
障害者地域自立支援協議会・高齢期支援専門部会	〈内容〉精神科病院の入院者・施設入所の障害者の地域移行・定着支援の課題について協議した。 〈構成メンバー〉 区内の精神科病院、障害福祉サービス事業者、練馬区民生児童委員協議会、福祉事務所、中部総合精神保健福祉センター、保健相談所、障害者施策推進課、練馬区社会福祉協議会	6/25、 10/27、 12/17、 3回

## (2) 職員派遣

- ア. 支援の充実、職員の資質向上を目指し専門性を高める研修に参加した。  
 （精神保健福祉研修 32 回・社協内部研修 4 回・その他の研修 4 回 参加職員延べ人数 47 名）  
 関係機関に職員を講師として派遣し、地域福祉の理解を深める機会を提供した。  
 研修センター研修「相談支援における面接技法」、Will の会勉強会、研修センター研修「サービス等利用計画作成について」、信韓大学大学院視察、練馬みどりの機構「初心者ボランティア園芸両方基礎講座」、ホットジョブ家族懇談会における勉強会、NPO ふろしきにおける S S T 体験研修

## (3) 地域の人材育成

- イ. 精神保健福祉士や社会福祉士養成機関の実習生、看護学生・保健師養成機関等の実習生、その他の見学者を受け入れ、専門職の育成及び現場の実践を伝える役割を担った。  
 ウ. 地域における支援課題に関して勉強会を主催し、また、地域の福祉人材とともに育ち合う機会を設けた。

名称	内容・時間帯
実習生の受け入れ	a. 資格取得実習（社会福祉士：18 名、精神保健福祉士：6 名） b. 施設体験実習（保健師・看護師：7 名、武蔵野大学ゼミ：7 名、社会貢献型後見人養成研修：3 名） c. インターン・シップ（地域福祉パワーアップカレッジねりま：3 名） d. 社会貢献型後見人養成実習（3 名）
人材育成	障害年金勉強会（※2（5）エ参照） 誰でも参加できる S S T・地域向け S S T（※2（3）ウ参照）

## (4) 危機管理・安全対策

- ア. 安全対策  
 定期的に所内の安全点検を行い、地域とのつながりを意識し、災害時の被害を最小限に抑え、安全を確保できるように豊玉すこやかセンターの防災訓練に参加した。所内の一時避難体制を強化するため、災害備品や備蓄品を検討・整備し、定期的に所内の安全点検を行った。
- イ. 災害対策  
 定期的に利用者・職員が区内や都内の避難訓練等に参加し、関係機関と連携強化を図った。  
 きららメンバーとスタッフとで「防災プログラム」を9月と3月に実施し、「防災ブック」の読み合わせを中心としたグループワーク、非難拠点の確認と非常食の試食会を行った。  
 災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練にきららからも2名参加。  
 施設独自の避難訓練や防災研修を行い、BCP（事業継続計画）の見直し・更新を行った。  
 安全対策委員会にて、7月に「練馬区における防災計画と社協職員として考えるべきこと」、1月に「災害時における情報発信について」の2回研修を行い、それぞれの研修にきららからも参加した。

## (5) 福祉サービス事業者等との連絡調整

関係機関が集まる会議体を主催し連携を図り、指定障害者福祉サービス事業者等との連絡調整の充実を目指した。また、関係機関が開催する連絡会議等に参加し、連携を図った。

### ア. 障害者地域自立支援協議会専門部会

障害者地域自立支援協議会における専門部会「高齢期支援部会」を開催し、地域における課題を検討した。

※詳細は3（1）イ、ウ 参照

イ．関係機関が主催する連絡会議等へ参加した。

練馬区精神保健ブロック別担当者連絡会、練馬区共同作業所連絡会、練馬区障害福祉サービス事業者連絡会など、区内の事業所との連携を図るため連絡会や会議へ参加した。

ウ．関係機関との連携・連絡

生活支援センター、保健相談所、総合福祉事務所、病院、クリニック、ハローワーク、レインボーワーク、就労支援事業所、訪問看護事業所、介護サービス事業所、指定特定相談支援事業所等と連携を図るため、連絡調整を行った。

## 【石神井障害者地域生活支援センター ういんぐ】

事業種別：「指定特定相談支援事業」「指定一般相談支援事業」「地域活動支援センター I 型」

障害のある方たちや、その家族が地域で孤立せず、安心して自分らしくいきいきとした生活を送ることができるように一緒に考え、支援することを目的として各種事業に取り組んだ。また、基幹相談支援センターとしての機能の充実を図り、きららと連携し、区内における相談支援事業（特に精神障害者に対する）をすすめ、相談支援体制の強化に取り組んだ。

### 1. 相談支援事業

障害者総合支援法第 5 条の第 16 項及び 17 項に規定する相談支援事業を行った。

#### (1) 地域の障害者の福祉に関する相談(基本相談支援)

生活上の相談、病状のこと、仕事や対人関係の不安や悩みなどの相談を受けた。

《電話相談》 月・水・木・金曜日の午前 9 時～午後 8 時 土・日曜日の正午～午後 8 時

《面接相談》 随時：月・水・土・日曜日の正午～午後 7 時

予約：水曜日の午前、木曜日の午前と午後 4 時～午後 7 時、  
金曜日の午前 9 時～午後 7 時

#### ア. 相談件数

(単位：件)

相談の種類	電話相談 (1 日平均)	面接 (1 日平均)	総数
26 年度	10,299 (35.5)	3,316 (11)	13,615
27 年度	11,664 (40.3)	3,446 (11.7)	15,110

#### イ. 相談内容

電話相談、面接相談の相談内容の合計では「福祉サービスの利用について」内容が 42.24%で最も多く、次に「不安解消」に関する相談が 34.20%、「健康・医療」に関する相談が 5.90%という順であった。

##### (ア) 電話相談

「福祉サービスの利用」の内容が最も多く、「不安解消・情緒安定」に関する相談が続いた。

家事援助などの介護支援や就労継続支援など訓練支援の利用へ向け、ケアマネジメントを行ったことが福祉サービスの相談件数増加につながっていると考えられる。

##### (イ) 面接相談(予約・随時面談)

年間の予約面接・訪問相談件数および随時相談は 3,446 件であった。来所相談では就労に関する相談の割合が増加した。就労継続支援事業所や就労移行支援事業所との連携が増加したことが、理由と考えられる。

#### ウ. 関係機関・他職種専門職との連携

(ア) 電話や面接等で連携を計 4,471 件行い、情報共有や事前説明などを行うことで支援の充実に努めた。(前年度 3,117 件)

(イ) 精神保健福祉医療、障害福祉の関係者との連携・協力の強化を図るとともに、地域課題を共有し、情報交換を行う場を設けた。

#### (2) 障害福祉サービス等の利用計画作成(計画相談支援)：指定特定相談支援事業

障害者総合支援法第 5 条の 16 項に規定する計画相談支援事業を行った。ケアマネジメントの視点から、障害福祉サービス利用者がよりよい地域生活が営めるように、サービス等利用計画の作成を行った。

	内容	具体的な取り組み	件数
(ア)	計画相談契約者	計画相談支援のため、契約締結した。	214件
(イ)	サービス等利用計画作成	アセスメントをもとに、サービス等利用計画の作成をした。	298件
(ウ)	サービス等利用計画の見直し	サービス等利用計画が適正に行われているか、本人と家族や関係機関にモニタリングを実施した。	360件
(エ)	サービス提供事業所等との連携	計画作成及びサービス実施にあたり、必要に応じて連絡調整や担当者会議を実施した。	4,082 件

#### (3) 地域生活の移行に向けての支援(地域移行支援・地域定着支援)：指定一般相談支援事業

障害者総合支援法第 51 条の 19 第 1 項に規定する地域移行支援・地域定着支援のための相談・調整を行った。

内容	具体的な取り組み	件数 人数
地域移行支援計画	適正な地域移行支援計画の作成を行った。	4 件

精神科病院、地域のサービス事業者等との連携	入院者や医療関係者に地域情報を提供し、入院者の地域移行の支援を行った。また、地域の社会資源を発掘、連携、情報共有を図り、地域移行者が安定した地域生活を送れるよう環境整備を図った。	239件
退院者	地域移行支援計画作成と移行支援を受け、退院した人数。	1名
関係機関会議等への参加	地域生活移行支援会議圏域別会議(10区)・いっぽの会・退院支援委員会	合計8件

#### (4) 就労支援に関わる相談支援の充実

関係機関	具体的な取り組み	件数 人数
就労移行支事業所、就労継続支援事業所A・B、レインボーワーク、ハローワーク、民間企業	福祉サービスの利用についてや、障害・病状の理解についての相談に対応し、利用者本人が希望する就労に向け関係機関と連携を図った。就労支援機関と共催プログラム等を開催し、就労への意欲向上やきっかけ作りの支援に取り組んだ。	824件

## 2. 地域活動支援センター事業

障害者総合支援法第77条の1第1項第9号に掲げる事業のうち、社会との交流促進その他の練馬区障害者地域生活支援センター条例施行規則で定める事業を行った。

### 登録者の状況

ういんぐでは利用登録申請制度を取っているが、今年度は新たに60名の登録者があった。

登録者の約半数が石神井保健相談所管轄の利用者で、次いで大泉、関町の管轄が多くなっている。区外からの利用も1割ほどを占める。30代の割合が若干増加した。

#### 性別

	男性	女性	総計
登録者 総数	311名	255名	566名
26年度新規登録者数	35名	28名	63名
27年度新規登録者数	35名	25名	60名

#### 年齢別

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明	総計
2名	52名	142名	198名	116名	55名	1名	566名

#### 地区別 (保健相談所担当地区別)

豊玉	大泉	石神井	光が丘	北町	関町	区外	総計
42名	84名	286名	21名	5名	70名	58名	566名

### (1) 障害者の社会との交流の促進

地域の商店会、町会等のイベントに参画または協力し、地域住民と障害者の交流を図った。また、障害者が一緒に活動に参加することで、地域活性化にも貢献し、ういんぐを地域の方に知ってもらう機会となり、地域での活動の場が広がった。

ア. 「チルコロ石神井」(11/8・3/27、延べ(計)45名)

イ. 「白百合まつり」(延べ(計)10/24 8名)

ウ. 石神町会婦人部文化展参加(4/15～19 出展13名)

石神町会町会便りに年3回掲載(精神保健福祉講座、ボランティア講座のお知らせ等)

「たなばた笹飾りづくり」(6/28 30名)

「えーるフェスティバル」協力(6/6・6/7 駐輪場整備で参加 延べ15名)

エ. 近隣地域の見守りや公園等の環境美化活動 (毎週水曜きれいにし隊! プログラム内で実施)

### (2) 関係機関との連携

ア. 相談支援事業における相談者の支援のため、関係機関との連携を図った。

電話や面接等で連携 計4,471件

(ア) 障害者福祉サービス事業者等との連絡調整

関係機関が集まる会議体を主催し、連携を図り、指定障害者福祉サービス事業者等との連絡調整を充実させた。

(イ) 関係機関が主催する会議へ参加

関係機関との連携強化を図り、相談者に対し質の高いサービスが確保されるように、関係機関が開催する連絡会議等にも積極的に参加した。

(ウ) 地域密着型連携支援事業の推進

練馬障害福祉人材育成・研修センターとともに西大泉・南大泉地区・石神井地区における障害福祉サービス事業所の情報交換会を行った。事業所の抱える課題等を事業所間でともに考え連携して支援できる環境をつくることを目的に、地域課題の共有や情報交換を行った。

・「地域密着型連携支援事業における情報交換会」開催 3回実施

※詳細は P.75【練馬障害福祉人材育成・研修センター】1 (3) 参照

イ. 地域の関係機関が主催する会議やイベントに参加し、関係機関相互の連携構築に努めた。

(ア) 町会・商店会等の主催するイベントに参加し連携

「石神町会地域福祉部定例会・総会、新年会」「民生・児童委員協議会」「石神町会防災訓練」、「石神町会夜回り」・「チルコロ石神井出店者会議」「町会文化展」

(イ) 精神保健福祉関係者が主催する会議や連絡会に参加

「地域精神保健福祉関係者連絡会」(石神井・大泉地区3回・関町地区3回)

**(3) 住民ボランティアと育成**

ア. 地域住民やボランティアとの交流を通じて、地域での日常的なつながりを深め支え合いの関係作りに取り組んだ。

(ア) 精神保健福祉ボランティア講座開催。11名参加(実人数)

内容: 地域の方を対象に、①ういんぐメンバーとボランティアによる講義②ういんぐでのボランティア体験(きれいにし隊!・出張ういんぐ・歩き隊!)③交流会の実施

成果: 精神保健福祉の啓発とともに、ボランティア体験を通して利用者と関わる機会を設定したことにより、ボランティアの役割等について理解を深めた。また、ボランティア交流会の開催により、その後継続したボランティア活動につながることができた。

(イ) 地域のイベント・お祭りへの参加 ※上記3.(1)参照

イ. 当事者への生活支援、就労支援、地域交流、組織化などの事業に、積極的にボランティアを受け入れた。

活動内容	日数	人数(延べ)
茶道講師、外出企画の同行、プログラム(企画)の講師、オープンスペース、出張ういんぐでの話し相手・「きれいにし隊!」・「歩き隊!」等プログラムに参加。	95日	185名

**(4) 障害に対する理解を深めるための普及啓発**

	発行物・イベント等	内容	回数等
ア	石神井障害者地域生活支援センターういんぐだより「すずらん」	月間スケジュール、福祉関連情報、プログラム・イベントのお知らせ・報告	毎月2,500部発行(関係機関・希望者配布)
イ	ういんぐパンフレット	ういんぐの利用について/ういんぐの概要	随時発行
ウ	ういんぐ主催イベントのチラシ	講座、パソコン教室、茶道体験、出張ういんぐ、就労プログラム等の周知	随時発行
エ	練馬区社協ホームページ	ういんぐパンフレット/ういんぐだより「すずらん」	毎月掲載
オ	石神町会だより	1,800世帯配布、地域に向けた情報発信	年4回発行
カ	精神保健福祉講座の開催	テーマ「うつについて～うつを呼び込まない工夫～」 講師:千葉 裕美(慈雲堂病院 副院長)	7/14 41名参加
	出張ういんぐ開催(大泉、関町)	区内2所のボランティア・地域福祉推進コーナー(大泉、関町)でテーマを企画し開催した。	毎月各1回(2所)
	精神保健福祉ボランティア講座	※上記(3)ア(ア)参照	
キ	地域住民との協働	石神井町会との協働(婦人部定例会、新年会、防災訓練等に参加。婦人部文化展には出展するとともに運営に協力) チルコロ石神井(チルコロ石神井と定例出店者会議に参加)	

※誰でも参加できるSSTはきららと共催での実施 きらら2.(3)ウ.参照

**(5) 障害者の自立した日常生活を営むために必要な支援**

ア. 日常生活における必要な技術の習得、憩いの場や様々な情報提供、当事者、関係機関の情報交換の場の提供。生活の質を高め豊かな生活を送れるプログラムを開催した。

## (ア) オープンスペース（安心して気楽に過ごせる場）の提供

仲間と話しをしたり、安心して過ごしたりする居場所。オープンスペースを利用することで、相談につながるきっかけとなった。☆月・水・土・日曜日正午～午後7時 利用延べ人数 5,258名

## (イ) 各種プログラムの開催

名称	内容・時間帯	人数(延べ)
パソコンにふれてみよう	パソコンの操作を学ぶことで技術習得の機会を提供した。専門のインストラクターが一人ひとりに合ったパソコンの技術を指導した。☆第1・2・3水曜日午後1時～午後5時/4クラス（初心者・初級A・B・Cクラス）を設定。	464名
出張ういんぐ（大泉、関町）	大泉、関町2か所のボランティア・地域福祉推進コーナー（VC）を拠点とし、ういんぐ以外の場所で地域交流の場を展開した。☆第2金曜日・関町VC、第4金曜日・大泉VC（午後1時～午後3時）	279名 (大泉127名 関町152名)
きれいにし隊！	ういんぐ室内や保健相談所周辺地域をメンバーとボランティア・スタッフが共に環境整備に取り組むプログラム。清掃の他、練馬みどりの機構との協働による園芸活動も行った。☆毎週水曜日（午後2時～午後3時）	834名
茶道体験してみませんか？	ボランティアである表千家の先生よりお点前の指導を受け、和の心を体験した。☆第3月曜日（午後2時～午後3時）	146名
歩き隊！	ウォーキングを中心に運動する機会を提供するとともに、地域の社会資源を積極的に利用し、メンバーやボランティア、スタッフが交流できる機会を持った。☆月1回実施。	102名
IMR（リカバリーと病気の自己管理プログラム）	Illness Management and Recovery（リカバリーと病気の自己管理プログラム）の頭文字で、精神障害者のリカバリーのために効果があるとされる複数の支援方法を組み合わせ、総合的に提供できるように開発されたプログラム。6ヶ月単位のグループワークを2クール実施した。 ☆毎週土曜日実施（3/14・3/19に次回クールに向けての説明会を行った。）	270名
夕食会（持ち寄り・調理）	メンバー、ボランティア、民生・児童委員、スタッフなどで協力しながら調理をし、会話を楽しみながら食事をする。☆奇数月は調理、偶数月は持ち寄りを実施。	243名
国際交流	NPO法人練馬区障害者福祉推進機構と共同で、ういんぐにて国際交流に関するイベントと題し「中国」の文化に触れた。☆1/23実施	28名
夢見るカメレオン	メンバーとスタッフのみで「夢見るカメレオン」と名付けてサイコドラマに向けたグループ演習を実施した。心理劇を通じて、参加者同士が抱えている問題等に共感する体験を重ねた。	52名
映画会	上映作品のタイトル等をメンバーと検討しながら、当会の準備を行い、実施した。☆月1回実施。	108名
ういんぐ避難訓練	災害時に備え震度5強以上の地震を想定し、メンバー・スタッフとともに避難拠点への実働避難訓練を実施した。9/30、3/26実施。	23名
なでしこ会	女性同士で安心して話をし、楽しめる機会を提供した。また、プログラムを通してういんぐを利用しやすくした。☆隔月に1回開催。	42名
創作の日	利用者各自の趣味などを活かした交流の場として活動した。文化展共同作品であるネリーちぎり絵や千羽鶴を作成。☆月1回実施。	120名
卓球	楽しく体を動かし、利用者の親睦や健康増進を目的に実施した。☆月1回実施。	129名
練馬区健康いきいき体操	屋内で行う体操プログラム。メンバーからの要望を受け、普及員をまねき、楽しく簡単にできる体操を一緒に行った。☆8/2日実施	8名
チルコロ石神井	石神井公園商店街のイベントに、メンバーとともに参加した。ういんぐは「わなげゲーム」「ダーツゲーム」を実施。☆11/8、3/27開催	45名
白百合まつり	施設公開や啓発などを目的とした白百合福祉作業所のイベントに参加し、メンバーとともに模擬店運営などに参加した。☆10/24実施。	8名
季節を感じるプログラム	「七夕笹飾りづくり」地域の子どもとその家族がういんぐにてメンバーと七夕飾りづくりを行った。練馬まち環境倶楽共催 6/28実施 ☆単発企画	30名
	「かき氷」懇談会などでメンバーから出た意見をもとに夏限定の企画を考えて実施した。8/10実施 ☆単発企画。	19名
	「クリスマス会」年末の特別企画。当日のスケジュールや出し物を、メンバーと協力し、実施した。12/19実施 ☆単発企画	48名

	「節分豆まき」きれいにし隊！の茶話会などでメンバーから出た意見をもとに季節の企画として実施した。2/3実施。☆単発企画	18名
--	---	-----

イ. 就労準備支援事業

- (ア) レインボーワーク・ハローワーク・就労支援機関と協力し、就労プログラムを開催した。働くことに意欲や関心のある方にし、就労のためのスキルや知識の習得、情報提供を行った。また、ピア同士の懇談会を行い、意識を高め合った。☆就労プログラム 隔月に1回開催、年6回
- (イ) 就労移行支援事業・就労継続支援事業所・レインボーワーク・ハローワーク・民間企業と連携し、障害者の実態を雇用主等に伝え、普及啓発活動に努めた。
- (ウ) 練馬区障害者就労支援ネットワーク会議に参加し、就労に特化した関係機関との連携や協働のネットワーク構築を行った。☆練馬区障害者就労支援ネットワーク会議（分科会含む）4回参加
- (エ) 就労継続支援の機能充実のため研修に参加した。「SSTを活用した就労支援研修」3回参加  
「レインボーワーク主催就労支援セミナー研修」1回参加

ウ. 当事者の支援・組織化

当事者が主体となり、プログラムや活動を企画し運営できるよう支援する。また、障害の有無にかかわらず、安心して地域で生活できるように、医療機関、福祉関係機関と連携し、円滑に地域移行ができるように、地域の情報や当事者の生活の様子等を発信できるよう支援する。

	名称	内容	人数(延べ)
(ア)	チルコロ石神井実行委員会	メンバー中心の実行委員を結成し、年2回のチルコロ石神井まつりの準備を行い、実施した。11/8開催のチルコロ実行委員会は、計3回実施。3/27開催のチルコロ実行委員会は、計4回実施。	52名
	白百合まつり実行委員会	メンバー中心の実行委員を結成し、白百合まつりの準備を行い、実施した。計3回実施。	17名
	クリスマス会実行委員会	メンバー中心の実行委員を結成し、当会の準備を行い、計6回実施した。また、ハンドベル練習もメンバーとともに、計4回実施。	55名
(イ)	介護者のつどい	介護を行っている同じような状況の利用者同士で悩みを共有し、講師を招いて勉強する機会を設けた。7/3、3/23実施。	24名
(ウ)	サイコドラマ	講師を招き心理劇を通じて、参加者同士が抱えている問題等に共感する体験を重ねた。(年6回開催)	83名
	障害年金勉強会	社会保険労務士を講師に招き、地域の支援者が集まり、障害年金についてその仕組みや受給要件などを学ぶ機会を設けた。3/4開催。	34名
(エ)	高次脳機能障害者と家族のつどい「つぼみの会」	高次脳機能障害者と家族が集まる場。自分や家族の状況を話し合うなど、情報交換をする場になっている。同じ病気や障害を経験している人や家族同士が、安心して話せる場になった。 東京都心身障害者福祉センター高次脳機能障害者支援担当の大塚祐子氏(作業療法士)を講師に招き地域住民や支援者を対象に「高次脳機能障害者の理解と対応について」の講座を行った。(2/22、23名参加)	108名

(オ) ピアサポーター活動支援

- ・地域生活サポーター養成講座の開催
- ・ピア(仲間)通信「びあまっぷ」、「作業所紹介マップ」の編集・発行支援
- ・ピアサポーター活動支援による、病院入院者・職員等への訪問、勉強会・講演会の実施

※きららと共催の実施 きらら 2.(5)表「当事者による地域生活サポーター活動」参照

3. その他

(1) 基盤整備

石神井障害者地域生活支援センターの運営や利用のあり方について検討するため、「運営委員会」や「利用者懇談会」を開催した。

名称	内容・時間帯
運営委員会	精神保健福祉に造詣が深く、経験豊かな地域住民、専門職、関係機関・団体の方に参画を依頼し、2か月に1回、意見を出し合い、ういんぐの運営についてスタッフとともに検討した。
利用者懇談会	利用者同士が話し合う場であるとともに、ういんぐへの要望を聞き取る機会とした。 毎月1回 土曜日の午後1時30分～午後2時30分開催 延べ182名参加

## (2) 職員派遣

関係機関に職員を講師として派遣し、地域福祉の理解を深める機会を提供していく。「第1回特別区西部10区圏域別会議」「慈雲堂病院勉強会」「研修センター研修」へ派遣。

## (3) 地域の人材育成

社会福祉士・精神保健福祉士・保健師・看護師養成機関等の実習生や見学者を受け入れ、職員の支援と施設の機能及び当事者の活動を伝える役割を担った。

名称	内容・時間帯
実習生の受け入れ	a. 資格取得実習(社会福祉士:18名、精神保健福祉士:6名)、b. 施設体験実習(保健師・看護師:8名)、c. インターン・シップ(地域福祉パワーアップカレッジねりま:2名)d. 見学実習(社会福祉士:7名)
人材育成	障害年金勉強会・誰でも参加できるSST(2・(4)カ参照)

支援の充実、職員の資質向上を目指し専門性を高める研修に参加した。(精神保健福祉研修43回・社協内部研修5回・その他の研修2回 参加職員延べ人数50名)

## (4) 危機管理・安全対策

### ア. 安全対策

地域とのつながりを意識し、災害時の被害を最小限に抑え、安全を確保できるように町会の防災訓練に参加した。所内の一時避難体制を強化するため、災害備品や備蓄品を検討・整備し、定期的に所内の安全点検を行った。

### イ. 災害対策

(ア) オープンスペース中に災害発生した状況を想定してメンバーやボランティアが参加し、ういんぐの避難拠点である光和小学校まで安全面を確認しながら避難訓練を実施。社会福祉協議会として、災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練にういんぐ職員も3名参加。また、プログラム内でも防災について考える機会や、女性の視点で災害に備えられるよう実施。

(イ) 施設独自の避難訓練や防災研修を行い、BCP(事業継続計画)の見直し・更新を行った。また、安全対策委員会の研修に参加し社協職員に求められる災害対策を学んだ。

(ウ) 誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指し、メンバーの当事者活動の一つとして「きれいにし隊!」に取り組んだ。町会の防犯ベストを身につけ下校時の小学生の見守りや、近隣の清掃活動を通じて地域住民と日常的なつながり作りに努めた。

## (5) 福祉サービス事業者等との連絡調整

関係機関と連携を図り、指定障害者福祉サービス事業者等との連絡調整を行った。また、関係機関が開催する連絡会議等に参加し、連携を図った。

### ア. 主催会議

障害者地域自立支援協議会「地域移行」専門部会(3回参加)

### イ. 関係機関が主催する連絡会議等への参加

障害者地域自立支援協議会(3回参加)、練馬区精神保健ブロック別担当者連絡会(大泉・石神井地区3回、関町地区3回)、練馬区障害者福祉サービス事業者連絡会(分科会含む9回)

### ウ. 関係機関との連携・連絡

指定特定相談支援事業所をはじめ、精神保健分野、高齢、高次脳機能障害分野、障害分野等関係機関と連携を図った。練馬区中途障害者支援事業連絡会(4回参加)・SSTを活用した交流会(3回参加)

## 【地域福祉課】

地域福祉を推進する「ボランティア・地域福祉推進センター」と高齢の方や障害を持つ方の地域生活をサポートする「権利擁護センター」、障害福祉サービスに係る人材を育成する「練馬障害福祉人材育成・研修センター」、生活困難者の課題をともに解決する「生活サポートセンター」の事業運営を統括し、より質の高いサービス提供を目指し各事業に取り組んだ。

### 【ボランティア・地域福祉推進センター】

身体的、精神的に障害があっても、高齢になっても、社会や地域と接点を持ち続け、住み慣れた地域で生活し続けられるような「住みよいまちづくり」を目指し、地域福祉を推進していく基盤作りに努めた。ボランティアや市民活動の相談、情報提供、研修会の開催等を行い、地域や社会における課題に対し、地域住民がその解決に取り組めるようセンターおよび3か所の拠点を設け住民が相談しやすい体制で支援を行った。

## 1. ボランティア・市民活動推進

### (1) 相談およびコーディネート事業

#### ア. ボランティア・市民活動相談

「ボランティアしたい」「ボランティアに応援してほしい」「NPO について知りたい」など、ボランティア・NPO に関する相談に対応した。また、様々な個別の相談に対して、課題の整理・解決等に向けて関係機関や団体、関係者との連携を図った。センター、各コーナーの相談内容としては、センターは NPO 関連相談や生活支援コーディネーターに関する情報提供、光が丘コーナーは身近でできるボランティア相談や多岐に渡る生活相談、大泉コーナーは学校からの授業協力や施設からのボランティア講座の企画協力の相談、関町コーナーは身体、知的、精神障害者などからの生活相談をきっかけとした関係機関との連携等、それぞれの特徴が表れている。

(単位：件)

相談内容	ボランティア・地域福祉推進センター	光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナー	大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー	関町ボランティア・地域福祉推進コーナー	総数
ボランティアしたい	371	719	393	294	1,777
ボランティアほしい	212	288	207	124	831
NPO 関係	240	242	169	44	695
情報提供	697	501	690	142	2,030
協力依頼	265	255	336	226	1,082
その他	384	777	359	797	2,317
総 数	2,169	2,782	2,154	1,627	8,732

※「その他」の内容は、主に生活相談や要望などの相談。

ボランティア・地域福祉推進センター、各コーナー（光が丘・大泉・関町）に寄せられた住民の活動相談に関して、センター・コーナー会議等で定期的に相談内容を把握し、確認及び情報の共有化を図るために、ケース検討会議を行った。また、ボランティア・地域福祉推進センター運営委員会に状況を報告した。

#### イ. 相談傾向の分析

センター、各コーナーの相談記録を蓄積、整理し、コーディネート事業およびその他の事業の参考とした。

#### ウ. スーパービジョン体制の導入

各コーナーにスーパーバイザーを配置し、各コーナーが抱えているケースや地域課題の解決への方策についてアドバイスを受けた。スーパーバイザーが相談支援の経験もあり、地域活動に携わっている方々なので、地域住民としての視点で地域情報や地域課題を教えていただくことで、対応に活かすことができた。また、相談を受ける姿勢や視点を身近で学ぶことができた、コーナーに寄せられる相談傾向を知っていただくことができた。

### (2) ネットワーク構築

地域の団体、施設、関係機関との日常的な連携・協力を図り、各種会議へ参加した。

定期的に各団体の会議に出席することで最新の情報を得るとともに、練馬区社協で把握している情報を団体等に提供し、連携を図った。

ア. 町会・自治会等の地域住民や地域の団体、施設との日常的な連携・協力を図り、各種会議へ参加した。

会議名	開催	内容
ねりま子育てネットワーク	随時	区内の子育て支援を行うグループや子育て中の親によるネットワーク
しあわせ福祉ネット・関	月1回	安心して暮らせるまちづくりを目的に活動する団体・個人・関係機関によるゆるやかなネットワーク
ほのぼの館・関運営連絡会	月1回	相談情報ひろば運営団体との情報交換会
関町児童館運営委員会	隔月	地域に開かれた児童館づくりをすすめるための情報、意見交換会
関中学校評議会	年3回	地域や社会に開かれた学校づくりを推進するための情報、意見交換会
練馬区 NPO 活動支援センター運営協議会	月1回	地域振興課を含む運営団体4団体の情報交換会
練馬区高次脳機能障害者支援連絡会	年4回	家族、関係機関等による情報交換会
練馬区区民協働推進会議	随時	練馬区民との協働指針に基づき、区民と区との協働を一層進めるための具体的な仕組みづくりの会（委員として参加）
地域密着型連携支援事業	隔月	南大泉・西大泉、石神井地域の障害福祉サービス事業所等の情報交換
光が丘区民センター施設連絡会	年5回	光が丘区民センター施設運営団体の情報交換
「第5回東京石泉ライオンズクラブ福祉音楽祭 in ねりま」企画会議	随時	東京石泉ライオンズクラブ主催で福祉音楽祭を開催するにあたっての企画・運営の協力（H28.4.12開催）
練馬区障害者地域自立支援協議会相談支援部会	年3回	地域における相談支援ネットワークの推進と相談支援体制の整備に関する協議会（委員として参加）
M ジョイ@T ジョイ～コミュニティ・マーケット～参加団体懇談会	随時	販売会の運営についての協議および情報交換会

イ. 地域の精神保健連絡会、地域ケア会議等、各種会議へ参加した。

会議名	開催	内容
精神保健福祉関係者連絡会	随時	豊玉、光が丘、石神井、関保健相談所を中心とした情報交換会
地域ケア会議	随時	練馬、光が丘、大泉、石神井、関町地域を中心とした高齢者のケアについての情報交換会
地域ケア個別会議	随時	各支所単位で行う、地域の高齢者のケース検討会

ウ. 地域ごとやテーマ別等で必要とされるネットワークの調整を図った。

日時	内容	場所	延べ参加人数
H27.7.8 ～年3回	相談情報ひろば情報交換会	まちな駅 大泉学園／ハーモニー北町／ふろしきねこの手	28 団体
H27.7.14 ～年6回	(仮) 育児不安を解消するために地域でできることを考える関係者連絡会 (H27.10.27～「子育てサポートネットSTS」と名称変更)	関子ども家庭支援センター	48 名

エ. 各コーナーがより地域で気軽に立ち寄れる場所になるよう石神井障害者地域生活支援センターういんぐ、豊玉障害者地域生活支援センターきらら、ボランティア等と連携し、出張ういんぐ・出張きららを開催した。

・出張ういんぐ：P53、出張きらら：P46 参照

### (3) 市民活動団体・学校・企業・関係機関等へのサポート

ア. ボランティア・市民活動団体の活動や学校の福祉教育への取り組み、企業の社会貢献活動や関係機関の企画等への協力や講師派遣等を行った。

日時	学校・施設・団体名	講座・授業名・内容
H27.4.21 10.15	都立大泉桜高校	奉仕の授業「ボランティア入門」
H27.4.21	「地域をつくる」上映会 in ねりま	「地域、まちを自分たちでよくしていこ

～月1回	実行委員会	う！地域課題をそれぞれの立場で考えて地域を変えていこう！」を目的に、練馬区内の活動団体や個人が集まり、イベントの企画運営を行う会。実行委員として参加
H27. 6. 10	練馬区立開進第一小学校 P T A学級委員会	親子学習会「ボランティアについて学ぼう」
H27. 6. 21 ～年4回	Mジョイ@Tジョイ ～コミュニティ・マーケット～	主催：Tジョイ大泉 大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー 福祉施設等7団体の自主製品販売
H27. 6. 24	都立大泉高校	ボランティア概論（夏期休業中のボランティアに向けた心得・探し方等）
H27. 7. 21 H28. 3. 8	光が丘びよびよ	ボランティアについて
H27. 10. 7	練馬区立中村西小学校	総合学習「だれもがかかわり合うために」
H27. 10. 30	練馬区立上石神井北小学校	総合学習「福祉とボランティアについて」
H27. 11. 9	練馬区立田柄小学校	総合学習「障害のある人との関わり方」
H27. 11. 13	練馬区立仲町小学校	総合学習「福祉とボランティアについて」
H27. 11. 26	練馬区立光が丘夏の雲小学校	総合学習「たくさんの人と仲良くなるろう」
H28. 1. 11	練馬区立開進第四中学校	総合学習「社会福祉施設体験に向けて」
H28. 1. 14	武蔵大学	ボランティア入門講座
H28. 1. 30	練馬区立光が丘福祉園	職員向け研修「ボランティアについて」
H28. 2. 9	練馬区立泉新小学校	総合学習「視覚障害者への理解」

イ. 福祉サービス事業者向けに、福祉施設・病院のボランティアの受け入れについての研修、講座、情報交換会を開催した。

a) 研修、講座

日時	テーマ	講師	会場	参加人数
H27. 7. 17	ボランティア担当者基礎研修	大隅紀枝氏 (イリーゼ西大泉デイサービスセンター) 多々良康子氏 (練馬区立光が丘福祉園) 平井紀代子氏 (あいあいあい石神井台)	本庁舎 20 階交流会場	42 名
H27. 10. 28	大泉地域ボランティア担当者基礎講座	大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー職員	大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー会議室	6 事業所
H27. 12. 15 H28. 3. 24	関・石神井地域ボランティア担当者向け講座	関町ボランティア・地域福祉推進コーナー職員	関町ボランティア・地域福祉推進コーナー会議室	7 事業所

b) 情報交換会

日時	テーマ	場所	参加人数
H27. 9. 8 ～年3回	光が丘地域ボランティア担当者情報交換会	光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナー会議室／光が丘福祉園／光が丘デイサービスセンター	延べ 18 事業所
H28. 2. 26	練馬地域ボランティア担当者情報交換会	ボランティア・地域福祉推進センター会議室	6 事業所

ウ. ボランティア・市民活動団体に対する研修や各種の助成情報の提供、紹介を行った。

ボランティア・市民活動情報「ぼけっと」やブログ「ぼけっとのうらがわ」などを通じて、各種の助成金情報を提供した。また、ボランティアグループや市民活動団体から相談があった場合には、それぞれの団体に合った助成金の情報を提供し、必要がある場合には推薦コメントの記入や申請書の記入に関してのアドバイスを行った。

(ア) 推薦1件

エ. ボランティア活動中の事故によるケガなどに対応する「傷害保険」と活動の対象者などが法律上の賠償責任を負った場合の「賠償責任保険」の補償がセットされたボランティア関連保険の受付・手続きを行った。また、施設や団体などが行事を主催する際に加入する行事保険の手続きを行った。3月には保険会社の担当者を招いてボランティア保険・行事保険に関する説明会を開催した。なお、これらの保険は保険者である東京都社会福祉協議会と加入事務契約を結んでいる。

(ア) ボランティア保険加入者数 5,408名(天災プラン307名)

(イ) 行事保険加入件数 1,830件

#### (4) 情報発信

ボランティア・市民活動情報「ぼけっと」を発行し、ボランティア・市民活動の周知・啓発に努めた。

ア. 年12回(毎月)発行

イ. 発行部数 約5,000部(A4判8ページ)

#### (5) 会議室・機材等の貸出

各拠点の会議室・機材や他制度の対象にならないが利用が必要な住民に車いすの貸出しを行った。

ア. 会議室貸出し

拠 点 名	利用団体総数(団体)	利用者総数(名)
ボランティア・地域福祉推進センター	121	1,140
光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナー	830	7,026
大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー	205	1,638
関町ボランティア・地域福祉推進コーナー	361	4,762
計	1,517	14,566

イ. コピー機・印刷機貸出し

拠 点 名	利用団体総数(団体)
ボランティア・地域福祉推進センター	37
大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー	80
計	117

ウ. 車いす貸出し

拠 点 名	貸出し延べ台数(台)
ボランティア・地域福祉推進センター	31
光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナー	36
計	67

#### (6) 災害時に備えた取り組み

ア. 「練馬区災害ボランティアセンター」の運営に備え、行政・関係機関・地域団体等と連携し訓練を実施した。

事業名	開催	内容
練馬文化センター視察	1回	練馬区災害ボランティアセンター立ち上げに向けて、練馬区福祉部管理課と社会福祉協議会で練馬文化センターの視察を行った。
練馬区災害ボランティアセンター立ち上げに向けて打合せ	1回	練馬区災害ボランティアセンター立ち上げ、運営に向けて、練馬区福祉部管理課、練馬区危機管理室区民防災課と検討を行った。
練馬区災害ボランティアセンター立ち上げ訓練	1回	練馬区災害ボランティアセンター開設予定場所である練馬文化センターにて、練馬区福祉部管理課、練馬区危機管理室区民防災課、練馬中央自治会、練馬一丁目原町睦会、練馬一丁目西睦会、練馬区聴覚障害者協会、練馬区視覚障害者協会、災害時拡大掲示情報活用研究会と合同で3月2日に訓練を行った。参加人数69名。

イ. 災害発生時に備え、行政・関係機関・地域団体等とのネットワーク構築を図った。

行政・関係機関・地域団体名	開催	内容
練馬区聴覚障害者協会	1回	災害時の取り組みについて情報交換を行った。
練馬区福祉部管理課	4回	災害マニュアル、災害時におけるボランティアセンターの運営に関する協定について意見交換を行った。

練馬区危機管理室区民防災課	4回	災害時のボランティアについて意見交換を行った。
---------------	----	-------------------------

ウ. 災害ボランティアの発掘・養成に向けて練馬区危機管理室区民防災課と情報交換やシンポジウムを行った。

日時	内容
H27. 5. 11	区民向けの講座開催に向け、防災課と情報交換を行った。
H27. 9. 27	災害シンポジウム「災害にどう備える?!～地域でできることを考える～」を開催した。参加人数 114 名。第 1 部：基調講演（講師：李仁鉄氏（特定非営利活動法人にいがた災害ボランティアネットワーク理事・事務局長））／第 2 部：パネルディスカッション（事例提供：高橋洋氏（災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード理事・副代表）、南館健氏・西倉一恵氏（関町小学校避難拠点運営連絡会））

エ. 避難拠点連絡会等と連携し、災害ボランティアセンターの役割や周知、連携を図った。

日時	学校・施設・団体名	講座・内容
H27. 11. 20	都立練馬高校	防災体験学習「災害ボランティアセンター体験」
H28. 2. 24	練馬区危機管理室区民防災課	練馬区災害ボランティア制度説明会において、ボランティア保険の説明と災害ボランティアセンターの役割と機能の周知を行った。
H28. 2. 25	練馬区立男女共同参画センターえーる	学習会「災害と女性」において、災害ボランティアセンターの役割と機能の周知を行った。
H28. 2. 29	東京都生活協同組合連合会	防災学習会「いざという時の為に知っておきたい～練馬の防災・地域の安心～」において、災害ボランティアセンターの役割と機能の周知を行った。

## 2. NPO 活動支援センター事業〔練馬区からの受託事業〕

平成 18 年 10 月 1 日に開設した「練馬区 NPO 活動支援センター」は、複数の団体で事業を運営するネットワーク形式で実施している（27 年度は 3 団体受託）。今年度、ボランティア・地域福祉推進センターは相談事業を受託した。3 月には評価会で今年度の取り組み報告等を行った。

### (1) 相談事業

NPO 法人の設立や運営、人材の募集等 NPO 団体の活動に伴う様々な相談に対応した。

(単位：件)

対応内容	一般相談 専門相談	ボランティ ア募集	会場利用 相談	機材利用 相談	広報掲載の 相談	相談合計
件数	167	43	161	56	268	695

### (2) 運営団体間の連携

NPO を対象とした交流会等を運営団体で協力して取り組むとともに、「練馬区 NPO 活動支援センター」運営協議会に参加し、運営に関する情報交換や協議を行った。

ア. ボランティア・NPO 団体交流会

日時	テーマ	内容	参加人数
H28. 3. 12	団体にヒトが集まる工夫とは？	第 1 部：講演会 講師：中島加代子氏（お茶の間ネット）、 片山章氏（NPO 法人おちゃ福） 第 2 部：交流会	24 名

イ. 運営協議会・・・12 回参加

## 3. 地域福祉活動推進

地域福祉コーディネーターとして、地域に出向き住民や団体と顔の見える関係をつくりながら、住民が主体的に地域課題を発見、共有、解決できるよう支援した。また、地域づくりをともにすすめる「地域福祉協働推進員」の周知を行った。

社協各部署が行う事業等と連携し各部署が持つ地域ネットワーク等を有効に活用して、地域福祉推進を図った。

### (1) 豊玉・光が丘地区 他

第 3 次地域福祉活動計画で豊玉・光が丘をモデル地区とし、住民と顔の見える関係を築きながら住民が主体的に地域課題を発見・共有、解決できるよう小地域福祉活動に取り組んできた。これま

での取り組みを継続しつつ、経験を活かしながら周辺の地域や他の拠点の地域にも展開した。

#### ア. 地域課題への取り組み

懇談会や連絡会等の地域の関係者が集まる場で地域の課題を共有し、住民リーダーを中心とした地域課題の発見、共有、解決に向けた地域づくりを行った。また、住民リーダーや当事者を中心とした地域課題の解決に向けたしくみが地域で機能し、予防的役割を果たせるよう支援した。

##### (ア) 豊玉地区

日時	名称	内容
H27. 7. 23 8. 31 12. 14	豊玉地区関係団体懇談会【主催】 打合せ 平成 27 年度 第 1 回豊玉地区関係団体懇談会 平成 27 年度 第 2 回豊玉地区関係団体懇談会	地域課題に関わる情報共有や意見交換 参加者：民生児童委員、町会、商店会、高齢者・障害者施設、地域活動団体、行政、警察、関係機関
H28. 2. 1 2. 26	子育て部会【主催】 平成 27 年度 第 1 回子育て部会 平成 27 年度 第 2 回子育て部会 (勉強会)	懇談会で課題としてあげられた親子問題等子育てに関する情報共有や意見交換 参加者：民生児童委員、子育て団体、地域活動団体 支援者の共有・スキルアップのために保健相談所についての勉強会を開催。
H27. 4. 2 ～月 1 回	とよひな（旧：雑談の会） 【運営相談・企画協力】	子育て中の若い親や、一人暮らしの高齢者などが気軽に集える場所が必要であると考えた地域住民の声から、月に 1 度、都営住宅の地域集会所で開催している集える場
H27. 4. 2 ～月 1 回	萩の里茶話会 【運営相談・企画協力】	災害時等の備えの為に日頃からの顔が見える関係が必要であると考えた住民の声から、協力し、高齢者住宅住民同士の横のつながりと、併設するデイサービスとの連携を強化することを目指した住民の集える場

##### (イ) 光が丘地区

日時	名称	内容
H27. 4. 19	光連協幹事会	V C 及び地域福祉コーディネーターについて説明
H27. 4. 20 7. 23	光が丘第 3 アパート自治会 高齢者対策委員会	自治会活動の取り組みに関する定例会
H27. 7. 14 7. 29	光が丘第一アパート自治会	見守りのしくみ作りに向けた協議
H27. 8. 11	むつみ台団地自治会	見守りのしくみ作りに向けた協議
H28. 3. 19	光連協幹事会	地域福祉推進員について説明

#### イ. 関係機関との連携

地域団体や行政等の関係機関と定期的に情報共有を行い、地域課題を共有、解決に向けて連携して取り組んだ。

##### (ア) 豊玉地区

日時	名称	内容
H27. 4. 24 ～随時	地域福祉コーディネーターによる出張相談窓口【主催】	たまり場での出張相談。来場者の相談対応や情報提供を行った。
H27. 5. 21 ～隔月	チョット一緒に話そう会 【主催】	豊玉高齢者センターでの出張相談窓口。来場者の相談対応や情報提供を行った。
H27. 4. 16 ～隔月	よろず会議【共催】	練馬高齢者センター豊玉支所、豊玉高齢者センターとの定例情報交換会
H27. 4. 8 ～月 1 回	オレンジの会【運営協力】	認知症地域支援の会。スタッフと地域情報について等情報共有をしている。近隣で行われる認知症サポーター講座の講師として声をかけるなど、地域での活動につなげた。

H27. 4. 7 ～月 1 回 7. 4	練馬こども笑店街実行委員会・ 役員会 【運営相談・企画協力】 練馬こども笑店街開催 【運営協力】	練馬駅南口の商店街で開催しているイベントを通し、地域の子育て支援・地域の活性化・親睦を図る会。実行委員として参加し、助成金等の情報提供やボランティアの相談等各種相談を受けながら協力した。
H27. 4. 14 ～月 1 回	ランチとお話を楽しむ会 【運営協力】	近隣に住む高齢者が月に 1 度集まり、昼食とおしゃべりやアクティビティを楽しむ会。参加者からの相談を受けたり、スタッフと情報共有をした。
H27. 5. 21 ～随時	練馬駅南地区まちづくり憲章を 推進する会 【運営相談・企画協力】	練馬駅南口地区の商店会や町会等が参加し、まちの将来像について協議する定例会議。

(イ) 光が丘地区

日時	名称	内容
H27. 4. 8 ～随時	光が丘きずなサロン ひまわり喫茶 いちょう通りサロン 皆賀一番町	定期的にサロンを訪問し、運営に係る支援やサロンのスタッフや利用者からの相談に対して、情報提供を行った。
H27. 4. 30 ～月 1 回	ひかりのかけはし	高齢者相談センター支所（光が丘、高松）、光が丘高齢者センター、NPO むすびとの定例情報交換会 5 月より光が丘地域活動支援センターすてっぷも参加 8 月より光が丘福祉園、光が丘保健相談所、光が丘子ども家庭支援センターも参加

ウ。東京都社会福祉協議会「課題発見・解決志向型の地区社協モデル事業」に参画し、モデル地区のより一層の活性化を図った。

日時	名称	内容
H27. 5. 20	実施地区連絡会	モデル事業実施社協の担当者が集まり、進捗状況を報告し合い、相互に情報交換や進め方等の相談やアドバイスをを行った。
H27. 7. 13 11. 27 H28. 3. 22	推進委員会	進捗状況についてモデル事業の進捗状況を報告し今後のモデル地区への働きかけや事業の進め方などについて推進委員会よりアドバイスを受けた。

エ. その他

小地域福祉活動モデル地区の取組みを、その周辺エリアあるいは関連事業への協力という形で広げた。

日時	名称	内容
H27. 4. 20 7. 1 8. 5 H27. 6. 3 H27. 8. 26 H27. 10. 28 ～月 1 回	どんぐりの家  どんぐりの家活動委員会 どんぐりの家運営委員会	社協へ寄付していただいた家を地域でどのように活用できるか考える定例会  5/9 のイベントふりかえり 活動委員会による定例会 運営方法について考える定例会
H27. 5. 9 11. 7	どんぐりの家祭り 第 2 回どんぐりの家祭り	地域住民への周知を目的としたイベント

(2) 生活支援コーディネーターの取り組み【練馬区からの受託事業】

高齢者支え合いサポーター育成研修では、介護予防・生活支援サービスの支援を通して、支え合いの地域づくりを住民とともに進めた。高齢者の事業所や地域活動団体での活動につなぐだけでなく、受講者のニーズに合わせながらさまざまな分野へコーディネートを行い、活動につなげた。

ア. 高齢者支え合いサポーター育成研修への協力

名称	研修期間	生活支援コーディネーターの取り組み
前期育成研修	H27. 5. 12～H27. 6. 30 (全9回)	練馬区と研修主催の練馬区社会福祉事業団と研修の進め方などについて協議を行った。また、研修に参加するとともに、受講者への個別相談に対応し、地域活動につないだ。活動の現状や今後の活動についての個別相談にも適宜対応した。
前期フォローアップ研修	H27. 9. 29	
後期育成研修	H27. 11. 7～H27. 12. 5 (全6回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修受講者：65名</li> <li>・個別相談：94件</li> <li>・施設、団体との調整：56件</li> <li>・活動見学：23件</li> </ul> (※人数、件数は前期と後期の合計)
後期フォローアップ研修	H28. 3. 5	

**(3) つながり、見守る地域づくり「(仮称)見守り推進コーディネーター」〔練馬区からの受託事業〕**

出張所等を地域の見守り拠点とする練馬区の「つながり・見守る地域づくり」事業を地域の実情にあわせて進めた。

ア. 大泉西出張所地域

日時	テーマ	会場	参加人数
H27. 9. 19	ひろげよう！「みまもりあいの“わ”」 ～みまもりの学習とおしゃべりの会～	光陽苑	24名
H27. 10. 31	第2弾 ひろげよう！「みまもりあいの“わ”」 ～みまもりの学習とおしゃべりの会～【西大泉】	西大泉地区区民館	18名
H27. 11. 12	ひろげよう！「みまもりあいの“わ”」～まち歩き～【西大泉】	西大泉2丁目・西大泉地区区民館	9名
H27. 11. 14	第2弾 ひろげよう！「みまもりあいの“わ”」 ～みまもりの学習とおしゃべりの会～【南大泉】	南大泉地域集会所	11名
H27. 12. 1	ひろげよう！「みまもりあいの“わ”」～まち歩き～【南大泉】	南大泉5～6丁目・南大泉地域集会所	8名
H27. 12. 15	ひろげよう！「みまもりあいの“わ”」～マップ作成～【南大泉】	南大泉地域集会所	6名
H27. 12. 24	ひろげよう！「みまもりあいの“わ”」～マップ作成～【西大泉】	南大泉5～6丁目・南大泉地域集会所	7名
H28. 1. 29	ひろげよう！「みまもりあいの“わ”」～マップ作成と進捗状況～	南大泉地域集会所	6名
H28. 2. 16	サロン会場の施設見学と今後の進め方	西大泉地区区民館	8名
H28. 3. 26	今年度の振り返りと今後の進め方	南大泉地域集会所	34名

イ. 谷原出張所地域

日時	テーマ	会場	参加人数
H28. 3. 12	ひろげよう！「見守りあいの“わ”」 ～みんなで見守りあう地域懇談会～	高野台地域集会所	26名

**4. 地域の人材育成**

地域福祉推進のための人材育成に取り組み、ボランティア講座や練馬区からの受託事業を通して地域の中で様々な役割を担い活動する地域住民の発掘・育成・支援および福祉人材の育成事業に取り組んだ。

**(1) 研修・講座等の企画・実施**

ア. ボランティア講座

ボランティア活動の基本的な理解を深めながら活動を始めるきっかけとなる講座を他部署や地域の関係機関と企画、実施した。また、講座終了後も継続的に関わりながら活動につなげた。

日時	テーマまたは施設名	内容	参加人数
H27. 6. 20 9. 5	大泉障害者地域生活支援センターさくら【共催】	大泉さくらのボランティア講座 2015 ① 障害のある方と一緒に活動してみませんか？ ② 身体障害について	① 12名 ② 5名
H27. 11. 25	東大泉敬老館【共催】	ボランティア入門講座	24名

イ. 地域福祉パワーアップカレッジねりま〔練馬区からの受託事業〕

地域活動アドバイザーとして授業への参加や授業の企画・進行に関わり、また学生や卒業生からの相談対応、情報提供等を行い、地域活動を担う人材の育成や今後の地域活動につなげた。

ア) 今年度の相談件数・・・326件

イ) 主な相談内容・・・地域活動について、広報について、立ち上げたグループの運営相談等

ウ. 練馬E nカレッジ〔練馬区からの企画・協力依頼事業〕

これから活動を始める住民向けに講座を企画・開催し今後の活動につなげた。

日時	テーマ	会場	参加人数
H27. 4. 22	ボランティア入門講座 ～はじめの一步～	練馬区立生涯学習センター分館	12名
H27. 9. 28	ボランティア入門講座 ～はじめの一步～		37名
H28. 1. 27	地域講座「ねりまをもっと知ろう」 ボランティア入門講座		28名
H28. 2. 24	ボランティア入門講座 ～はじめの一步～		21名

エ. ボランティア体験学習

ボランティア活動の経験を持たず就業前の適性を確認したい人や、ボランティア活動を希望する学生等に対して、実際にボランティア活動が行われている現場で体験する機会を提供する。

・参加者4名

## (2) 講師派遣

学校や関係機関等に職員を講師として派遣し、地域福祉の理解を深める機会を提供した。

## 5. 東日本大震災避難者に対する孤立化防止等の取り組み（東京都「孤立化防止事業」受託事業）

区内在住の避難者に対し、個別のニーズに応じて必要な支援や情報提供した。

### (1) 個別相談および支援

個別訪問等を通して、困りごと等をうかがいながら、民生児童委員や自治会等、地域の関係者と連携し、地域の一員として生活しやすい環境となるよう支援した。また、復興支援員と連携し、復興支援住宅への転居に関する支援等も行った。

ア. 訪問、電話連絡件数・・・87件

### (2) 情報紙等による情報提供

随時、区内の団体や東京都などから届くイベントなどの情報提供を行った。

事業名	発行日	内容
「こんにちは練馬区社会福祉協議会です」 No.11	H28. 2. 1	・イベント案内 ・地域の情報提供など
「こんにちは練馬区社会福祉協議会です」 No.12	H28. 3. 24	・練馬区社会福祉協議会移転のおしらせ ・地域の情報提供など

### (3) その他

被災地支援を行っている団体主催のイベントに参加し、区内における孤立化防止事業の取り組みを報告した。また、震災後、販路の絶たれた大堀相馬焼の宣伝、販売協力を行った。

## 6. 組織運営

### (1) 「運営委員会」、「スタッフ会議」、「コーナー担当者会議」の開催

運営委員会においては、ボランティア・市民活動および地域福祉活動を行う住民や、学識経験者、行政関係者等の委員で構成する運営委員会を開催し、多様な視点でセンターの運営や事業について

協議を行った。(定例会議年8回開催)

スタッフ会議(センター、各コーナー全職員参加)およびコーナー担当者会議(各コーナー責任者とセンター職員参加)を月1回開催し、情報交換や運営等に関する協議を行った。

## (2) 職員の研修参加

地域福祉コーディネーターに必要な資質を身につけるため、内外の研修に参加した。

- ・外部研修 22 講座、延べ 34 名参加

## (3) 広報・啓発事業

ア.リーフレットを活用し、センターの役割・機能について住民にわかりやすく情報提供を行った。

イ. ボランティア・市民活動情報「ぼけっと」を発行した。

- ・年 12 回(毎月)発行
- ・発行部数 5,000 部(A4 版 8 ページ)

ウ. インターネット・ホームページ、センターブログ「ぼけっとのうらがわ」、を活用して、ボランティアやNPOに関する情報を発信した。

## (4) 事業収入や寄付等による事業の充実

寄付金の有効活用および事業収入の確保に努めた。

ア. ボランティア・地域福祉推進センターへの寄付	17 件	248,258 円
イ. ボランティア・市民活動情報「ぼけっと」広告掲載料	3 件	15,000 円
ウ. 使用済み切手収入		52,050 円
エ. バザー収入		148,230 円

## 【権利擁護センターほっとサポートねりま】

高齢や障害等のために支援を必要とする住民が、適切な福祉サービスを選択し、自分の意思や希望を叶えながら地域で安心して生活を送ることを目的に、福祉サービスや制度の情報提供を行い、福祉サービスの利用援助、成年後見制度の利用相談や支援事業を行った。また、練馬区における「成年後見制度推進機関」として、制度の周知・普及と活用を進めるための事業に取り組んだ。

### 1. 相談事業

福祉サービスの利用等に関わる相談や情報提供、成年後見制度の内容および申立て手続きの説明や関係機関等の紹介、後見業務についての相談・問い合わせ等に応じて支援した。

#### (1) 一般相談

##### ア. 福祉サービスの利用援助等に関する相談

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

相談件数・状況(件)	年度 状況	25年度 延件数	26年度 延件数	27年度			
				相談の内訳(件数)			延件数
				問合せ	初回	継続	
認知症高齢者等	4,902	4,548	5	511	3,999	4,515	
知的障害者	772	836	0	37	672	709	
精神障害者	1,839	1,731	1	69	1,614	1,684	
その他	819	950	70	157	584	811	
計	8,332	8,065	76	774	6,869	7,719	

※状況の「その他」は、難病や高次脳機能障害の方、疾病・障害などの詳細が不明な方  
 昨年度に比べて延相談件数が 346 件減少した。相談の内訳では継続相談が 258 件減少した。そのうち、認知症高齢者等の継続相談は、福祉サービス利用援助事業の新規契約者数の増加に伴い微増したが、知的障害者、精神障害者、その他は減少した。問合せ、初回相談はともに件数が減少した。相談の状況では、認知症高齢者等・知的障害者・精神障害者・その他それぞれの構成比は例年並みであった。単身者だけでなく、夫婦や親子等の世帯で課題を抱えた相談もあり、本人だけでなく家族の理解を得ながら、どう介入していくことが適切なのか検討して対応した。

##### イ. 成年後見制度に関する相談

##### 上記 ア. のうち成年後見制度に関する件数

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

相談件数・状況(件)	年度 状況	25年度	26年度	27年度
		延件数	延件数	延件数
認知症高齢者等		1,010	864	920
知的障害者		162	129	77
精神障害者		181	237	167
その他		129	165	159
計		1,482	1,395	1,323

※状況の「その他」は、難病や高次脳機能障害の方、疾病・障害などの詳細が不明な方  
 昨年度に比べて成年後見制度利用に関する延相談件数は 72 件減少したが、初回相談ではその他の制度利用に関する相談が微増した。また、高齢者からの任意後見制度に関する相談も増加した。継続相談では、認知症高齢者等の相談で関係機関との調整などが多かった。施設入所以外の生活環境変化による高齢者の社会貢献型後見人利用の相談もあった。

今年度も地域の高齢者相談センターなどが主催する勉強会に講師派遣を行い、その後相談につながった事例や、障害者地域生活支援センターきらら・ういんぐの計画相談や生活サポートセンターへの相談をきっかけに、成年後見制度の相談につながった事例もあった。

#### (2) 成年後見制度専門相談

司法書士による専門相談を実施した。相談者は、本人や配偶者、子に加えて、甥や姪など遠縁からの相談もあった。相談内容は、成年後見制度だけではなく、制度利用に付随する遺言や相続についての相談も多かった。また、本人からの相談では、今後の自分の生活についての不安から、任意後見制度の利用についての相談が多かった。相談後には相談者から感想を伺い、さらに支援が必要な場合には、継続して支援を行っている。

開催	相談員	会場	開催回数等
原則毎月第1水曜日 (祝祭日除く)	東京司法書士会 練馬支部司法書士	ボランティア・ 地域福祉推進センター会議室	全11回開催 19件相談

### (3) 権利擁護法律相談

今年度も、地域団体や専門職団体とのネットワークを活用した地域での相談会を行い、成年後見制度の利用を推進し、広く相談を受けられる体制作りを行った。成年後見センター・リーガルサポート東京支部と合同で「合同相談会」、三弁護士会と共催で「巡回無料相談会」を行い、成年後見制度を中心に、遺言や相続などに関して、地域住民が身近な地域で専門職に無料で相談できる機会の提供を行った。また、成年後見制度推進NPO法人と共催で地域相談会を実施し、身近な地域で相談できる機会を設けた。

開催日	相談員	実施主体	主な相談の内容		
			後見制度	遺言・ 相続	財産管理 関係
H27.6.8	センター職員	NPO法人 成年後見 推進ネットこれから	1件	—	—
H27.10.11	司法書士・センター職員 (合同相談会)	公益社団法人 成年後見センター・ リーガルサポート 東京支部	18件	10件	—
H27.12.14	センター職員	NPO法人 成年後見 推進ネットこれから	1件	—	—
H28.3.5	弁護士 (巡回無料相談会)	東京弁護士会、 第一東京弁護士会、第 二東京弁護士会	9件	12件	5件

## 2. 福祉サービス利用援助事業

### (1) 地域福祉権利擁護事業（日常生活自立支援事業）[東京都社会福祉協議会からの受託事業]

高齢や障害等で判断能力が十分でない住民の自己決定と地域生活を支援するため、『福祉サービス利用援助』、『日常的金銭管理サービス』、『書類等預かりサービス』の支援を行った。専門員である職員が契約前の環境整備や調整、支援計画の作成、契約を行い、区民から公募した生活支援員が支援計画に基づいた定期的な支援を行う。専門員が生活支援員と連携し、モニタリングを適宜行うことで、利用者の状況変化に応じた適切な対応、支援を行っている。具体的には、介護保険や障害福祉サービス・医療・保険などの利用申請手続きや更新、賃貸住宅契約更新や住民税の申告など、地域で生活するために必要な手続きや収入・支出に基づいた日常的な金銭管理の支援、親族・関係者調整などであった。また、クーリングオフ制度利用支援、相続手続き支援、債務整理に関わる支援、生活保護申請支援、公正証書遺言の作成支援なども行った。

今年度中は143名が利用した。新規契約は37件あり、年度毎の件数では近年最も多かった。今年度も単身者だけでなく、同居している夫婦や親子のそれぞれと契約する事例があり、世帯の生活全般を見ながら、どう介入していくことが適切な支援となるのか検討して対応した。また、新規契約の約半数が『日常的金銭管理サービス』や『書類等預かりサービス』で通帳や印鑑等の預かりを実施している。終了（解約）は21件で、昨年度に比べて減少した。終了事由は7件が死亡解約、次いで6件が施設入所による解約であった。判断能力低下による成年後見人等への引継ぎによる解約は5件であった。終了（解約）については、本人状況の変化に合わせ、関係機関などと連携しながら、より適切な制度・機関に引き継ぎを行っている。

(平成28年3月31日現在)

利用者数・ 状況(名)	年度	25年度	26年度	27年度			
				新規契約数	年度中 利用者数	終了(解 約)数	年度末 利用者数
認知症高齢者等		71	64	28	92	15	77
知的障害者		11	12	3	15	2	13
精神障害者		20	23	4	27	4	23
その他		9	7	2	9	0	9
計		111	106	37	143	21	122

※状況の「その他」は、難病・高次脳機能障害者の方など

**(2) 財産保全サービス・各種手続代行サービス [練馬区補助事業]**

加齢や身体障害等により、財産の保全・預金の払い戻し・各種支払いや手続きが困難な方に、書類などの預かりや手続き代行の支援を行った。今年度中は24名が利用した。新規契約は4件で昨年度に比べて減少したが、利用者数は増加している。また、区外への転居により1件が解約となったが、転居先での地域福祉権利擁護事業への移行を支援して引き継いでいる。

(平成28年3月31日現在)

利用者数・状況(名)	年度 状況	27年度								
		25年度	26年度	新規契約数	年度中利用者数	終了(解約)数	年度末利用者数	契約内容内訳		
								財産保全	手続き代行	併用(再掲)
	認知症高齢者等	9	13	2	15	0	15	4	14	3
	知的障害者	1	1	0	1	0	1	1	0	0
	精神障害者	2	3	0	3	1	2	1	2	1
	その他	2	3	2	5	0	5	1	5	1
	計	14	20	4	24	1	23	7	21	5

※状況の「その他」は、疾病・身体障害の方など

**(3) 周知普及**

福祉サービス利用援助事業の適切な利用および利用推進を図るため、パンフレットやホームページ等を活用して情報提供を行った。さらに、勉強会等に講師派遣を行い、成年後見制度に関する説明とともに福祉サービス利用援助事業の概要や具体的な活用方法について説明した。当事者に向けては、興味・関心を持って理解が深められるように伝達方法に工夫をこらした。また、今年度は地域ケア圏域会議や地域ケア個別会議での説明依頼が増えた。地域住民への周知普及とともに関係機関との支援連携を図り、ネットワークを深める機会となった。

年月日	内容	実施主体
H27.4.22	成年後見制度と地域福祉権利擁護事業について	練馬区立中村敬老館
H27.5.29	地域福祉権利擁護事業・成年後見制度の実際と利用	高齢者相談センター錦支所 (地域ケア個別会議)
H27.7.24	地域福祉権利擁護事業・成年後見制度、社協と高齢者相談センターの連携方法について	練馬高齢者相談センター本所 (地域ケア圏域会議)
H27.7.25	地域福祉権利擁護事業と金銭管理について	大泉障害者地域生活支援センター「さくら」
H27.8.19	地域福祉権利擁護事業と成年後見制度	高齢者相談センター中村橋支所 (地域ケア個別会議)
H27.10.3	地域福祉権利擁護事業について	光が丘障害者地域生活支援センター「生活支援センターすてっぷ」
H27.10.17	“お金のあるある” 悩みをみんなで考えよう	大泉障害者地域生活支援センター「さくら」
H27.10.23	精神障害者支援で知っておきたい身近な権利擁護～成年後見制度と地域福祉権利擁護事業～	北保健相談所 (光が丘・北町精神保健連絡会)
H27.11.20	地域福祉権利擁護事業と財産保全・手続代行サービスについて	光が丘高齢者相談センター本所 (地域ケア圏域会議)
H27.11.26	ほっとサポートねりまの事業について	高齢者相談センター練馬ゆめの木支所 (地域ケア個別会議)
H28.2.7	地域福祉権利擁護事業と成年後見制度	地域福祉パワーアップカレッジねりま同窓会
H28.2.26	地域福祉権利擁護事業と成年後見制度	高齢者相談センター富士見台支所 (地域ケア個別会議)
H28.3.14	地域福祉権利擁護事業と成年後見制度	高齢者相談センター上石神井支所 (地域ケア個別会議)

### 3. 成年後見制度の利用推進

#### (1) 周知普及事業

##### ア. 制度説明会・学習会

成年後見制度の適切な利用および利用推進を図るため、パンフレットやガイドブック、チラシ、ホームページ等を活用して情報提供を行った。さらに、勉強会等に講師派遣を行い、福祉サービス利用援助事業に関する説明とともに成年後見制度の概要や具体的な活用方法について説明した。当事者に向けては、興味・関心を持って理解が深められるように伝達方法に工夫をこらした。また、今年度は地域ケア圏域会議や地域ケア個別会議での説明依頼が増えた。地域住民への周知普及とともに関係機関との支援連携を図り、ネットワークを深める機会となった。

また、障害者地域生活支援センターやパワーアップカレッジの学生や卒業生、都外の社会福祉協議会に対して、親族後見人や社会貢献型後見人、成年後見制度推進NPO法人の協力を得て、成年後見制度を活用した実践の具体的な説明を行った。

年月日	内容	実施主体
H27. 4. 22	成年後見制度と地域福祉権利擁護事業について[再掲]	練馬区立中村敬老館
H27. 5. 24	知っておきたい！成年後見制度とは	ふれあいの園練馬高野台
H27. 5. 29	地域福祉権利擁護事業・成年後見制度の実際と利用[再掲]	高齢者相談センター錦支所 (地域ケア個別会議)
H27. 6. 8	成年後見制度相談会	NPO 法人成年後見推進ネットこれから
H27. 6. 18	成年後見制度について～法定後見制度～	地域福祉パワーアップカレッジねりま 8 期 (学生企画)
H27. 7. 17	わが子のこれからの人生～成年後見制度利用について～	社会福祉法人龍風 たんぽぽ
H27. 7. 24	地域福祉権利擁護事業・成年後見制度、社協と高齢者相談センターの連携方法について[再掲]	練馬高齢者相談センター本所 (地域ケア圏域会議)
H27. 8. 19	地域福祉権利擁護事業と成年後見制度[再掲]	練馬区高齢者相談センター中村橋支所 (地域ケア個別会議)
H27. 8. 28	成年後見制度について～法定後見制度～	医療法人社団慈雲堂病院デイケア室
H27. 9. 13	成年後見制度について	練馬区立高野台デイサービスセンター
H27. 10. 3	市民後見人養成講座 (実践編)	社会福祉法人 川越市社会福祉協議会
H27. 10. 23	精神障害者支援で知っておきたい身近な権利擁護～成年後見制度と地域福祉権利擁護事業～[再掲]	北保健相談所 (光が丘・北町精神保健連絡会)
H27. 11. 11	成年後見制度～実務に役立てるためには～	練馬障害福祉人材育成・研修センター
H27. 11. 17	成年後見制度の概要と活用	練馬区立福祉園父母の会連絡会
H27. 11. 26	ほっとサポートねりまの事業について[再掲]	高齢者相談センター練馬ゆめの木支所 (地域ケア個別会議)
H27. 11. 28	成年後見制度の概要と活用	障害者支援団体「R-ami」
H27. 12. 10	練馬区における成年後見制度推進の取り組み	地域福祉パワーアップカレッジねりま 8 期
H27. 12. 14	成年後見制度相談会	NPO 法人成年後見推進ネットこれから
H28. 1. 13	成年後見制度の概要と活用	練馬区立福祉園父母の会連絡会 (練馬区立関町福祉園)
H28. 2. 7	地域福祉権利擁護事業と成年後見制度[再掲]	地域福祉パワーアップカレッジねりま同窓会
H28. 2. 12	判断能力が衰える前に備える～成年後見制度を賢く利用するための事前知識を学ぼう～	木瓜の花
H28. 2. 17	成年後見制度～実際の活用方法について～	練馬障害福祉人材育成・研修センター
H28. 2. 26	地域福祉権利擁護事業と成年後見制度	高齢者相談センター富士見台支所 (地域ケア個別会議)
H28. 3. 14	地域福祉権利擁護事業と成年後見制度[再掲]	高齢者相談センター上石神井支所 (地域ケア個別会議)
H28. 3. 19	成年後見制度	光が丘障害者地域生活支援センター「生活支援センターすてっぷ」

H28.3.28	成年後見制度について	東京都宅地建物取引業協会 練馬支部
H28.3.29	成年後見制度を知ろう！	練馬区立栄町敬老館

イ. 講演会

社会貢献型後見人の公募説明会とともに成年後見制度および社会貢献型後見人の周知普及のためのシンポジウムを開催した。シンポジストとして学識経験者と専門職後見人を招き、社会貢献型後見人として活動している区民が活動報告を行った。また、社会貢献型後見人養成研修の中の「成年後見制度の関連法等 成年後見と自己決定権」を区民向けにも案内し、成年後見制度の概要について紹介した。

開催日	内 容	講 師	会 場	参加
H27.6.30	地域で活かそうあなたのチカラ～成年後見制度と社会貢献型後見人の活動報告・シンポジウム～	東洋英和女学院大学大学院人間科学研究科 石渡和美氏 司法書士 上山浩司氏 社会貢献型後見人 2名	練馬駅区役所 アトリウム地下 多目的会議室	37名
H27.9.9	成年後見制度の関連法等 成年後見と自己決定権	東京アドボカシー法律事務所 弁護士 池原毅和氏	練馬駅北口ビル Coconeri3階 研修室2	45名

(2) 後見人等サポート（ねりま後見人ネット）

区民で親族の成年後見人等になっている方、成年後見人等になる予定の方からの個別の相談支援を行った。また、区民で親族の成年後見人等になっている方、成年後見人等になる予定の方へ向け、成年後見制度に関する最新情報提供とともに相談窓口の周知普及を行うため「ねりま後見人ネットだより」を2回発行し、東京家庭裁判所や区内関係機関の協力を得て広く配布を行った。

(3) 地域ネットワークの活用

ア. 行政関係機関との連携

個別の支援において情報共有と役割分担を行い、連携を図りながら成年後見制度の利用を推進した。行政の協力を得て、社会貢献型後見人の公募・養成研修を実施した。また、成年後見制度関係者会議に参加し、区長申立てや社会貢献型後見人受任のケースなどに関して検討・協議し、今年度は社会貢献型後見人として2件受任した。

イ. 地域住民や成年後見制度推進NPO法人等との連携

地域住民組織や成年後見制度推進NPO法人等と情報交換を行うとともに、制度説明会や相談会を共催し、制度の周知・普及のための連携を図った。栄町敬老館での制度説明会では、個別相談会の開催につなげた。

ウ. 「成年後見ねりま地域ネットワーク会議」の開催

区民の成年後見制度利用を支援する仕組みとして、様々な専門職、行政関係者が連携・協働していくため、成年後見制度に関わる制度の動向について情報共有を行った。今年度は、介護保険制度改正についてや事例検討、身上監護に関する課題について様々な立場から意見交換を行い、ネットワークの形成と連携を深めた。

開催日	内 容	参 加 者 数													
		行政関係者													合計
		社会福祉士	行政書士	税理士	司法書士	弁護士	精神科医	社会保険労務士	保険相談所	相談センター 高齢者 高齢者支援係・ 介護保険課管理係	知的障害者担当係	福祉事務所 予防係	練馬区保健所	地域福祉係	
H.27 7.8	介護保険制度改正について・事例検討・情報交換等	2	2	0	6	1	0	3	3	13	1	3	2	3	39
H.27 12.2	後見業務における情報共有、事例検討・情報交換等	3	2	0	6	1	0	3	2	10	0	1	2	3	33

#### (4) 社会貢献型後見人養成・支援

##### ア. 社会貢献型後見人の公募・養成

親族で適切な後見人が見つけられず、専門職に依頼するには資産がない方の制度利用推進と、判断能力が不十分な方が安心して住み慣れた地域で生活できるよう、同じ生活者の視点で地域生活を支える後見人の確保と質の確立を目的として、社会貢献型後見人の公募・養成を行った。都内及び都外の社会福祉協議会から養成事業に関する問合せにも対応した。

##### (ア) 公募

社会貢献型後見人の公募説明会とともに成年後見制度の概要および社会貢献型後見人の周知普及のためのシンポジウムを開催した。シンポジストとして学識経験者と専門職後見人を招き、社会貢献型後見人として活動している区民が活動報告を行った。公募の結果、7名の応募があり、論文・面接を経て4名が社会後見型後見人養成へと進んだ。

開催日	内 容	講 師	会 場	参加
H27. 6. 30	地域で活かそうあなたのチカラ ～成年後見制度と社会貢献型後見人の活動報告・シンポジウム～	東洋英和女学院大学大学院人間科学研究科 石渡和実氏 司法書士 上山浩司氏 社会貢献型後見人 2名	練馬駅区役所 アトリウム地下 多目的会議室	37名

##### (イ) 養成研修

今年度は4名の社会貢献型後見人の養成を行い、9月から2月にかけて、延78時間の養成研修を行った。養成研修では、成年後見人等の倫理、対人援助演習、後見業務のケーススタディ等、適切な後見業務を行うために必要な知識や能力をつけるための研修を企画・提供した。養成研修受講者が、それぞれの研修で感じた気づきや疑問点に対して、研修報告書等を通じてフィードバックを行えるような環境づくりを行い、受講者にとって質の高い研修となるよう努めた。また、研修内容に応じて、区民や民生・児童委員、成年後見制度推進NPO法人、練馬区相談情報ひろばのスタッフ等にも研修を案内し、4名の社会貢献型後見人も含めて延171名の研修受講があった。今年度研修を受講した4名は、次年度、社会貢献型後見人登録メンバーとなって受任に備える。

研 修 (行政施策や対象者理解等)	実習・見学 (福祉作業所・施設)	実務研修
12回	6回	4回

また、既に養成研修を受講した登録メンバーに対しては、2回フォローアップ研修を実施し、円滑な後見活動およびスキルアップのための内容を企画・提供した。フォローアップ研修では、今までに登録メンバーから挙げられた疑問や不安に感じるが多かった内容を研修内容として取り上げ、受任に向けたフォローアップ体制の充実を図った。

##### イ. 社会貢献型後見人の受任の推進

##### (ア) 定期面談・懇談会の実施

社会後見型後見人登録メンバーが不安なく受任できるよう、定期面談を行い、受任の意向を確認するとともに、後見業務に関する疑問や不安、推進機関への要望の聞き取りを行った。また、受任者だけでなく受任予定者と養成研修受講中の4名を交えた懇談会を開催し、受任者・受任予定者と後見監督人との情報共有や後見活動時の課題の把握や意見交換を行い、円滑な事業推進のための取り組みを行った。

##### (イ) 首長申立て

行政が主催する成年後見制度関係者会議(10/27・3/9)に参加し、首長申立てのケースで社会貢献型後見人による受任の妥当性について協議するとともに、養成研修受講者の受講状況や受任可能な社会貢献型後見人について情報共有を行った。首長申立てケースのうち1件は親族関係の状況により受任対象外となったが、もう1件については来年度の受任に向けて調整中である。

##### (ウ) リレー方式

今年度は専門職後見人(司法書士)から3件の依頼を受け、1件を受任した。もう1件は来年度の受任に向けて調整中であり、これまでよりリレー方式の活用が進んだ。

(エ) 地域福祉権利擁護事業からの移行

首長申立に限らない社会貢献型後見人の受任機会の拡大のため、地域福祉権利擁護事業からの移行で本人申立てのケースを1件受任した。

ウ. 法人後見監督の受任および後見監督業務

(ア) 法人後見監督の受任

社会貢献型後見人の受任継続ケース4件および今年度の新規受任の2件について法人後見監督を行った。

継続ケース4件のうち、1件は被後見人の死亡により終了し、被後見人の死亡時の各手続き等について、社会貢献型後見人への助言や家庭裁判所との調整など、円滑な死後事務手続きのための支援を行った。継続ケースの3件については家庭裁判所への継続報告を支援した。

新規受任の2件のうち、リレー方式による1件については、被後見人への社会貢献型後見人の引き合わせ、専門職後見人からの管理財産等の引き継ぎ、今後の支援計画の作成と家庭裁判所への初回報告を支援した。地域福祉権利擁護事業からの移行による1件については、被後見人への引き合わせ、親族への連絡、管理財産の引き継ぎ、今後の支援計画の作成と家庭裁判所への初回報告を支援した。

[社会貢献型後見人及び法人後見監督受任状況]

項目	状況	類型	後見人 (養成研修修了期)	申立人	審判	後見監督人	備考
A	認知症高齢者	後見	第1期	練馬区長	H20.12	練馬区社協	H25.2 被後見人死亡により終了
B	知的障害者	後見	第2期	練馬区長	H20.11	練馬区社協	
C	認知症高齢者	後見	第1期	練馬区長	H21.1	練馬区社協	H21.4 被後見人死亡により終了
D	認知症高齢者	後見	第2期	練馬区長	H21.6	練馬区社協	H27.3 被後見人死亡により終了
E	精神障害者・ 認知症高齢者	後見	第2期	練馬区長	H23.4	練馬区社協	H26.10 被後見人死亡により終了
F	認知症高齢者	後見	第5期	練馬区長	H24.2	練馬区社協	H26.2 被後見人死亡により終了
G	認知症高齢者	後見	第5期	練馬区長	H24.8	練馬区社協	H26.3 被後見人死亡により終了
H	精神障害者 認知症高齢者	後見	第6期	練馬区長	H24.9	練馬区社協	H26.10 被後見人死亡により終了
I	認知症高齢者	後見	第6期	練馬区長	H24.12	練馬区社協	H28.2 被後見人死亡により終了
J	認知症高齢者	後見	第7期	練馬区長	H25.4	練馬区社協	H25.8 専門職への引き継ぎにより終了
K	認知症高齢者	後見	第7期	練馬区長	H25.12	練馬区社協	
L	認知症高齢者	後見	第7期	練馬区長	H26.2	練馬区社協	
M	認知症高齢者	後見	第7期	練馬区長	H26.7	練馬区社協	※Jの後見人と同一 H27.2被後見人 死亡により終了
N	認知症高齢者	後見	第8期	練馬区長	H27.11	練馬区社協	
O	知的障害者	後見	第7期	本人	H28.1	練馬区社協	

(イ) 後見監督業務の整備

社会貢献型後見人が安心して適切な後見業務が行えるように支援するため、適宜、顧問弁護士への相談・確認を行いながら後見監督業務のマニュアルの改訂・更新を行った。

#### 4. 組織運営

##### (1) 運営委員会の開催

円滑で適正なセンター運営や事業の透明性・公平性確保のため、また、機能拡充を図るための具体的な取り組みについて協議を行った。

開催回数	場 所	内 容
全 5 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練馬区役所 701 会議室 (2 回)</li> <li>・練馬区役所 1906 会議室 (1 回)</li> <li>・練馬区役所 20 階交流会場 (1 回)</li> <li>・区民・産業プラザ研修室 3 (1 回)</li> </ul>	年間事業計画および事業報告、社会貢献型後見人養成事業・後見監督業務報告他、権利擁護センター各事業についての協議・検討

##### (2) センター会議の実施

隔週で行うセンター会議と毎朝のミーティングで各職員の担当業務および個別ケースの相談や支援の状況について共有、検討を行い、センターとしての業務や支援の質を維持し、より効果的な事業推進を行えるよう体制を整えた。

##### (3) 生活支援員定例会

定期的な情報交換だけでなく、生活支援員として必要な視点を学ぶために、関連する部署の事業説明や外部から講師を招く等、地域生活支援を行っていくうえで役立つ研修の場を設けた。さらに、城西地区全体の生活支援員の支援力の向上と横のつながりを作ることを目的に、城西ブロック社会福祉協議会で生活支援員合同研修を開催した。

開催日	内 容
H27. 5. 21	平成 26 年度事業報告、平成 27 年度事業計画、平成 27 年度の生活支援員定例会の予定、フリートーク「日々の支援について」
H27. 7. 16	社協内他部署（生活サポートセンター）の仕事について、地域福祉協働推進員（ネリーズ）について
H27. 9. 17	グループワーク「利用者が自己肯定感を持ち、生活を送るためには」マイナンバーについて
H27. 11. 19	講義「精神障害者の理解と支援～生活支援員として必要な視点～」 講師：ルーテル学院大学 福島喜代子氏
H28. 1. 21	災害時連絡手段について～やってみよう！～ (災害伝言ダイヤル訓練他)
H28. 3. 17	事例検討「見えないものが少しでも見えるようになるには」 グループワーク
城西ブロック 生活支援員合同研修	H28. 2. 29 事例検討（講師：福島喜代子氏） 参加：生活支援員 80 名・専門員 14 名

##### (4) 職員の資質向上

東京都社会福祉協議会の主催する区市町村社協職員基礎研修、地域福祉権利擁護事業の専門員研修・生活支援員研修をはじめ、東京都社会福祉保健医療研修センター等の外部研修を積極的に活用し、職員の資質向上に努めた。

## 【練馬障害福祉人材育成・研修センター】

障害福祉サービスを担う人材育成と事業所におけるサービス提供の質の向上を図るために、障害福祉サービスに係る研修体制を整え、事業所における高い専門性を持つ人材育成・確保の支援を行った。

### 1. 練馬障害福祉人材育成・研修センター受託事業

#### (1) 練馬障害福祉人材育成・研修センター登録状況

事業所向けの研修は、当研修センターへの事業所登録後、各種研修が受講できる仕組みになっている。

＜平成 27 年度登録状況＞（3 月 31 日現在）

障害福祉サービス区内指定事業所数 313 箇所

練馬障害福祉人材育成・研修センター登録事業所 225 箇所

#### (2) 学習支援

##### ア. 基礎研修

障害福祉サービス提供経験が少ない従事者に向け、障害の特性や支援方法等について知識や技術を習得できるように研修プログラムを提供した。

50 回開催 参加事業所数 88 事業所

研修テーマ	回数
基礎研修①障害の特性	18 回
基礎研修②障害福祉概論	3 回
基礎研修③体験研修	4 回
基礎研修④テーマ別研修	12 回
基礎研修⑤制度・施策	4 回
基礎研修⑥スキル研修	8 回
基礎研修⑦介護人材育成・研修センター共催研修	1 回

##### イ. 階層別研修

中堅職員、管理者等の階層に応じた研修プログラムを提供し問題解決の向上を図った。

26 回開催 参加事業所数 52 事業所

研修テーマ	回数
専門知識①事例検討	2 回
専門知識②テーマ別研修	17 回
専門知識③スキル研修	4 回
専門知識④職層別研修	3 回

##### ウ. 啓発研修

障害者支援に関心のある区民を対象に障害についての知識や理解を高める研修を 2 回実施した。

開催日時	8 月 2 日(日)13:30~16:00	参加者	64 名
タイトル	「「障がい」とは何か？」を考えよう		
講演	橋本操氏（日本 ALS 協会 相談役）		
パネルディスカッション	パネリスト：井桁昌利氏（障害当事者） 鴨治慎吾氏（障害当事者） 長澤 泉氏（障害当事者）		
	コーディネーター：高山直樹氏（東洋大学教授・当研修センター運営委員長）		

開催日時	1 日目 10 月 5 日(月)13:00~16:30	参加者	12 名
タイトル	マイフレンド講座～障害を知り、地域で共に生きる～		
場 所	練馬区立豊玉障害者地域生活支援センターきらら		
講 師	倉田 俊彦氏（練馬区立大泉学園町福祉園 副園長）		
施設紹介	練馬区立白百合福祉作業所 3 名（職員 1 名、利用者 2 名） 練馬区立豊玉障害者地域生活支援センターきらら 2 名 （職員 1 名、利用者 1 名） 練馬区立大泉学園町福祉園 1 名（職員 1 名）		

開催日時 2日目(施設体験) 参加者 10名

日程		場所	活動内容	参加人数	
2日目 (施設体験)	10月13日 (火)	9:00~12:30	氷川台福祉園	利用者支援の補助	1名
		12:00~17:00	豊玉障害者地域生活支援センターきらら	花くらぶ 他	3名
	10月14日 (水)	9:00~16:00	白百合福祉作業所	作業体験	2名
		12:00~17:00	石神井障害者地域生活支援センターういんぐ	きれいにし隊 他	1名
	10月15日 (木)	9:00~12:30	大泉学園町福祉園	利用者支援の補助	2名
		10:00~16:00	かたくり福祉作業所	作業体験	0名
	10月19日 (月)	9:00~12:30	大泉学園町福祉園	利用者支援の補助	1名
		12:00~17:00	石神井障害者地域生活支援センターういんぐ	茶道 他	0名

エ 練馬介護人材育成・研修センターとの連携

練馬介護人材育成・研修センターと協力し、共通するテーマについての研修を共催した。また、企画している研修を相互に乗り入れる相互受講研修を行い、障害福祉、高齢者福祉の分野の垣根のない連携を行った。

(ア) 平成27年度共催研修実施について

平成27年度は1回の共催研修を実施した。

開催日時	2月1日(月)14:00~16:00	参加者	26名 (障害福祉サービス計9名、 介護保険サービス計17名)
タイトル	精神障害者の高齢化に係る支援について 講師：光が丘保健相談所 所長 宮原 恵子氏 会場：練馬区役所本庁舎 20階交流会場		

(イ) 相互受講研修について

練馬介護人材育成・研修センターと当研修センターでそれぞれ開催している研修に双方の登録事業所が参加できる研修を実施した。

a、障害福祉人材育成・研修センター乗り入れ研修 13回開催 63名参加

b、介護人材育成・研修センター乗り入れ研修 22回開催 36名参加

オ. アンケート実施

障害福祉サービス事業所に対し、研修センターのサービス充実の為、各事業所で取り組んでいる職員研修や研修センター事業等についてアンケートを実施し、区内の事業所の実態把握をした。

(ア) 平成27年8月実施 アンケート回答率 41.5% (328事業所中136事業所)

カ. その他

(ア) 登録事業所への研修周知(月2回メール)

(イ) 未登録事業所への定期的な登録の呼びかけ(月2回FAX)

(3) 連携支援

近隣地域で障害福祉サービス事業所等の集まりを設け、事業所同士が情報交換を通じて課題等を共有し、連携する機会を設けた。

豊玉・練馬近隣地域、西大泉・南大泉近隣地域、石神井地域の3地区にて実施し、それぞれの地域で顔の見える関係を作ることができ、共通の課題やテーマを話し合うことができた。また、それぞれの地域で課題に即した研修会や、地域の社会資源の見学会を行うなど、より深い連携ができた。

ア. 豊玉・練馬近隣地域

豊玉障害者地域生活支援センターきららを拠点として情報交換会を年6回実施した。

開催回数	参加事業所数	内容
6回 (5・7・9・11・1・3月)	10事業所 参加事業所：日中系サービス3 訪問系サービス1 相談支援事業所1 地域活動支援事業所1 居宅介護支援事業所2 有償家事援助サービス1 その他1	各事業所の現状・抱える課題等について事業所間でもともに考える場をつくり研修会のテーマ等についても話し合った。

イ. 西大泉・南大泉近隣地域

大泉ボランティア・地域福祉推進コーナーも参加し、情報交換会を年5回実施した。

開催回数	参加事業所数	内容
5回 (6・8・10・12・2月)	8事業所等 参加事業所等：日中系サービス2 訪問系サービス2 居住系サービス1 その他3	各事業所の現状・抱える課題等について事業所間でともに考える場をつくり体験研修の内容等についても話し合った。

ウ. 石神井近隣地域

大泉ボランティア・地域福祉推進コーナーも参加し、石神井障害者地域生活支援センターういんぐを拠点として情報交換会を5回実施した。

開催回数	参加事業所数	内容
5回 (6・8・10・12・2月)	13事業所等 日中系サービス5 訪問系サービス2 居住系サービス1 地域活動支援事業所1 児童系サービス1 その他3	各事業所の現状・抱える課題等について事業所間でともに考える場をつくり研修の内容等についても話し合った。

エ. リーダー養成研修修了者

開催回数	参加人数	内容
4回 (5・6・10・11月)	H26年度研修 修了者14名	・現状・抱える課題等について ・H27年度開催研修の内容について
4回 (11・12・1・2月)	H27年度研修 修了者11名	・現状・抱える課題等について ・H28年新任職員研修内容について

(4) 情報支援

ア. 専用ホームページ運営

従事者が手軽にアクセスし、障害福祉サービスに関する必要な情報を得られるように専用ホームページを運営した。

(ア) 平成27年4月～平成28年3月までのアクセス件数 14,491件

イ. 情報提供

毎週1回、法令制度、他機関研修、お知らせなど障害福祉サービスに関する情報をホームページにて周知した。

(5) 広報

ア. 研修センターだよりの発行

毎月発行し、登録事業所にはメール配信または研修開催時に配布し、未登録事業所には研修センターへの登録の促しとともにFAXで配信した。また、ホームページにも随時掲載し研修センター事業の周知に努めた。

イ. Face Bookの活用

実施事業について報告等をし、実施事業についての周知するための研修センター専用のFace Bookを活用した。

(6) 運営協議会の開催

練馬障害福祉人材育成・研修センターを運営するに当たり、事業所等の意見を反映するため、練馬障害福祉人材育成・研修センター運営協議会を設置し3回開催した。

開催回数	場 所	内 容
全3回	・練馬区役所 1902会議室 (1回) ・区民産業プラザ 研修室2 (1回) ・区民産業プラザ 研修室1 (1回)	センター事業概要について、年間目標・計画について、センター事業取り組み状況報告、事業所アンケートについて、28年度事業計画(案)について等

2. 人材育成の充実に向けた取り組み

(1) 職員研修

業務を通して課題やニーズを認識しながら自らの業務に対する意義を高め、職層別職員に求められる知識・技術・計画力・表現力等を身につけるよう新任職員研修、中堅(前期・後期)職員研修、管理職研修を企画・実施した。計画的実施にあたり管理職員研修の体系化を行った。

また、社協全体で取り組むべき共通のテーマであって、業務の種別やハード面等個別具体的に対応することが望ましいテーマに関しては部署別に研修を行った。

ア. 職層別研修

	日程	場 所	参加人数	内 容
新任研修	前期 H27.6.8～7.31	練馬区社会福祉協議会	11人	各部署体験

	後期 H27. 12. 3 ～H28. 2. 5	各部署		
中堅(前期) 職員研修	H27. 12. 11	練馬区役所 東庁舎 7階 701 会議室	11 人	① 「地域福祉コーディネーターの取り組みと地域づくりについて」 ② 「社協における生活困窮者支援の実践から見てきたもの」 ③ 「都市部社協における地域福祉推進方法に関する比較研究その3～東京都城西ブロック社協の比較検討を通じて～」 ④ SST 学術集会発表～地域活動センターが「誰でも参加できる SST」を開催する意義に関する考察～
中堅(後期) 職員研修	H28. 2. 29	練馬区役所 本庁 19 階 1907 会議室	15 人	「パワーハラスメント防止の基礎」 講師 セクハラ・パワハラ防止コンサルタント、アンガーマネジメントファシリテーター 加藤勝雄氏
管理職研修	H27. 7. 2	練馬区役所 本庁舎 19 階 1902 会議室	12 人	テーマ「健康職場づくりを目指して～職場復帰支援を通して～」 講師：代々木病院精神科医、認定産業医 天笠崇氏

#### イ. 部署別研修

部署	日程	場所	参加人数	内容
白百合福祉 作業所	1 回目 H27. 8. 26 2 回目 H27. 10. 5	白百合福祉作 業所食堂	11 人	支援における「グレーゾーン」を考える。 講師：東洋大学 教授 高山直樹氏 1 回目 講義 2 回目 グループワーク

## (2) 地域に向けた人材育成

地域の福祉サービス提供事業所の連携や、職員の資質向上を図るため情報交換会で出された課題をもとに研修会や見学会を開催した。また、支援に関する情報の共有化、サービス従事者間の連携を高めることを目的とし地域密着型連携事業を行った。また、リーダー養成研修修了者有志が集まる機会を設け専門職同士のネットワークづくりを行った。

#### ア. 豊玉・練馬近隣地域における研修会の実施 (2 回)

日程	場所	参加人数	内容
H27. 11. 17	江古田明和会かも ん他	9 人	施設見学と説明
H28. 1. 12	豊玉障害者地域生 活支援センター	5 人	「介護保険の概要及び改正について」 講師：高齢者センター練馬区役所支所 角田直人氏

#### イ. 西大泉・南大泉近隣地域における体験研修の実施 (1 回)

日程	場所	参加人数	内容
H27. 5. 21	練馬障害者支援 ホーム	3 人	施設体験 ・外出支援 ・リハビリ ・振り返り

#### ウ. 石神井近隣地域における研修会の実施 (5 回)

日程	場所	参加人数	内容
H27. 6. 1	石神井障害者地域 生活支援センター ういんぐ	9 人	「地震等発災時の対応や訓練や防災について」 グループディスカッション
H27. 8. 21	同上	7 人	「ほっとすぺーす練馬事業所紹介、利用者実態調査から見える課題」 講師：鈴木英典氏
H27. 10. 28	同上	8 人	「たまみずき事業所紹介、今後の事業展望について」 講師：櫻井元氏
H27. 12. 14	同上	9 人	「エプロン 20 周年 DVD 上映及び現状と課題について」 講師：伊藤裕重氏
H28. 2. 15	同上	9 人	「同愛会 練馬地区事業所紹介～地域でより豊かに暮らすために～」 講師：古山恵治氏

## 【生活サポートセンター】

平成 27 年 4 月から生活困窮者自立支援法が本格実施され、住居確保給付金に関する相談支援業務が加わり職員を増員して相談支援の充実を図った。

複合的な課題を抱え経済的にも困難を抱える方が、課題を解決するために一緒に考え、社会保障制度の活用や適切な制度、機関への案内を行うなど、課題解決に向けた道筋を付けられるよう相談支援を行った。

### 1. 相談事業

複合的な生活課題に基づく相談を幅広く受け止め、解決に向け相談者と一緒に課題の整理を行い、関係者と連携しながら相談支援を行った。当センターができたことにより相談者が関係機関から当センターにつながることで課題の整理ができ、一つの機関だけでは解決できなかったことが解決に向かったなどの評価を得ている。

#### (1) 相談件数

年度		平成 26 年度	平成 27 年度	前年比
継続相談（過年度相談受付）		—	94 件	—
初期相談	新規相談	315 件	663 件	210%
	他団体からの事業運営に関する問い合わせ	36 件	37 件	—
	団体等からの連携に関する相談※1	1 件	6 件	—
	計	352 件	800 件	227%

#### ※1 相談を受けた団体等

民間福祉事業者、児童養護施設、主任児童委員、よりそいホットライン（相談機関）、警備会社、民間非営利団体

#### (2) 相談方法

年度		平成 26 年度	平成 27 年度	前年比
相談件数（問い合わせ含む）		352 件	800 件	227%
相談方法 （延べ件数）	電話	1,798 件	5,374 件	299%
	来所	282 件	344 件	122%
	同行・訪問	274 件	1,237 件	451%
	その他	30 件	254 件	847%
	計	2,384 件	7,209 件	302%

電話による相談が最も多いが、前年度に比べ訪問での相談や、関係機関への同行が増えている。

#### (3) 関係機関との連携

行政	福祉事務所、ハローワーク、保健相談所、高齢者相談センター、国保年金課、税務課、住宅課、子ども家庭支援センター、介護保険課、高齢社会対策課、子育て支援課、区民相談、都税事務所、他区市町村生活保護担当課等
行政以外の関係機関	TOKYO チャレンジネット、若者サポートステーション、法テラス、レインボーワーク、生活サポート基金、東京弁護士会、医療機関、セカンドハーベスト・ジャパン、練馬ビジネスサポートセンター、シルバー人材センター、他区市町村自立相談支援機関、民間障害福祉事業所、ボランティア団体、裁判所、警察等
専門職・その他	弁護士、ケアマネージャー、保護司、民生・児童委員等

**(4) 新規相談者の状況**

ア. 相談者の年代、性別

年代	実人数	構成比
10歳代	6	0.9%
20歳代	58	8.7%
30歳代	92	13.9%
40歳代	125	18.9%
50歳代	112	16.9%
60歳代	71	10.7%
70歳代	44	6.6%
80歳代	19	2.9%
不明	136	20.5%
計	663	100%

性別	人数	構成比
男性	377名	56.9%
女性	247名	37.2%
不明・その他	39名	5.9%
計	663名	100%

相談者の年代は40代～50代が最も多い。また、前年度に比べると20代～30代の若年層の増加傾向が見られた。性別では男性が女性よりも多い。

イ. 初回の相談経路

構成件数 比	本人			家族	知人	社協		区内部の関係機関		民生・児童委員	民間事業者	ハローワーク	その他*3
	来所	電話	メール			福祉資金	その他*1	福祉事務所(相談係)	その他*2				
663	199	234	3	45	15	15	8	54	21	6	12	11	40
100%	30%	35.3%	0.4%	6.8%	2.3%	2.3%	1.2%	8.1%	3.2%	0.9%	1.8%	1.7%	6%

\*1 その他 社協代表窓口、ボランティア・地域福祉推進センター、地域生活支援センター等

\*2 その他 保健相談所、国保収納課、高齢者相談センター等

\*3 その他 他区市町村自立相談支援機関、病院、地域活動団体、区議、不動産会社、都税事務所、多重債務相談窓口等

初回の相談は本人からの相談が最も多い。また、本人を除くと福祉事務所の相談係から紹介を受け相談につながる方が多かった。経済的な課題を含めて、生活費や住まいに関する事など、生活全般に関する相談のため、福祉事務所との連携を取りながら支援を行っている。

ウ. 相談内容（相談者 663 名）※複数回答

病気・健康・障害	住まい	収入・生活費	家賃・ローンの支払い	税金・公共料金等の支払い	債務	仕事探し・就職	仕事上の不安・トラブル	地域との関係	家族関係・人間関係	子育て	介護	引きこもり・不登校	DV・虐待	食べるものがない	その他
130	163	465	200	79	54	216	27	5	46	15	13	22	9	10	84

※新規相談者 1人当たりの相談内容件数：2.3件

相談内容は離職・病気等により収入がなくなったり減少した方や、日々の生活費が不足しての相談が多かった。また、離職後の仕事探しの相談や債務、滞納等の課題を併せ持つ方もみられた。

**(5) 課題が改善された事例（一例）**

ア. 住居確保給付金を受給しながらハローワークと連携して支援することで就職に結びついた。

イ. 住民税を滞納し当センターにつながった相談者の家計の収支を一緒に確認した。家計表を作成し、収支を見直すことで住民税の支払いを計画的に行うことができるようになった。

ウ. 障害年金の申請に関して年金事務所への同行や助言等を行うことにより、障害年金の受給につながった。

エ. 体調を崩し離職した方に傷病手当金の申請の案内や助言を行い、傷病手当金の受給につながった。

## 2. 広報周知

社協や行政機関のホームページや広報誌、民生・児童委員協議会や町会への会合等に参加して当センター事業の案内をした。その他、関係機関の実施する会議への参加、社会福祉法人や民間事業所、地域活動団体等への個別訪問などを行い、センターの周知を行った。

## 3. 生活困窮者自立支援法に基づく事業〔練馬区からの受託事業〕

平成 27 年度は自立相談支援事業と住居確保給付金に関する相談支援等を受託し、相談支援を行った。

### (1) 自立相談支援事業

経済的だけでなく複合的な課題を持つ生活困難な方に対し、抱えている課題とニーズの把握などのアセスメントの実施や、自立に向けたプランの作成等の支援を行い、継続的な相談支援を実施した。福祉事務所とも定期的な情報交換を行い、連携して相談者への支援を行った。

債務問題や収支のバランスに課題を抱える世帯には家計表の作成、公的制度の利用支援、弁護士相談等の関係機関へのつなぎを行うとともに、必要に応じて生活福祉資金を含む貸付等の情報提供を行った。

### (2) 「住居確保給付金」に関する相談支援等

平成 26 年度までは住宅支援給付として総合福祉事務所で行っていた相談支援等を引き継ぎ、あらたに平成 27 年度から「住居確保給付金」に関する相談支援等を行った。

離職により住宅を失った又はそのおそれが高い生活困窮者であって、収入等が一定水準以下の就職を目指す方に対して、期間を定め「住居確保給付金」に関する相談、申請受付、就労支援を行った。就労支援に関しては就労応援ねりま(ハローワーク)と連携しながら取り組んだ。

住宅支援給付受給継続者 13 名 延べ支援件数 463 件

住居確保給付金申請者 21 名 延べ支援件数 926 件

### (3) 支援調整会議の実施

自立相談支援事業のプランの内容が適切なものであるか、合議体形式で判断し、関係機関と役割分担等共通認識を持つ機会とした。また、支援の継続や終結についても判断した。毎月 1 回開催しプランについて決定、確認を行った。プラン策定件数 54 件(再プランも含む)

## 4. 地域のネットワークづくり

### (1) 運営委員会の開催

生活困難者の支援を行っている様々な分野の関係者で委員会を構成し、事業や運営方法の検討、事業実施によって明らかになった地域課題の共有・情報交換を行い、生活困難者を支える地域づくりについて話し合った。

	開催日時	内容
第 1 回	平成 27 年 6 月 8 日 14 時～16 時	・実績報告、事例報告 ・地域のネットワークづくりについて
第 2 回	平成 27 年 9 月 9 日 14 時～16 時	・社会貢献事業におけるネットワークづくりに向けた取り組みについて
第 3 回	平成 27 年 12 月 14 日 15 時～17 時	・社会福祉法改正に伴う練馬区社協の今後の取り組みについて
第 4 回	平成 28 年 3 月 14 日 14 時～16 時	・平成 28 年度事業計画について ・意見交換等

### (2) 社会福祉法人や地域の関係団体との連携

練馬区社協が実施する「社会福祉法人等の社会貢献事業におけるネットワークづくりに向けた連絡会」に担当者として加わり、法人の連携の方法、社会貢献への提案など現場の相談状況を伝えた。また、連絡会にて当センターの相談から見える地域課題として、就労体験の場や子どもの学習支援、食糧支援などの必要性を説明した。

## 5. 組織運営

### (1) センター会議の実施

月に 2 回センター会議を開催し、職員全員で事業の進捗状況の確認、および情報共有を行い、センターの事業推進について話し合った。

## (2) 職員の資質向上を目的とした研修の実施・参加

多様な相談に対応できるよう、職員の専門性を高め資質向上を図るための研修を企画・実施した。また、東京都や生活困窮者自立支援関連団体等、他機関で実施される研修等にも積極的に参加するとともに、家計相談専門機関での現場研修を企画・実施した。

### ア. 生活サポートセンターが企画した研修

社会保障制度についてをテーマに、他の部署にも参加を呼びかけ実施した。

### イ. 実践研修

一般社団法人 生活サポート基金に依頼し、家計支援を中心とした実践研修を行った。

### ウ. 事業実施に関連し参加した研修

東京都、全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、生活困窮者自立支援全国ネットワーク、生活協同組合グリーンコープ連合等が主催する研修に参加した。

【資料】（平成 28 年 3 月 31 日現在）

理事（任期：28.2.7 から 30.2.6 まで）

氏名	選出分野	氏名	選出分野	氏名	選出分野
大江 義宏	会長、民生委員	渡邊 雍重	町会関係	明星 マサ	福祉施設
篠 利雄	副会長、産業経済	杉浦 剛	民生児童委員	本橋 正壽	学識経験
山浦 成子	副会長、ボランティア	小林 元子	学識経験	仲居 康雄	学識経験
木内 幹雄	副会長、産業経済	阿部 財智	産業経済	大羽 康弘	行政職員
田口 博一	民生児童委員	土田 秀行	福祉施設	室地 隆彦	練馬区社協常務理事

監事（任期：28.2.7 から 30.2.6 まで）

中川 剛（学識経験）	三橋 道子（学識経験）
------------	-------------

評議員（任期：28.2.4 から 30.2.3 まで）

氏名	選出分野	氏名	選出分野	氏名	選出分野	氏名	選出分野
内田 哲男	民生児童委員	横山 敏子	民生児童委員	重田 栄	福祉団体	見米 元秀	学識経験
辻 昌子	民生児童委員	栗原 秀雄	民生児童委員	三宅 陽子	福祉団体	羽生 慶一郎	行政職員
悴田 茂雄	民生児童委員	古畑 弘子	民生児童委員	古川 重子	福祉団体	山崎 直子	行政職員
寺沢 明子	民生児童委員	尾崎 勝美	民生児童委員	森山 瑞江	福祉団体	山田 達也	行政職員
石田 芳子	民生児童委員	赤沼 雅子	民生児童委員	高橋 八映	福祉施設	尾崎 寛之	行政職員
田中 敏	民生児童委員	大島 光昭	民生児童委員	林田 俊弘	福祉施設	桑原 修	行政職員
成尾 善子	民生児童委員	平野 文男	民生児童委員	勝又 勝	福祉施設	内野 ひろみ	行政職員
上野 和重	民生児童委員	加藤 和雄	民生児童委員	山本 雄一	ボランティア		
芹澤 考子	民生児童委員	加藤 政春	町会関係	布施美智子	報道関係		
齋藤 幸雄	民生児童委員	川島 一夫	福祉団体	秋山 勉	産業経済		

地域福祉活動計画策定・推進評価委員会委員（任期：27.4.1 から 30.3.31）

氏名	現職等	氏名	現職等
明星 マサ	副委員長 / つくりっこの家理事	森本 佳樹	委員長 / 立教大学教授(～H28.3.31)
飯村 史恵	立教大学准教授	山浦 成子	練馬区社協理事、 ボランティア・地域福祉推進センター運営委員長
河本 道雄	光が丘地区民生・児童委員協力員	山本 雄一	練馬区社協評議員、 NPO 法人シニアふれあい練馬代表
木内 幹雄	練馬区社協理事、東京商工会議所練馬支部副会長	森 純一	東京都社会福祉協議会
坂元 信幸	知的障害者通所授産施設 山彦作業所所長	大羽 康弘	練馬区健康福祉事業本部福祉部長
玉井 弘子	大泉学園まちづくりネット、主任児童委員	室地 隆彦	練馬区社協常務理事
林田 道子	しあわせ福祉ネット・関代表		

苦情解決第三者委員会委員（任期：27.11.27 から 29.11.26 まで）

岩本 康一郎（弁護士）	坂元 信幸（学識経験）	辻 昌子（民生児童委員）（～H28.11.30）
-------------	-------------	--------------------------

生活福祉資金調査委員会委員（任期：25.4.1 から 27.3.31 まで）

氏名	現職等	氏名	現職等
富永 愛子	委員長 / 民生児童委員	上山 浩司	司法書士
平野 文男	副委員長 / 民生児童委員	内田 哲男	民生児童委員
古賀 貢	練馬区商店街連合会	横山 敏子	民生児童委員
鈴木満里子	障害者福祉関係者	遠藤 裕子	練馬区健康福祉事業本部大泉総合福祉事務所長

ねりま歳末たすけあい運動推進委員会委員（任期：27.11.28から29.6.2まで）

東京都共同募金会練馬地区協力会 練馬地区配分推せん委員会委員（任期：27.6.3から29.6.2まで）

氏名	現職等	氏名	現職等
小美濃 千鶴子	委員長 元民生児童委員	山浦 成子	ボランティア・地域福祉推進センター運営委員長、練馬区社会福祉協議会理事
関口 嗣男	副委員長 元民生児童委員	近藤 優美	東京都社会福祉協議会
田口 博一	民生児童委員協議会代表副会長、練馬区社協理事	羽生 慶一郎	練馬区福祉部経営課長、練馬区社会福祉協議会評議員
渡邊 雍重	練馬区町会連合会会長、練馬区社協理事	室地 隆彦	練馬区社協常務理事
関口 和雄	練馬区障害者就労促進協合理事長		

練馬区立白百合福祉作業所運営協議会委員（任期：27.4.1から28.3.31まで）

氏名	所属等	役割等
小泉 郁弘	白百合福祉作業所利用者	
鶴野 瑛優美	白百合福祉作業所利用者	
阿部 多美子	白百合福祉作業所家族会	
荒井 久子	白百合福祉作業所家族会	
鈴江 育代	白百合福祉作業所家族会	
小笠原 和子	白百合福祉作業所家族会	
棚橋 義一	地域住民・ボランティア	
加藤 眞一	地域住民・ボランティア	
山崎 直子	練馬区障害者施策推進課長	
水元 幸子	練馬区障害者施策推進課就労支援係長	副委員長
椿 康宏	練馬区社会福祉協議会経営管理課長	
大垣 喜久江	白百合福祉作業所長	委員長
竹内 直美	白百合福祉作業所職員	
高橋 弘和	白百合福祉作業所職員	

練馬区立かたくり福祉作業所運営協議会委員（任期：27.4.1から28.3.31まで）

氏名	所属等	役割等
三戸 英一	大泉町3丁目町会長	
渡辺 芳江	かたくり福祉作業所家族会	副委員長
内田 百世	かたくり福祉作業所家族会	副委員長
廣渡 恭子	かたくり福祉作業所家族会	副委員長
篠原 勝	かたくり福祉作業所利用者	
山田 信明	かたくり福祉作業所利用者	
吉野 紀代子	地域住民・ボランティア	
齊藤 輝子	地域住民・ボランティア	
赤尾 眞司	練馬区立大泉第一小学校校長	
金子 陽介	練馬区立大泉町福祉園施設長	
山崎 直子	練馬区障害者施策推進課長	
水元 幸子	練馬区障害者施策推進課就労支援係長	
菊池 貴代子	かたくり福祉作業所長	委員長
出口 育代	かたくり福祉作業所職員	

豊玉障害者地域生活支援センターきらら運営委員会委員（任期：27.4.1から29.3.31まで）

氏名	所属等	役割等
明星 マサ	つくりっこの家クラブハウス理事	委員長
木内 知己	町会商店会関係	
国島 良臣	ボランティア	
佐藤 英明	NPO 法人練馬精神障害者家族会副理事長	
高梨 文雄	東京都精神障害者団体連合会代表	副委員長
田辺 安之	大泉病院地域医療連携室室長	
橋本 邦子	家族	
山田 直毅	町会商店会関係	
山崎 直子	練馬区障害者施策推進課長	
椿 康宏	練馬区社会福祉協議会経営管理課長	
岩田 敏洋	豊玉障害者地域生活支援センターきらら所長	

豊玉障害者地域生活支援センターきらら 練馬区障害者地域自立支援協議会専門部会委員  
（任期：27.4.1から29.3.31まで）

氏名	所属等	役割等
森山 瑞江	練馬手をつなぐ親の会会長	
田中 康子	練馬肢体不自由児者父母の会副会長	
佐藤 英明	NPO 法人練馬精神障害者家族会副理事長	
柴田 秀治	社会福祉法人江古田明和会えごのみ施設長	
田辺 安之	大泉病院地域医療連携室室長	
小嶋 康裕	練馬区立氷川台福祉園副園長	
飯島 佳代子	豊玉保健相談所地域保健係次席	
野口 一徳	練馬総合福祉事務所高齢者支援係長/地域包括支援係長	
酒井 英子	練馬総合福祉事務所高齢者支援係次席/地域包括支援次席	
中村 博志	中村橋福祉ケアセンター中途障害者通所事業管理者	
梅田 昌宏	練馬区障害者施策推進課事業計画担当係長	
松本 裕	練馬区障害者施策推進課事業計画担当係	
渡辺 美由樹	練馬区障害者施策推進課事業計画担当係	
椿 康宏	練馬区社会福祉協議会経営管理課長	
岩田 敏洋	豊玉障害者地域生活支援センターきらら所長	
岩崎 貴子	豊玉障害者地域生活支援センターきらら職員	

石神井障害者地域生活支援センターういんぐ運営委員会委員（任期：27.4.1から29.3.31まで）

氏名	所属等	役割等
長澤 泉	区内在住当事者	副委員長
松沢 勝	NPO 法人練馬精神障害者家族会理事長	
伊藤 郁子	茶道ボランティア（きらら・ういんぐ）	
佐藤 真須美	石神井町会婦人部会員	
藤田 庄子	特定非営利法人 NPO 福祉サロン代表	
鈴木 英典	ほっとすべーす練馬所長（就労継続支援 B 型事業）	委員長
山本 雄一	練馬区社会福祉協議会評議員、NPO 法人シニアふれあい練馬代表	
龜山 千恵子	練馬区立男女共同参画センターえる所長	
別司 新奈	NPO 法人サニーサイド ケアサポートサニーサイド	
山崎 直子	練馬区障害者施策推進課長	
椿 康宏	練馬区社会福祉協議会経営管理課長	
千葉 三和子	石神井障害者地域生活支援センターういんぐ所長	

石神井障害者地域生活支援センターういんぐ 練馬区障害者地域自立支援協議会専門部会委員  
(任期：27.4.1から29.3.31まで)

氏名	所属等	役割等
金井 仁夫	グループホーム和泉管理者	
古畑 弘子	練馬区民生児童委員協議会 石神井町・下石神井地区会長	
金杉 和夫	一般社団法人練馬区医師会理事	
鈴木 英典	ほっとすべーす練馬所長	
渡辺 智生	練馬山彦福祉会やまびこ三原荘サービス管理責任者・世話人	
飯島 又三	ワークショップ石神井所長	
田辺 安之	大泉病院地域医療連携室長	
熊谷 彰人	陽和病院相談室	
雄谷 江利子	慈雲堂病院地域連携推進部	
河野 広子	中部総合精神保健福祉センター地域体制整備担当係長	
徳永 ゆかり	石神井保健相談所地域保健係長	
林 優子	アドバイザー	
椿 康宏	練馬区社会福祉協議会経営管理課長	
千葉 三和子	石神井障害者地域生活支援センターういんぐ所長	
下川 ゆき子	石神井障害者地域生活支援センターういんぐ職員	

ボランティア・地域福祉推進センター運営委員会委員 (任期：26.4.1から28.3.31まで)

氏名	所属等	役割等
伊藤 郁子	ボランティアグループなしのみ代表、ママヘルプ代表	
河本 道雄	光が丘地区民生・児童委員協力員	
関 和子	スマートAT研究会代表	
森本 佳樹	立教大学コミュニティ福祉学部教授	副委員長
山浦 成子	練馬区社会福祉協議会理事、ねりま子育てネットワーク代表	委員長
永野 攝子	NPO法人むすび理事長	
玉井 弘子	大泉学園まちづくりネット、主任児童委員	
須藤 朔宏	しあわせ福祉ネット・関	
小林 ひろみ	練馬区練馬高齢者相談センター練馬区役所支所	
古橋 千重子	練馬区経営課長 (～27.3.31)	
羽生 慶一郎	練馬区管理課長 (28.4.1～)	
河島 京美	練馬区社会福祉協議会地域福祉課長	

権利擁護センターほっとサポートねりま運営委員会委員 (任期：26.4.1から28.3.31まで)

氏名	所属等	役割等
飯村 史恵	立教大学准教授	副委員長
明星 巖	社団法人成年後見センター「リーガルサポート」東京支部	
松澤 勝	NPO法人練馬精神障害者家族会 理事長	
土肥 尚子	東京弁護士会高齢者・障害者総合支援センター「オアシス」	委員長
中島 加代子	認知症の人を支える家族の会「木瓜の花」代表	
中村 妙子	社団法人東京社会福祉士会権利擁護センター「ばあとなあ東京」	
長谷川 和子	区立福祉園父母の会連絡会副代表	
小泉 晴子	NPO法人成年後見推進ネットこれから理事長	
古橋 千重子	練馬区経営課長 (～27.3.31)	
羽生 慶一郎	練馬区管理課長 (27.4.1～)	
河島 京美	練馬区社会福祉協議会地域福祉課長	

練馬障害福祉人材育成・研修センター運営協議会委員（任期：27.4.1 から 29.3.31 まで）

氏名	所属等	役割等
高山 直樹	東洋大学社会学部社会福祉学科教授	委員長
中島 修	文京学院大学人間学部人間福祉学科准教授	副委員長
中村 圭吾	株式会社ケアサービス伊東介護事業部事業課長・サービス提供責任者	※障事連
鈴木 英典	特定非営利活動法人ほっとすぺーす ほっとすぺーす練馬所長	※障事連
渡辺 智生	練馬山彦福祉会やまびこ三原荘サービス管理責任者・世話人	※障事連
的野 碩郎	練馬区視覚障害者福祉協会会長、練馬区障害者団体連合会会長	※※障団連
市川 明臣	練馬区聴覚障害者協会会長、練馬区障害者団体連合会副会長	※※障団連
松田 章子	有限会社 愛介護サービス 代表	※※※事連協
鴨治 慎吾	区内在住当事者	
長澤 泉	区内在住当事者	
日比野 敏子	当事者家族	
河野 敦子	練馬区社会福祉事業団サービス向上担当課課長 練馬介護人材育成・研修センター所長	練馬介護人材育 成・研修センター
山崎 直子	練馬区福祉部障害者サービス調整担当課長	行政
河島 京美	練馬区社会福祉協議会地域福祉課長	

※練馬区障害福祉サービス事業者連絡会

※※練馬区障害者団体連合会

※※※練馬区介護サービス事業者連絡協議会

生活サポートセンター運営委員会委員（任期：26.12.15 から 28.3.31 まで）

氏名	所属等	役割等
今井 伸	田園調布学園大学准教授	
藤田 孝典	NPO 法人ほっとプラス代表理事	
山本 悠一	弁護士	
大江 義宏	民生児童委員代表会長・保護司	
井口 正樹	民生児童委員・保護司	委員長
佐藤 多佳子	主任児童委員	
山浦 成子	練馬区社会福祉協議会理事、ねりま子育てネットワーク代表	副委員長
佐藤 礼子	ねりま若者サポートステーション所長	
中迫 誠	社会福祉法人練馬区社会福祉事業団大泉特別養護老人ホーム施設長	
宮原 恵子	練馬区健康部光が丘保健相談所長	
島添 悟亭	練馬区福祉施策調整担当課長（～H27.3）	
山田 達也	練馬区練馬総合福祉事務所長（H27.4～）	
河島 京美	練馬区社会福祉協議会地域福祉課長	

職員の配置状況（平成 28 年 3 月 31 日現在）

（単位：人）

	経営管理課					地域福祉課				合計
	総務係	白百合	かたくり	きらら	ういんぐ	ボラセン	ほっと	研修センター	生活 SC	
事務局長	1									1
課長	1					1				2
所長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9
主査									1	1
事務	常勤職員	8	1	1		7	5	1	5	28
	非常勤職員	6				7	3	2	1	19
支援員	常勤職員		6	12	5	5				28
	非常勤職員		5	5	2	2				14
作業員										0
看護師		1	1							2
栄養士			1							1
嘱託医		1	1							2
生活支援員（非常勤）							32			32
臨時職員	10	2	1	3	3	1	2			22
計	27	17	23	11	11	17	43	4	8	161

\*表の構成上、事務局長と経営管理課長は経営管理課総務係で、地域福祉課長はボランティア・地域福祉推進センターで人数をカウントしている。また、育児休暇等、休職中の職員も含まれる。